2020年度

履修の手引

大学院看護学研究科



目 次

I	教育研究上の目的	p1
Π	教育研究上の目標	p1
${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}$	大学院及び研究科等名称・英文表記	p1
IV	ポリシー	p1
V	授業時間	p2
VI	成績評価	p2
VII	修了要件	p2
VIII	学位	
IX	教員組織	p 3
[研	究指導スケジュール]	p 4∼p 6
[規	程等]	
履	修規程	p 7∼p 8
学	位規程	p 9
大	学院学則	p 10∼p 16
長	期履修に関する申し合わせ	p 17∼p 19
[シ	ラバス等]	
授	業科目表	p 21
シ	ラバス	p 22~71

奈良学園大学大学院 看護学研究科 看護学専攻

(2020年度)

I 研究科の教育研究上の目的

教育理念に基づき、在宅看護、育成看護、精神看護分野における専門性を深め、国内外で活躍することができる高度な看護実践者と看護の各分野における実践的教育の担い手及び研究者を育成することを目的とする。

Ⅱ 教育研究上の目標

- (1)地域医療を支える質の高い看護実践者の育成
 - ・看護実践のリーダーとして、高い倫理観をもち、チーム医療に求められる「実践力」「マネジメント力」「教育力」「研究力」を備えた高度な看護専門職として活躍する人材を育成する。
- (2) 最新の看護学教育を実践する教育者の育成
 - ・看護大学等で将来の医療を担う看護職者を育てるため、最新の知識と技術、研究力を もち、高い倫理観と責任感を備えた教育者としての人材を育成する。
- (3) 臨床から地域を包括する視野をもつ研究者の育成
 - ・保健医療分野での課題の解決に向けて、国際的視野をもって保健・医療・福祉システムを創造的に構築するため企画・調整・統括的能力を発揮できる研究者としての人材を育成する。

Ⅲ 大学院及び研究科等名称・英文表記

大学院名 奈良学園大学大学院 Graduate School of Naragakuen University

研究科名 看護学研究科 Graduate School of Nursing

課程名 修士課程 Master Course

専攻名看護学専攻Master Course of Nursing学位名修士(看護学)Master of Science in Nursing

IV ポリシー

<アドミッション・ポリシー>

- (1) 学修目標を明確にして主体的に学ぶことができる。
- (2) ヒューマンケアを提供する看護職としての資質を有している。
- (3)国際的視野に立ち、柔軟な発想と論理的思考で課題を探究する姿勢をもっている。

〈カリキュラム・ポリシー〉

- (1)看護学分野における高度な看護実践能力と教育研究能力を有する人材を育成するための教育課程を編成する。
- (2) 高度な看護実践能力と教育、研究の基盤となる専門的知識と学際性を備え、また、高い倫理観と国際性を養うため、基盤科目及び専門科目に区分した体系的な教育課程を編成する
- (3) 基盤科目では、専門の学習の深化と発展につながる基礎的理論及び研究技法又は国際的視野に立脚した最新の知識と科学的根拠に基づいた理論の教授に重点を置いた講義、演習を行う。
- (4)専門科目、研究科目として、講義、演習及び特別研究・課題研究を通し、高度な専門

的能力を養成する科目を設置する。なお、CNSを履修するコースには資格認定のための必要な科目を設置する。

(5) 主指導教員と副指導教員による複数の教員指導体制のもと、高度な看護実践に貢献できる論文又は課題研究の研究指導を行う。

〈ディプロマ・ポリシー〉

- (1)各専門分野における諸理論に精通し、臨床現場で生じている課題を科学的、論理的に解決する方法を修得し、質の高い看護実践力を有している。
- (2) 臨床で生じている課題について、研究手法を用いて科学的に探究できる能力を有している。
- (3)各専門分野において、臨床での看護実践を教育するための知識を有している。
- (4)高い倫理観をもち、臨床で生じる倫理的問題に対して、適切に判断し、調整する方法を見出す力を有している。
- (5) 看護実践及び教育、研究について、国際的視野をもち、保健医療チームにおけるリーダーとして、他のメンバーを尊重し、協働や連携を促進できるマネジメント力を有している。

V 授業時間

時限	時刻
1	9:00~10:30
2	10:40~12:10
3	13:00~14:30
4	14:40~16:10
5	16:20~17:50
6	18:00~19:30
7	19:40~21:10

※休講等連絡は、入学時配付のメールアドレスへ連絡します。

VI 成績評価

秀、優、良、可、不可をもって表わし、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とします。評価は100点をもって満点とし、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とします。

VII 修了要件

本大学院に2年以上在学し、所定の科目を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定します。

CNSを履修するコースにおいては、基盤科目16単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント12単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から4単位以上)、専門分野24単位以上(特論4科目8単位、演習2科目4単位、実習4科目10単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか1科目2単位選択)、研究科目から課題研究4単位を加え、合計44単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格することをもって修了要件とします。

VⅢ 学位

修士 (看護学)

IX 教員組織(令和2年4月1日現在)

専任教員

- 1 守本 とも子 教授(研究科長・学部長)
- 2 川野 雅資 教授 (CNS養成課程申請責任者)
- 3 吉村 雅世 教授
- 4 辻下 守弘 教授
- 5 服部 律子 教授
- 6 西薗 貞子 教授
- 7 堀内 美由紀 教授
- 8 柴田 政彦 教授
- 9 西川 隆
- 教授
- 10 伊藤 健一 教授
- 11 松浦 純平 准教授
- 12 美甘 祥子 准教授
- 13 芝田 ゆかり 准教授
- 14 小林 由里 准教授
- 15 西出 順子 講師

兼担教員

- 教授 副学長 16 金山 憲正
- 17 野中 紘士 講師
- 18 吉川 義之 講師
- 19 前田 吉樹 助教
- 20 齋藤 英夫 助教

兼任講師

- 21 中川 晶
- 22 平野 文男
- 23 小林 和彦
- 24 三田村 七福子
- 25 五味田 裕
- 26 峰 博子
- 27 辻川 真弓
- 28 吉田 和枝
- 29 竹内 佐智恵
- 30 福録 恵子
- 31 丸尾 智実
- 32 新谷 奈苗
- 33 上野 栄一
- 34 村岡 潔
- 35 市村 由美子
- 36 山口 求

研究指導のスケジュール(2年で修了する場合)

年	次	学生	指導教員	教授会(研究科委員会) 学位論文審査委員会	
受駗	へ連絡・相談する。		・研究計画、実務経験等をもと に、指導教員の選択について助 言する。	丁止幅入街县安兵公	
1年	次 月				
前期	4	・希望する研究領域、主指導教員・副指導教員を研究科委員会へ提出する。	・ガイダンスの実施 ・担当学生の研究課題を決定 し、研究科委員会へ通知する。 ・指導教員は学生に応じた受講 科目を指導する。	・研究科委員会は指導教員を決定し学生へ通知する。	
	5 ~	研究課題に添って研究計画の立 案	・研究計画の立案を指導する。		
後期	10 ~	・研究倫理審査申請書を作成・申請し承認を得る。 ・研究計画に従い研究を遂行する。 1年次	・研究倫理審査委員会に提出する審査申請書の作成・審査・承認を得る。	・審査申請書を受理し、審査、承認する。	
	1	・予備実験、調査等を実施する。	 ・研究の進行状況を確認する。		
2 年	次				
前	4	2年次(~9月) ・本研究を開始し、研究成果をま とめる。	・指導教員はセミナーにおい て、研究遂行と研究成果のまと め方を指導する。		
期	6		・研究の進行状況を確認する。		
	7		・発表内容の問題点等を指摘し 解決方法について指導する。	・指導教員以外から主査 1 名、 副査 2 名を決定し、学生へ通知 する。	
		中間発表会			
	10	論文の作成開始 (中間発表の指導を踏まえ、論文をまとめる) 問題点の指摘を受けて、追加実験・調査、分析等を行う。 10月~1月 ・修士論文を作成する。	 ・主査、副査は発表内容について指導する。 ・指導教員は、主査・副査から指摘された問題点の解決方法について指導する。 10月~1月 ・修士論文を指導する。 	・公開の中間発表を開催する。	
			論文発表会		
後期	1	・論文、論文要旨を提出する。 ・学位論文審査申請書を提出する。 ・主査、副査、指導教員の指導を 受けて論文を完成させる。	・主査、副査は発表内容について指導する。 ・指導教員は、主査・副査から 指摘された問題点の解決方法 について指導する。		
	2	・学生は、完成させた論文を所定の期日(2月上旬)までに提出する。 ・修士課程の修了および学位授与	・主査及び副査は提出された論 文を審査するとともに、最終試 験を行い、これらの結果を研究 科委員会に報告する。最終試験 は、提出された論文の内容およ び専門領域に関する学力につ いて行う。	・研究科委員会は主査及び副査による論文の審査および最終試験の判定結果並びに当該学生の単位取得状況により修士課程の修了について合否を判定する。 ・学位の授与は学位記を交付し	
	3	・ドエ咪性ツド」ねよい子仏仗子		・字位の授与は字位記を父付して行う。	

研究指導のスケジュール(長期履修生3年で修了する場合)

年	次	学生	研究指導員	教授会(研究科委員会) 学位論文審査委員会
受験前		・希望する修士論文の主指導 教員へ連絡・相談する。	・研究計画、実務経験等をもと に、指導教員の選択について助 言する。	1 Emily B Exx
1年	次			
	月			
前期	4	・希望する研究領域、主指導教員・副指導教員を研究科委員会へ提出する。・講義科目を履修	・ガイダンスの実施 ・担当学生の研究課題を決定 し、研究科委員会へ通知する。	・研究科委員会は指導教員を決定し学生へ通知する。
後期	10	・講義科目を履修		
2年	次			
前期	4	・研究課題に添って研究計画の 立案	・研究計画の立案を指導する。	
後期	10 ~	・研究倫理審査申請書を作成・申請し承認を得る。・研究計画に従い研究を遂行する。2年次・予備実験、調査等を実施する。	・研究倫理審査委員会に提出する審査申請書の作成・審査・承認を得る。	・審査申請書を受理し、審査、承認する。
	1		・研究の進行状況を確認する。	•
3年	次		,	,
前	4	3年次(~9月) ・本研究を開始し、研究成果を まとめる。	・指導教員はセミナーにおいて、研究遂行と研究成果のまとめ方を指導する。	
期	6 7		・研究の進行状況を確認する ・発表内容の問題点等を指摘し 解決方法について指導する。	・指導教員以外から主査1名、副 査2名を決定し、学生へ通知する。
			中間発表会	
	10	論文の作成開始 (中間発表の指導を踏まえ、論文をまとめる) 問題点の指摘を受けて、追加実験・調査、分析等を行う。 10月~1月 ・修士論文を作成する。	・主査、副査は発表内容について指導する。 ・指導教員は、主査・副査から 指摘された問題点の解決方法 について指導する。 10月~1月 ・修士論文を指導する。	・公開の中間発表を開催する。
後			論文発表会	
期	1	・論文、論文要旨を提出する ・学位論文審査申請書を提出する。 ・主査、副査、指導教員の指導 を受けて論文を完成させる。	・主査、副査は発表内容について指導する。 ・指導教員は、主査・副査から 指摘された問題点の解決方法 について指導する。	
	2	・学生は、完成させた論文を所 定の期日 (2 月上旬) までに提 出する。	・主査及び副査が論文を審査し、最終試験を行い、研究科委員会に報告する。最終試験を行う。	・研究科委員会は主査及び副査に よる論文の審査および最終試験の 判定結果並びに当該学生の単位取 得状況により修士課程の修了につ いて合否を判定する。
	3	修士課程の修了、学位授与		・学位記を交付する。

研究指導のスケジュール(CNS を履修するコース)

				教授会 (研究科委員会)	
年	次	学生	指導教員	学位論文審査委員会	
受験前		・希望する主指導教員へ連絡・相談する。	・研究計画、実務経験等をもとに、 指導教員の選択について助言す る。		
1年	次 月				
前期	4	・希望する研究領域、主指導教員・ 副指導教員を研究科委員会へ提出 する。・対象者への実習記録に関する許諾	・ガイダンスの実施・担当学生の研究課題を決定し、研究科委員会へ通知する。・指導教員は学生に応じた受講科目を指導する。・実習記録の許諾に関する指導を	・研究科委員会は指導教員を決定し学生へ通知する。	
	7	を倫理委員会に提出する。	行う。		
後	8 ~ 9	・精神看護学実習(アセスメント) ・精神看護専門看護師役割実習	・実習指導を行う。		
期	1 ~ 3	・直接ケア実習(2年次前期終了までの間の4週間)	・実習指導を行う。		
2年	次				
	4	・研究テーマの決定 ・研究計画書の作成 ・上級直接ケア実習(9月の間まで の2週間)	研究テーマ及び計画書について 指導する。実習指導を行う。		
前期	5	・倫理審査申請書提出 ・研究課題を深める。	・倫理審査申請書の指導をする。 ・研究の進行状況を確認する。	・倫理申請書を受理し、審査、承認する。	
	8 ~ 10	・文献検討 ・スーパーバイズを受ける。 	・研究テーマに即したスーパー ビジョンを行う。	・指導教員以外から主査1名、 副査2名を決定し、学生へ通 知する。	
		中間発表会			
	11	・課題研究論文 (リサーチペーパー) の作成を開始する (中間発表の指導を踏まえ、論文をまとめる) ・1月までに課題研究論文 (リサーチペーパー) を完成させる。	・主査、副査は研究テーマに即して課題研究論文(リサーチペーパー)作成の指導をする。 ・指導教員は、主査・副査から指摘された問題点についてスーパーバイズを行う。	・公開の中間発表を開催する。	
			論文発表会		
後期	1	・課題研究論文(リサーチへ゜ーハ゜ー)、論 文要旨を提出する。 ・学位論文審査申請書を提出する。 ・主査、副査、指導教員の指導を受 けて論文を完成させる。	・主査、副査は発表内容について 指導する。 ・指導教員は、主査・副査から指 摘された問題点の解決方法につ いて指導する。		
	2	・学生は、完成させた課題研究論文 (リサーチペーパー) を所定の期日 (2月 上旬) までに提出する。	・主査及び副査は提出された課題研究論文(リサーチへ゜ーハ゜ー)を審査するとともに、最終試験を行い、これらの結果を研究科委員会に報告する。最終試験は、提出された課題研究論文(リサーチへ゜ーハ゜ー)の内容および専門領域に関する学力について行う。	・研究科委員会は主査及び副 査による論文の審査および最 終試験の判定結果並びに当該 学生の単位取得状況により修 士課程の修了について合否を 判定する。	
	3	・修士課程の修了および学位授与		・学位の授与は学位記を交付して行う。	

奈良学園大学大学院履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は授業科目(以下「科目」という。)の履修方法等に関し、奈良学園大学大学院学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、必要な事項を定める。

(科目の開設)

- 第2条 学則第14条に基づき、毎学年の初めに科目の開設を行う。
- 2 科目の開設は、毎学年における授業科目、授業時間数及び授業担当教員を示すものとする。
- 3 精神看護学分野においては、高度実践看護師養成課程「CNSを履修するコース」を設け、そのコースの1学年の定員は2名とする。

(履修の登録)

- 第3条 学生は、履修しようとする科目について、各学期の初めにおいて指定された期日までに所 定の履修届を提出し履修科目の登録を行なわなければならない。
- 2 学生は、前項の履修登録をした後においては、履修登録した科目を任意に変更することができない。

(修了要件)

- 第4条 本大学院においては、基盤科目から必修6単位を含み10単位以上、専門科目から3つの分野のうち1つの分野を主たる分野として演習2単位を含む8単位以上及び他の分野から4単位以上の計12単位以上、研究科目から特別研究8単位を加え、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格することをもって修了要件とする。ただし、精神看護学分野の急性期精神看護学特論と地域移行支援精神看護学特論、実習科目は履修できないものとする。
- 2 CNSを履修するコースにおいては、基盤科目16単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント12単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から4単位以上)、専門分野24単位以上(特論4科目8単位、演習2科目4単位、実習4科目10単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか1科目2単位選択)、研究科目から課題研究4単位を加え、合計44単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格することをもって修了要件とする。

(履修の禁止)

- 第5条 次に揚げる科目は履修することができない。
 - (1) 履修登録をしていない科目
 - (2) 既に単位を修得した科目
 - (3)授業時間が重複する科目

(単位の認定)

第6条 各科目の単位の認定は、試験の成績により行い、合格者に所定の単位を与える。 (試験)

- 第7条 試験は、筆記試験、口述試験、論文提出その他とする。
- 2 試験は、原則として担当教員が実施する。

(受験資格)

第8条 履修する科目の出席時間数が、当該科目の授業時間数の3分の2以上出席した学生には、 その科目の受験を認める。ただし、出席時間数が3分の2以上に達しない者のうち、やむを得な い理由による欠席については、担当教員が受験資格を認めることがある。

なお、授業料を滞納している学生には全科目、受験資格を与えないものとする。

(追試験)

- 第9条 追試験は、急病その他やむを得ない正当な理由により試験を欠席した者に対して行う。
- 2 前項の規定により追試験を受けようとする者は、その科目の担当教員の許可を得たうえ、必要書類を添えて、追試験受験願を教務課へ提出するものとする。
- 3 第1項に規定する正当な理由及び第2項に規定する必要書類とは、次の各号によるものとする。
 - (1) 正規の通学手段による事故、悪天候等での遅延とし、必要書類は、事故証明書または遅延証明書等とする。
 - (2)病気、負傷等による通院及び入院とし、必要書類は、診断書等とする。

- (3) 忌引きとし、必要書類は、葬儀礼状等とする。
- (4) その他事情やむを得ないと認められるものとし、その日時に欠席しなければならなかったことを証明する文書等とする。

(再試験)

- 第10条 試験において不合格の評価を得た学生に対して1回を限度として再試験を実施すること ができる。
- 2 前項の規定により再試験を受けようとする者は、再試験手続き日に、再試験受験料を添えて、再試験受験願を教務課へ提出するものとする。
- 3 再試験の受験料は別に定める。

(再試験、追試験の成績の評価)

- 第11条 再試験の成績の評価は、可(60点)を最高点とし、担当教員が行うものとする。 また、追試験の成績の評価は、秀(90点)をもって満点とし、秀(90点)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。
- 2 2 人以上の教員により授業を分担する科目については、当該科目を分担する教員の合議により成績の評価を行なうものとする。

(最終試験の成績評価)

第12条 学則第22条での最終試験の成績は、合格又は不合格の評価をもって表す。

(試験における不正行為)

第13条 試験において不正行為があったときは、当該不正行為に係る科目の試験及び当該試験 期間中に既に受験した科目の試験は無効とし、当該試験期間中の以後の受験を認めないもの とする。

(再履修)

第14条 成績の評価が不合格となった科目について単位を修得しようとするときは、当該学期以 降に改めて履修届を提出し、再履修しなければならない。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、学 長がこれを定める。

附則

この規程は平成30年4月1日から施行する。

奈良学園大学大学院学位規程

(目的)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)、奈良学園大学大学院学則に基づき、奈良学園大学大学院(以下「本学大学院」という。)において授与する学位の種類、論文審査、その他学位に関して必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学大学院において授与する学位は、修士(看護学)とする。

(学位の授与)

第3条 学長は、広い視野に立って深い学識を修め、看護学における研究能力または高度な専門性を必要とする看護職者として高い能力を有する者に対し、本学大学院学則第23条の定めるところにより、所定の学位を授与する。

(学位の授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院学則第22条の定めにより課程の修了を認定された者に授与する。

(審香機関)

第5条 本学大学院における、論文審査及び申請手続きに関する事項の決定は、学長の付託に 基づき本学大学院学則第27条に定める研究科委員会が行う。

(論文審査の申請)

第6条 本学大学院学則第14条に定める論文の審査を申請できる者は、研究科委員会が本学大学院学則で定める修了の期日に修了し得ると認めた者で、かつ修了の期日まで在籍し得る者とする。

(申請方法及び申請書類)

第7条 修士課程に在籍する者が修士(看護学)学位の申請をするときは、所定の修士論文または 課題研究論文審査申請書に修士論文または課題研究論文4部を添え、所定の期日までに研究 科長を経て学長へ提出するものとする。

(申請の受付と受理の決定)

第8条 論文審査の申請があった場合には、学長はその審査を研究科委員会に付託する。(審査)

第9条 修士論文及び課題研究論文の審査は、主査1名、副査2名で行う。

2 研究科委員会は、主査および副査による論文の審査および最終試験の判定結果並びに当該 学生の単位取得状況により修士課程の修了について合否を判定する。

(学位の名称)

第10条 学位記を授与された者が、学位の名称を用いるとき、学位の次に(奈良学園大学)を附記 するものとする。

(学位授与の取消)

- 第11条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為をしたとき、または不正に学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会の議決を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させることがある。
- 2 研究科委員会において、前項の議決をするには、構成員の3分の2の出席と、出席者3分の2以上の賛成を必要とする。

(学位記の再交付)

第12条 学位記の再交付を受けようとするときは、その理由を具し、学長に願い出なければならない。

(規程の改正)

第13条 この規程の改正については、研究科委員会の議を経て、学長がこれを定める。 (雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、学位の授与に関して必要な事項は、研究科委員会の議を 経て、学長がこれを定める。

附則

この規程は平成30年4月1日から施行する。

附則

この規程は令和2年4月1日から施行する。

奈良学園大学大学院学則

制 定 平成30年 4月 1日 最近改正 -

第1章 総則

(大学院の目的)

第1条 奈良学園大学大学院(以下、「本大学院」という。)は、教育基本法及び学校教育 法の定めるところにより、奈良学園大学の建学の精神と教育理念に則り、学部における 一般的・専門的教養の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論とその応用を教授・ 研究し、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識と卓越した能力を 培い、もって社会の発展及び文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本大学院における自己点検・評価については、奈良学園大学学則(以下「本学学 則」という。)第2条の規定を準用する。

(情報提供)

第3条 本大学院における情報の公開については、本学学則第3条の規定を準用する。

第2章 組織及び修業年限、学年、学期及び休業日

(組織)

第4条 本大学院に修士課程を置く。

(研究科、専攻及び学生定員)

第5条 本大学院に置く研究科、専攻及びその学生定員は次の通りとする。

	, , ,	, , , ,	. , - 0
研究科名	専攻名	入学定員	収容定員
看護学研究科	看護学専攻	8人	16人

2 看護学研究科は登美ヶ丘キャンパスに置く。

(教育研究上の目的)

- 第6条 本大学院の研究科、専攻における教育研究上の目的は次の通りとする。
 - (1)看護学研究科看護学専攻

教育理念に基づき、在宅看護、育成看護、精神看護分野における専門性を深め、国内外で活躍することができる高度な看護実践者と看護の各分野における実践的教育の担い 手及び研究者を育成することを目的とする。

(修業年限)

第7条 本大学院の修業年限は、2年とする。

(在学年数)

- 第8条 学生は、4年を超えて在学することができない。ただし、第9条の規定する長期 履修を選択した学生(以下「長期履修学生」という。)は、5年を越えて在学することが できない。
- 2 前項の規定に関わらず、第33条の規定により入学した学生は、就業すべき年数に2年を加えた年数を超えて在学することはできない。
- 3 前2項に規定する在学期間には、休学期間は算入しない。 (長期履修学生)
- 第9条 研究科は、学生が職業を有している等の事情により、標準年限を超えて計画的に 教育課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を 認めることができる。
- 2 前項に関する必要な事項は、別に定める。 (学年)
- 第10条 本大学院の学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 (学期)
- 第11条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は前期の終期及び後期の始期を変更することができる。 (休業日)
- 第12条 休業日は、次の通りとする。ただし、夏期、冬期及び春期休業の期間は、年度 毎に定める学年暦によるものとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

大学創立記念日 11月1日

夏期休業

冬期休業

春期休業

2 前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を変更し、もしくは臨時に休業日を 設け、又は休業日に授業を設けることができる。

(授業期間)

第13条 1年間の授業を行う期間は、試験等の期間を含め、35週を下らないものとする。

第3章 教育課程及び教育方法

(教育課程)

- 第14条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び修士論文の作成等に関する指導により 行うものとする。
- 2 授業科目及び単位数は、別表第1の通りとする。
- 3 授業科目の履修方法その他の必要な事項は別に定める。 (単位の計算方法)
- 第15条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を もって構成する事を標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間 外に必要な学修等を考慮して、次の基準により算定するものとする。
 - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2)実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

(単位の授与)

- 第16条 各授業科目を履修し、その試験又は論文審査に合格した者には、学長は、認定の上、所定の単位を与える。
- 2 各授業科目について、所定の出席時間数に達した学生に限り、その授業科目を履修したものとみなす。

(成績の評価)

- 第17条 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可をもって表わし、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。
- 2 前項の評価は、100点をもって満点とし、秀 (90点以上)、優 (80点以上 90点未満)、良 (70点以上 80点未満)、可 (60点以上 70点未満)、不可 (60点未満)とする。 (本大学院以外の大学院の科目の履修)
- 第18条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の科目を履修させることができる。
- 2 前項の規定により学生が修得した授業科目の単位は、10単位を超えない範囲で本大学院における科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(本大学院以外の教育施設等における研究指導)

- 第19条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生に当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を、1年を超えない範囲で受けさせることができる。
- 2 前項の規定により受けた研究指導は、本大学院の修了要件となる研究指導として認め

ることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

- 第20条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、本大学院の入学前に他の大学院において履修した科目について修得した単位を、本大学院において修得した科目について修得したものとみなすことができる。
- 2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、第19条第2項の規 定により修得した単位と合せて10単位を超えないものとする。 (教育方法の特例)
- 第21条 本大学院において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他 特定の時間又は時期において、授業又は研究指導等により教育を行うことができる。

第4章 課程の修了及び学位の授与

(課程の修了)

- 第22条 本大学院に2年以上在学し、所定の科目を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定する。
- 2 前項に規定する修士論文の審査は、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、 特定の課題についての研究の成果の審査をもってこれに代えることができる。 (学位の授与)
- 第23条 学長は、前条による修了者に対し、修士(看護学)の学位を授与する。

第5章 教職員組織

(教員)

第24条 本大学院の授業及び研究指導は、大学院設置基準に規定する資格を有する本学の教員が担当する。ただし、研究科委員会の議を経て、兼任教員に授業の担当を委嘱することができる。

(事務組織)

- 第25条 本大学院に関する事務は、学部の事務組織がこれにあたる。 (研究科長)
- 第26条 本大学院の研究科に研究科長を置く。研究科長は研究科の学務を統督する。
- 2 研究科長は、研究科の担当教員のうちから学長が指名し、研究科委員会の委員長となる。
- 3 研究科長の任期は2年とし、再任を妨げない。 (研究科委員会)
- 第27条 本大学院に、研究科委員会を置く。
- 2 研究科委員会は、研究科長、研究科で授業等を担当する教員をもって構成する。
- 3 前項の規定に関わらず、研究科長は、他の職員を出席させることができる。
- 4 研究科委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 大学院の学則、その他諸規定の制定及び改廃に関する事項
 - (2) 研究科の課程及び学生の教育に関する事項
 - (3) 研究の指導及び論文の審査に関する事項
 - (4) 単位認定、課程修了認定並びに学位授与に関する事項
 - (5) 賞罰に関する事項
 - (6) 研究科担当教員の任用及び昇任に関する事項
 - (7) 研究科担当教員の審査基準に関する事項
 - (8) 学生の厚生補導及びその身分に関する事項
 - (9) その他大学院に関する事項
- 5 研究科長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。ただし、研究科長に事故ある ときは、研究科長があらかじめ指名した教授が議長となる。
- 6 その他研究科委員会に関する規則は、別に定める。

第6章 入学、退学、休学等

(入学の時期)

第28条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

- 第29条 本大学院に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
 - (1) 学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 文部科学大臣の指定した者
 - (5) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の 学力があると学長が認めた者
- 2 看護学研究科看護学専攻においては、看護師免許を取得している者 (入学志願)
- 第30条 本大学院に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出し なければならない。
- 2 提出の時期、方法、同時に提出すべき書類については、別に定める。 (入学者の選考)
- 第31条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。 (入学に関する手続き)
- 第32条 入学を許可された者は所定の期日までに指定する書類を提出するとともに、所 定の納付金を納入しなければならない。
- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。 (編入学及び転入学)
- 第33条 学長は、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選 考の上、相当年次に入学を許可することができる。 (退学)
- 第34条 退学しようとする者は、その理由を記載し、学長の許可を得なければならない。 (休学)
- 第35条 疾病その他やむを得ない理由により就学することができない者は、学長の許可 を得て休学することができる。
- 第36条 休学の期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、1年に限り延長することができる。
- 2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。
- 3 休学の期間は、第8条の在学年数には算入しない。 (復学)
- 第37条 休学期間満了のとき又は休学の期間中であってもその理由が消滅したときは、 学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

- 第38条 次の各号にいずれかに該当する者は、研究科委員会の議を経て学長が除籍する。
 - (1) 第8条に規定する在学年数を超えると認められる者
 - (2) 休学期間を満了し、復学を願い出ない者
 - (3) 死亡又は3ヶ月以上所在不明の者
 - (4) 履修科目登録をせず、連絡のない者
 - (5) 授業料の納付を怠り、督促に対しても納付しない者 (留学)
- 第39条 外国の大学院に留学することを志望する者は、学長の許可を得て留学すること ができる。
- 2 前項の留学期間は在学期間に含めることができる。

(再入学)

第40条 退学者及び第38条第4号又は第5号により除籍された者が、再入学を願い出 た場合は、学長が学年の始めに限りそれを許可することがある。

第7章 授業料等納付金、入学金及び入学検定料

(授業料等の金額)

- 第41条 本大学院の授業料等納付金は、別表第2の通りとする。
- 2 入学金及び入学検定料は、別表第3の通りとする。

(授業料等納付金の納入方法及び時期)

第42条 授業料等納付金等の納入金は、年額の2分の1ずつを2期にわけて納入し、納入時期は別表第4の通りとする。

(退学等の場合の授業料等)

第43条 学生が退学し、もしくは除籍された場合にあっても、当該期の授業料等を納入しなければならない。ただし、第38条第4号及び第5号の理由により除籍された者は、この限りでない。

(休学及び復学の場合の授業料等)

第44条 休学した者については、休学した期間の授業料等を免除又は減額することができる。ただし、学期の中途において休学した者は、原則当該期の授業料等を納入しなければならない。

(その他の費用)

- 第45条 授業料等納付金、入学金のほか実験実習費その他の教育に必要な費用を納入させることがある。
- 2 前項に定める納入金の種類及び納入に必要な手続き等については、別に定める。 (授業料等納付金の不還付)
- 第46条 既納の授業料等納付金は、原則として返還しない。ただし、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学の取消しを願い出た者については、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

(学費の延納等)

第47条 正当な事由により学費を延納又は分納しなければならなくなったときは、直ちにその旨届け出て許可を得なければならない。

第8章 賞罰

(表彰)

第48条 学業、操行ともに優秀な者又は特殊の善行があって他の模範となる者に対しては、学長は研究科委員会の議を経て表彰することができる。

(懲戒)

- 第49条 本大学院の規則等に違反し又は本学の学生として本分に反する行為があったと きは、学長は研究科委員会の議を経て懲戒する。
- 2 前項の懲戒は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当すると認められる学生に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくして出席が常でない者
 - (4) 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第9章 雑則

(学則の改廃)

第50条 本学則の改廃は、評議会及び研究科委員会並びに学長の承認を得て、理事会の 議を経て行うものとする。

附則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1

看護学研究科看護学専攻

科目区分		極楽到日のなみ	単位数	
		授業科目の名称	必修	選択
		国際医療特論	2	
		国際看護特論		2
		ヘルスプロモーション特論		2
		看護倫理特論	2	
	Ħ.	コンサルテーション論		2
	盤	看護理論特論		2
	基 盤 科 目	看護教育学特論		2
	Ħ	看護管理学特論		2
		臨床薬理学		2
		病態生理学		2
		フィジカルアセスメント		2
		看護研究特論	2	
	+-	在宅看護学特論 I (在宅看護学)		2
	人名	在宅看護学特論Ⅱ(慢性期)		2
	分看 難	在宅看護学特論Ⅲ(回復支援)		2
在宅看護学	き では、	在宅看護学特論IV(地域包括支援)		2
	-	在宅看護学特論演習		2
	去	育成看護学特論 I (発達支援)		2
	育成看護学	育成看護学特論Ⅱ(次世代育成支援)		2
	分 看 難	育成看護学特論Ⅲ(リプロダクティブヘルス・ケア)		2
	護 学	育成看護学特論IV(家族支援)		2
亩	,	育成看護学特論演習		2
門		精神看護学特論 I (歴史・法制度)		2
専門科目		精神看護学特論Ⅱ (精神・身体状態の評価)		2
Ħ		精神看護学特論Ⅲ (精神科治療技法)		2
	分	精神看護学特論IV(精神看護理論、援助技法)		2
	分 野 精	地域移行支援精神看護学特論		2
	(神	急性期精神看護学特論		2
	神看護学	精神看護学演習 I (精神科治療技法)		2
	S 学	精神看護学演習Ⅱ (精神看護理論、援助技法)		2
		精神看護学実習 アセスメント		2
		精神看護専門看護師役割実習		2
		直接ケア実習		4
		上級直接ケア実習		2
Zπ	加利 目	特別研究		8
4 升	究科目	課題研究		4

別表第2

授業料等納付金

費目	授業料・教育充実費 (年額)	
区分		
看護学研究科	750,000 円	

[※]CNS を履修するコースを選択する場合は、2年次において年額 100,000 円を追加する。

別表第3

入学金及び入学検定料

費目	入学金	入学検定料
区分		
本学卒業生	50,000 円	35,000 円
他大学等卒業生	200,000 円	35,000 円

別表第4

授業料等納付金の納入方法及び時期

区分	納入期限
前期(4月1日から9月15日まで)	4月中
後期(9月16日から翌年3月31日まで)	10 月中

奈良学園大学大学院における長期履修学生に関する申し合わせ

制 定 平成30年 6月 6日 最近改正

(趣旨)

第1条 奈良学園大学大学院学則(以下「学則」という。)第9条第2項に基づき、標準修業年限を 超えて計画的な教育課程の履修(以下「長期履修」という。)に関する取扱いについて必要な事項を 定める。

(申請資格)

第2条 長期履修の申請をすることができる者は、大学院の入学選考結果に基づき合格となった者であって、原則として、職業を有している等の事情により標準修業年限での修業が困難である者とする。

(申請)

第3条 長期履修を申請する者は、出願時に申し出なければならない。

(申請の許可)

- 第4条 前条の申請に対しては、研究科委員会の議を経て、学長が許可する。
- 2 研究科長は、前項の承認及び許可にあたり、各年次の履修単位の上限を設けることができる。 (長期履修期間)
- 第5条 長期履修が認められる期間(以下「長期履修期間」という。)の限度は、3年とする。なお、 在学できる年数は、学則第8条第1項及び第2項に定める在学期間内とする。
- 2 長期履修は1年を単位とし、学年の途中から開始することはできない。
- 3 長期履修期間の延長は、認めない。

(授業履修の指導)

第6条 指導教員は、長期履修学生の履修期間に授業履修が計画的に行われるよう必要な指導を行う ものとする。

(長期履修期間の短縮)

- 第7条 長期履修を許可された者(以下「長期履修学生」という。)が、事情の変更等により長期履 修期間の短縮を希望する場合は、1年次の12月中に指導教員と相談の上、長期履修期間短縮願を 提出しなければならない。
- 2 前項の願については、研究科委員会の議を経て、学長が許可する。
- 3 長期履修期間の短縮は、在学中1回に限る。 (授業料)
- 第8条 授業料は、標準年限に納入すべき授業料等の額(年額×2)を長期履修が認められた3年で除した額とする。
- 2 諸費等については、各年度に通常の在学生と同額を徴収するものとする。
- 3 長期履修を許可した場合は、標準修業年限を超える履修期間については授業料等を徴収しないものとする。
- 4 許可された長期履修期間を超えた場合は、通常の在学期間の授業料等を徴収するものとする。
- 5 長期履修の短縮が認められた場合は、本来授業料等との差額を徴収するものとする。 (雑則)
- 第9条 この申し合わせに定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、研究科委員会において、 別に定めることとする。

(改廃)

第10条 この申し合わせの改廃は、研究科委員会の議を経て、学長がこれを行う。

附則

この申し合わせは、平成30年6月6日から施行し、平成30年度に研究生となる者から適用する。

長期履修申請書

令和	年	月	日
11 (11)		/1	\vdash

奈良学園大学 学長 様									
			学	りがな	又は受	験番号			
下記のとおり長期履修	を申請しる	ます。							
			記						
1.入学(予定)年度	令和	年度							
2.長期履修申請期間	令和	年 月	日	~ 令和	年	月	日 (年間)	
3.申請理由 □仕事の都合	□介護のア	ため 口育	児のため	□ そ □ そ □ で	の他				
長期履修が必 (例) 職業を					【困難7	なため			
4 屋校計画									

4.履修計画

履修計画を簡潔に記入してください。

(例) 職業を有しており、通常の在学期間での修了困難なため

1年目:基盤科目○単位の履修・修士論文の研究 2年目:専門科目○単位の履修・修士論文の研究 3年目:専門科目○単位の履修・修士論文の作成

長期履修期間短縮願

令和 年 月 日

奈良学園大学 学長 様

					学籍 ふり氏	がな 名:_				
下記の理由により、長期	阴履修期間	引を短縮	首したい	いの	で、	許可くた	ごさる	ようお願	質いします。	
				記						
1.入学年度	令和	年度								
2.許可済の履修期間	令和	年	月	日	\sim	令和	年	月	日	
3.短縮後の履修期間	令和	年	月	日	\sim	令和	年	月	日	
4.長期履修期間短縮理由										
5.短縮後の履修計画										
6.指導教員の所見										
							指	導教員名	7	f印

奈良学園大学大学院 看護学研究科看護学専攻 教育課程科目表 (2020 年度) 2020. 4.12 現在

	区	分	科目名	科目責任者	単 位 数	配当年次	時間	引数	★	CNS 必 研究科	択科目 修科目 ·必修科目 ·選択科目	CNS 区分
01	基	ţ	国際医療特論	守本	2	1前	15	30		*	必修	
02	基盤 和 E	ž ¥	国際看護特論	守本	2	1後	15	30		☆		
03	Ė	i	ヘルスプロモーション特論	辻下	2	1後	15	30		☆		
04			看護倫理特論	守本	2	1前	15	30	0	*	必修	共A
05			コンサルテーション論	川野	2	1・2前	15	30	0	☆	CNS	共A
06			看護理論特論	守本	2	1後	15	30	0	☆	2 科目	共A
07			看護教育学特論	山口	2	1後	15	30	0	☆	4 単位以上	共A
08			看護管理学特論	小林	2	1後	15	30	0	☆	選択	共A
09			臨床薬理学	五味田	2	1・2後	15	30	•	☆		共B
10			病態生理学	五味田	2	1・2前	15	30	•	☆	CNS 必修	共B
11			フィジカルアセスメント	松浦	2	1・2前	15	30	•	☆		共B
12			看護研究特論	吉村	2	1前	15	30	0	*	必修	共A
13	車	在	在宅看護学特論 I (在宅看護学)	守本	2	1前	15	30		☆		
14	専門科	宅手	在宅看護学特論Ⅱ(慢性期)	守本	2	1前	15	30		☆		
15	目	護	在宅看護学特論Ⅲ(回復支援)	辻下	2	1後	15	30		☆		
16		在宅看護学分野	在宅看護学特論IV(地域包括支援)	守本	2	1後	15	30		☆		
17		野	在宅看護学特論演習	守本	2	2 前	15	30		☆		
18		杏	育成看護学特論 I (発達支援)	美甘	2	1前	15	30		☆		
19		育成看護学分野	育成看護学特論Ⅱ(次世代育成支援)	服部	2	1前	15	30		☆		
20		有護	育成看護学特論Ⅲ(リプロダクティブヘルス・ケア)	服部	2	1後	15	30		☆		
21		字分	育成看護学特論IV(家族支援)	服部	2	1後	15	30		☆		
22		野	育成看護学特論演習	服部	2	2前	15	30		☆		
23		业主	精神看護学特論 I (歴史・法制度)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	
24		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅱ(精神・身体状態の評価)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	C
25		看 護	精神看護学特論Ⅲ(精神科治療技法)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	S
26		学	精神看護学特論IV(精神看護理論、援助技法)	川野	2	1後	15	30	•	☆	CNS 必修	神
27		野	地域移行支援精神看護学特論	川野	2	1後	15	30	0	☆	CNS1 科目	看
28			急性期精神看護学特論	川野	2	1後	15	30	0	☆	2 単位選択	等
29		•	精神看護学演習 I (精神科治療技法)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	- 攻 - 教
30		ŀ	精神看護学演習Ⅱ(精神看護理論、援助技法)	川野	2	1後	15	30	•	☆	CNS 必修	CNS精神看護専攻教育課程
31		ŀ	精神看護学実習 アセスメント	川野	2	1前	45	90	•	☆	CNS 必修	程
32		ŀ	精神看護専門看護師役割実習	川野	2	1後	45	90	•	☆	CNS 必修	1
33		ŀ	直接ケア実習	川野	4	1後-2前	45	180	•	☆	CNS 必修	1
34		ŀ	上級直接ケア実習	川野	2	2通	45	90	•	☆	CNS 必修	1
35	科	EIL.	特別研究	守本	8	1-2 通	15	120	_	☆	修士選必	
36	目	究	課題研究	川野	4	2通	15	60		☆	CNS 選必	
計			57 37 had - 77 77 hd	7:164					38	44	5 AZAL	

基盤科目から必修6単位を含み10単位以上、専門科目から3つの分野のうち1つの分野を主たる分野として演習2単位を含む8単位以上及び他の分野から4単位以上の計12単位以上、研究科目から特別研究8単位を加え、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、精神看護学分野の急性期精神看護学特論と地域移行支援精神看護学特論、実習科目は除く。

CNSを履修するコースにおいては、基盤科目 16 単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント 12 単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から 4 単位以上)、専門分野 24 単位以上(特論 4 科目 8 単位、演習 2 科目 4 単位、実習 4 科目 10 単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか 1 科目 2 単位選択)、研究科目から課題研究 4 単位を加え、合計 44 単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

科目名			国際医療特論		01					
担当教員		字术								
				业在产	1 /T:					
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年 講義					
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	(一部演習)					
単位区分	必修	単位数		2 単位						
授業の概要	国際性を育むために、諸 ケア・サービス・制度を	国際的な視点から常	羊ぶ。							
授業の目標	1. ケア・サービスを受け 2. グローバルな視点で、									
育成する能力	諸外国の医療制度や看護		養や医療を多角的に 扱	₽える教育力を修得 [→]	する。					
	1 医療・看護の国際化				(堀内)					
	2 タイ王国における医	療制度と看護の実際	ž		(守本)					
		タイ王国における、ケア・サービスを受ける受け手の視点に立った医療制度と看護の優れてい								
授業計画	3 ことと課題 (守本) 4 英国における医療制度と看護の実際 (堀内)									
	5 英国における、ケア・サービスを受ける受け手に視点に立った医療制度と看護の優れていることと 課題 (堀内)									
	6 米国における医療制	度と看護の実際			(堀内)					
	7 米国における、ケア 課題	サービスを受ける。	受け手の視点に立った	た医療制度と看護の						
		からみるインドの医	療制度と看護の実際		(堀内)					
			おける、ケア・サービン	スを受ける受け手の	視点に立った医療					
	制度と看護の優れて 10 諸外国の医療制度と				(堀内)					
	11 諸外国のケア・サート 比較	ごスを受ける受け手	の視点に立った医療制	制度と看護の優れて	(堀内) いることと課題の (堀内)					
	12 海外赴任者の視点か	ら考える諸外国の医	療制度と看護							
	13 海外における保健・	医療・福祉・看護の	実際		(堀内)					
	14 海外におけるケア・	サービスの受け手の	立場からみた保健・	医療・福祉・看護の						
	15 ケア・サービスを受	ける受け手からみた	医療・看護の課題と	望ましい点	(堀内)					
テキスト ・参考書	国際医療論、日本放射紡	技師会出版会			\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \					
予習・復習に ついての情報	海外の保健・医療・福祉	・看護に関する英文	大資料・文献を調べる	00						
授業の形式	講義、討論、プレゼンテ	ーション、ゲストス	マピーカー							
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	課題レポート(80%)、プ	レゼンテーション(2	0%)							
その他										

					02						
科目名			国際看護特論								
担当教員		守	本とも子、堀内美由紀								
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年						
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)						
単位区分	選択	単位数		2 単位							
授業の概要	国際医療特論の学習を踏 るために必要な知識と技行 いて、国内外の文献検討る	析を学ぶ。文化的 を通して関心の	的背景や医療制度および ある健康問題を選択し、	福祉制度等から生 解決手法を探索す	じた健康問題につ						
授業の目標	1. グローバルな健康課題 2. 異なる文化的背景を打										
育成する能力	国内外の看護の現状や健康を持って看護問題の解説			舌動が展開できる能	力と、国際的な視						
	1 オリエンテーション グローバリゼーション	の看護に及ぼす	卡影響		(守本・堀内)						
	2 国際協力機関の役割				(守本)						
授業計画	3 開発途上国の看護の理	見状と課題			(守本・堀内)						
1文未訂四	4 先進国の看護の現状と										
	5 諸外国の福祉政策の理	見状と課題			(堀内)						
	6 タイ王国の福祉政策と	: 看護教育			(守本)						
	7 諸外国の終末期ケアの	現状と課題			(堀内)						
	8 英国におけるコミュニ	ニティケアの実際	祭と課題								
	9 諸外国の高齢者入居が	正設における看 詞	生		(堀内)						
	10 認知症ケアの国際比較	Ž			(堀内)						
	11 海外の医療機関で働く	• 外国人看護師	币との協働		(堀内)						
	12 異文化看護の理解① 文献検討を通して関心のある健康課題に関する解決手法を探索する (守本・堀内)										
	13 異文化看護の理解②	n k y 64 H 3m I	Z) HR]_ ~ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	+ 1. 7	(3 - 1 — ум. 3 /						
		10める健康課題	夏に関する解決手法を探	新する 	(守本・堀内)						
	14 異文化看護の理解③ 文献検討を通して関心	いのある健康課題	夏に関する解決手法を探	索する	(守本・堀内)						
	15 異文化看護の理解④ プレゼンテーション・	まとめ									
テキスト ・参考書	国際保健医療学,日本国際これからの国際看護学―			とも子監著.ピラ	(守本・堀内)						
予習・復習に ついての情報	海外の保健・医療・福祉	看護に関する。	文献を調べる。								
授業の形式	講義・討論・学生によるこ	プレゼンテーシ	ョン								
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(80%)、プレ	ゼンテーション	(20%)								
その他											

科目名		ヘル	 スプロモーション特論		03
担当教員			上下守弘、伊藤健一		
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	_	講義室	—	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数	2	単位	N11 427
	ヘルスプロモーションの 定	養、歴史、展開	見について解説した上で、生	活習慣病やメタ	
授業の概要	ついて学習する。レジスタ	ンストレーニン	らための要素(運動、栄養、 ⁄ グ、エンデュアランストレ	ーニング等の家	め果に関する理論
			習し、年齢・性別・健康状態 的に理解する。また、それら		
	指導するか、施設や用具の 1. ヘルスプロモーションの				
授業の目標	2. 現代社会と健康問題、健3. 身体活動と健康増進につ				
	4. 看護師として対象者に応	じた健康増進フ	プログラムの作成や指導がで		4.4. 畑 学 畑 染 ス 1
育成する能力	て行動変容理論を応用でき	る能力を育成す		める仲刀と連盟	7.生理子理論でし
	1 講義ガイダンス、現代	の健康問題とへ	ルスプロモーション		(辻下・伊藤)
	2 ヘルスプロモーション	の定義と歴史			(伊藤)
	3 ヘルスプロモーション	の展開方法			(伊藤)
授業計画	4 ヘルスプロモーション	計画の策定と討	論		(伊藤)
	5 神経系、骨格筋系と運	動			(辻下)
	6 呼吸器系、循環器系と	運動			
	7 内分泌系、エネルギー	代謝と運動			(辻下)
	8 女性の身体特性と身体	活動			(辻下)
	9 体力の測定と評価				(辻下)
	10 ウォーミングアップと	クーリングダウ	ンの実際		(辻下)
	11 レジスタンストレーニ	ングの実際			(辻下)
	12 エンデュアランストレ	ーニングの実際			(辻下)
	13 トレーニング実施上の	留意点			(辻下)
	 14 運動習慣形成のための	行動変容			(辻下)
	15 地域づくり型保健活動		ーション		(辻下)
テキスト			の行動分析入門』医歯薬出	版	(伊藤)
・参考書			マプロモーション』医学書院		
予習・復習に ついての情報	指定されたテキストを熟読 ること。	きするとともに、	毎回の講義内容に関連した	参考書で基本に	的な用語を理解す
授業の形式	テキスト、配付資料、視聴	意資料を用いた	二講義		
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	筆記試験 (80%) レポート	課題(20%)			
その他					
1	i				

41日 5					5.3# /△. TEP #+ 3/\			04			
科目名	<i>,</i> -t-,-t-	1, 3 7 16	立7分フェ		f護倫理特論	· [52] 注7]					
担当教員		ともナ、服奈苗、上野			付雅世、中川晶、村	回係、	1				
クラス				開講学期	前期		対象学年	1年			
曜日・時限		_		講義室	_		授業形態	講義 (一部演習)			
単位区分		必修		単位数		2 単位					
授業の概要	で看護職が め、臨床現 る能力を養 の意思決定	判断し行動 場で看護職 う。また、 の方法論に	していく が直面する 看護実践の ついて探究	さきに重要と る倫理的問題(D経験をもと) 記し、倫理調響	理をベースに看護倫 なる概念や倫理の原 こ、気付く能力、考 こ、看護倫理の持つ 整を行うために必要	則、倫理に 察する能力 意味を深く	関する理論(、調整する 探究し、様	の理解を深 能力、解決す 々な倫理面で			
授業の目標	2. 看護実践 3. 討論を通 4. 高度実践 係者間で	における倫 して倫理的 看護師とし 調整するこ	理的課題を 問題に対す て倫理的愿 とを学ぶ。	ける倫理調整(感受性を豊か)	のプロセスを理解す こし、看護現場にお	ける倫理的					
育成する能力	ントする力	を修得し、	様々な倫理	里問題を解決	直面する倫理問題に する能力を育成する		考察する力	、マネージメ			
	1			三義と歴史的紀	圣緯			(中川)			
	2 看i	2 看護倫理 看護場面での倫理的課題に気付く能力、考察する能力、調整する能力、解決する能力 (守本)									
授業計画	1	ラウマの定	義、トラウ		ームドケアの定義			(西薗)			
	自治	自分が所属する機関・部署、そして自分自身の中にあるトラウマインフォームドケアと非トラウマインフォームドケアについて討議する。倫理的感受性を豊かにし、臨床現場における倫理的な問題・葛藤について関係者間で調整することを学ぶ。 (西薗)									
	5 ターミナルケアと看護倫理 ターミナルケアでの家族を含めた医療者とコンセンサスを得ていくプロセスの調整 (上野)										
	6 生殖医療・胎児の人権 最新の生殖医療の現状を理解し、生殖医療の場における課題に気づき、誰にとっての人権な のかを医師、本人、家族、法曹関係者との間で問題を明確にする調整能力 (服部)										
	治の	7 告知とインフォームドコンセント 治療の選択権を生命保持と生活の質の葛藤から患者、家族の要望を十分に配慮して医療者と の間で患者、家族が決定していくプロセスを調整する能力 (西薗)									
				令者の権利と へ権が脅かさ	∃己決定権 ኂる状況の早期発見	と解決策を記	調整する能力	カ (吉村)			
	在	齢者・障害 宅における 整する能力	医療者の人	、権擁護とケン	アを受ける人とその	家族の人権的	侵害に気づる	き、解決策を (守本)			
	10 11 第		倫理的問題	. ,	的ジレンマの現状と 系者間で調整する。	解決方法に、	ついての討詞	(村岡)			
			発表 医療現場に	こおける倫理的	ウジレンマの現状と	解決方法に、	ついての計画	(村岡)			
	14		倫理的問題		系者間で調整する。	11FD()/1 IA(C	~ ✓ ✓ ✓ □ □ □ □	(新谷)			
	15 事作		発表	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				(新谷)			
テキスト ・参考書	看護倫理の				監修 医療 佐ナ. 土	・ラスへ劫な	2011 11 =				
予習・復習に	(事前学習	看護倫理の事例検討 杉谷藤子、川合政恵 監修 医療人権を考える会執筆 2011.11 看護協会出版 (事前学習) 新聞・TVなどで報道される倫理的問題についてレポートを作成する。									
ついての情報	1	(事後学習)授業・演習を通して、自身の倫理観がどのように変容したかをまとめる。 ************************************									
授業の形式 評価の方法 (講義(一部)) (百)									
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート(8)	0%)、プレ	ゼンテーシ	/ヨン (20%)							
<u>点</u> その他											
- 10	<u> </u>										

11 11 4				,, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		05					
科目名			コン	/サルテ―ション論							
担当教員				川野雅資							
クラス			開講学期	前期	対象学年	1・2年					
曜日・時限			講義室		一 授業形態 (一						
単位区分		選択	単位数		2 単位						
授業の概要	ションを	i職を含むケア提供者に □ンの意義、目的、概念で □:提供するのに必要なコン	を教授し、コン ンサルテ ー ショ:	サルティのニードを ンのモデル、役割と	理解し、求めている 技術を教授する。	コンサルテーショ					
授業の目標	ルデ 1. = 2. = 3. カ 4. リ	コンサルテーションの意義、目的、概念を理解しコンサルテーションに必要な技術を実施したコンサルテーションのスーパーバイズを受けて深める。 1. コンサルテーションの意義、目的、概念を理解する。 2. コンサルテーションの技術を理解する。 3. カプランのコンサルテーションの4つのモデルを理解する。 4. リピットとリピットのコンサルテーションの8つの役割を理解する。 5. 実施したコンサルテーションのスーパービジョンを受けて、自分の強みと課題を理解する。									
育成する能力	マネ	、ジメント力に不可欠な:	コンサルテーシ	ョンの知識と技術の	修得						
	1	コンサルテーションの意			. 声控をマの切出						
授業計画		コンサルテーション・リコンサルテーションの打問題の特定とアセスメン相談内容を特定する技術問題解決に必要な複数の解決策を実行に移せるよ	技法 / トに必要な技術 所) 選択肢を提案す	〒 ↑る技術	・但依グチの相選						
	3	カプラン4つのモデル(患者中心のコンサルテーション) 体験事例の報告									
		4 コンサルテーションのモデルの理解 カプランのコンサルテーションの4つのモデル(コンサルティ中心の事例のコンサルテーション) 体験事例の報告 5 コンサルテーションのモデルの理解									
		コンサルアーションのモカプランのコンサルテー体験事例の報告	/	モデル(管理中心の	コンサルテーション)						
		コンサルテ―ションのモ カプランのコンサルテー 体験事例の報告	-ションの4つの		ィ中心の管理のコンサ	ナルテーション)					
		リピットとリピットの: Adovocator, Informati 実践した事例を学習した	on Specialist,	trainer/Educator,		verの役割					
	8 リピットとリピットのコンサルテーションの8つの役割 Identifier of alternatives and Linker of Resources, Fact Finder, Process Counselor, Objective Observerの役割 実践した事例を学習した8つの役割のうちの4つに該当するか討議する。										
	10										
		学生が実施したコンサル ービジョンを行う。カフ	プランの4つのモ	デルとリピットとリ							
		プレゼンテーション・フ 提示したプレゼンテーシ	/ョンのロールフ	プレイングを行い、野	里論と実践を結び付 り	ける。					
			/ョンのロールフ	プレイングを行い、耳							
		提示したプレゼンテーションのロールプレイングを行い、理論と実践を結び付ける。 14 医師、薬剤師、社会福祉士、心理士、作業療法士、栄養士など他職種専門家へのコンサルテーション 精神看護専門看護師が他職種専門家に実施するコンサルテーションについて、その限界と有効性を体験事例を基に計議する。									
	15	体験事例を基に討議する。 15 入院の場と地域の場でのコンサルテーション 入院の場で行うコンサルテーションと地域の場で行うコンサルテーションの相違、注意点に関して 文献と実践体験を基に討議し、拡大する精神看護専門看護師のコンサルテーションを学ぶ。									
テキスト ・参考書		『雅資:改訂版コンサルテ グーウッド P. (1995):				o、インターナショ					

	ナルナーシングレビュー、18(5), 4-12 Lippitt G., Lippitt R. (1986):The Consulting Process in Action, Jossey-Bass Pfeiffer, San Francisco Caplan G(1970):The theory and practice of mental health consultation, Basic Books, ING., Publishers, New York Campbell D., Draper R., Huffington C. (1975):A Systemic Approach to Consultation, Karnac Books, London
予習・復習についての情報	日常の実践の場における現象をコンサルテーションという視点で分析する (事前学習) ①自分自身が実践したコンサルテーションをまとめておく。②改訂版コンサルテーションを学ぶを精読しておく。 (事後学習) 自分の組織で実践したコンサルテーションを学習した記録用紙にまとめ、可能な限り教員からスーパービジョンを継続的に受ける。
授業の形式	講義、討論、プレゼンテーション、ロールプレイング
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(80%)、プレゼンテーション(20%) 課題レポートは次の視点で評価する。 実践したコンサルテーションをカプランの4つのモデルで分析し(20%)、リピットらの8つの役割で分析し(20%)、受けたスーパービジョンの意味と自分の課題を文献を用いて考察し(30%)、今後、自分の臨床で期待されるコンサルテーションの役割について論述する(10%)。 プレゼンテーションは次の視点で評価する。 実践したコンサルテーションを記録用紙に則り理解しやすくまとめ(10%)、分かりやすく発表する(10%)。
その他	

					06						
科目名			看護理論特論								
担当教員			守本とも子、山口求	<u>.</u>							
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年						
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義						
単位区分	選択	単位数		2 単位							
授業の概要	の関係性について理解する。 らに、主な看護理論の比較 看護実践、看護教育、看護	。また、看護 分析を行い、 研究への応用		デンスについて けりかにするこ	明確にする。さ						
授業の目標	2. 看護理論を通して、看護 3. 主な看護理論の比較検討 4. 看護理論を実践に応用す	実践のエビデ を行い、それ ることができ	ぞれの理論構造と特性を明らる。	っかにする。							
育成する能力	成する。また、看護理論を 応用ができる能力を育成す	護理論を通して、看護のエビデンスを明確にし、看護理論を実践に応用することができる能力を育する。また、看護理論を分析し、理論構造と特性を明らかにすることで、看護教育、看護研究への用ができる能力を育成する。 ■看護に関連するパラダイム									
	「人間」「環境」につ 2 看護に関連するパラダ <i>/</i>	いて国内外 <i>σ</i> イム	関連諸理論を学び、看護学の関連諸理論を学び、看護学								
授業計画	3 先進国における看護理語 主としてイギリス、アク		景 理論の歴史的背景を理解する	0	(守本)						
	4 主要な看護理論の理解 ワトソン ヒューマング	I ケアリング			()						
	5 主要な看護理論の理解 ヒューマニステック・フ	П			()						
	6 主要な看護理論の理解 レーニンガー 異文化剤	Ш			(守本)						
	7 主な看護理論に基づいた	と実践への応	Ħ I		(守本)						
	8 主な看護理論に基づいた ヴァージニアA. ヘンタ	と実践への応			(守本)						
	9 主な看護理論に基づいた	と実践への応		助の技術」	(山口)						
	10 主な看護理論に基づいた	と実践への応	用 IV	. <i>9</i> 3°71X N1	(山口)						
	11 主な看護理論に基づいた シスター・カリスタ・ロ	と実践への応	Ħ V								
	12 主な看護理論に基づいた	と実践への応	Ħ VI	• 1	(山口)						
	13 主な看護理論に基づいた	と実践への応	−看護実践における基本概念 用 Ⅶ めの行動システムモデル」	Γ.	(山口)						
	「トロンーE. ションク。 14 主な看護理論に基づいた。 ジョイス・トラベルビー	と実践への応	Ħ VIII		(山口)						
	15 主な看護理論に基づいた	と実践への応	Ħ IX		(山口)						
テキスト ・参考書		ローチ」ピラ	看護舗」 ールプレス 2010年 監修: た看護実践のためにー」ピラ								
予習・復習に ついての情報	(事前学習)これまでの看 おく。		で、どのような看護理論が、 臨床場面で活用したことを記		ハたかをまとめて						
授業の形式	講義										
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート(100%)										
その他											
F	•										

科目名				看護教育学特論		07					
担当教員			山口	求、西薗貞子、金山憲正							
クラス	_		開講学期	後期	対象学年	1年					
曜日・時限	_		講義室	—	授業形態	講義					
単位区分	選択	ı	単位数		2 単位	HT 4X					
平位四月			, ,—,,,	職への教育的働きかけ、		こと、看護の継続教					
授業の概要	育に関する知識継続教育に応用	と技術を教持 できる能力を	受する。教育	学の原理を踏まえ、教育 継続教育の現状と課題、4	方法の理論と技法	ら、評価方法を学び					
授業の目標	 教育学につい 看護教育につ 教育方法の理 教育プログラ 保健医療福祉 	いて理解する 論と技法を理 ムの評価を理	理解する。 理解する。	数育を推進することを理解	解する。						
育成する能力	看護教育や看護	看護教育や看護の継続教育に関する教育力を修得する。									
	1 教育学の考え方、物の見方 職業的な看護教育から看護教育学への学問的変遷と、各領域の教育に共通する普遍的な要素につい て講義する。 (山口) 2 看護教育が目指すこと、看護教育に必要な知識と能力について講義し、実践力としての自己効力										
授業計画	感、エンパワーメント力について考える。 (山口) 基礎教育と専門教育の目的と社会のニードについて講義し、看護教育課程について追究する。 (金山)										
7文未訂四	4 学習理論について、先人の理論を用いて講義する。										
		力とその教授 ち方について		生を発揮するための要素を	で可視化するための	(金山) の方法論を提示し、 (山口)					
		力を看護の継		戈する方法を事例を用いて	、講義し、各々の置						
	7 学習形態と	教授方法	設備。教育技	旦当者を支援する技法を獲	養得するための方	法について考える。 (西薗)					
	8 教育の量的	・質的評価の	方法と実践に	こついて講義し追究する。		(西薗)					
	9 継続教育と	予算、看護管	理上の問題と	この調整について講義し追	皇究する。	(西薗)					
	10 根拠に基づ	く動機づけを	高める面接技	技法の理論を学習し、更に	こ、技術の獲得に						
	11 臨床知につい	いて講義し、	臨床の疑問を	と解明するための方法を検	食計する。	(西薗)					
	課題と看護	継続教育との	関連を追究。	隻管理の変遷について講義 ける。		る看護管理の					
	について追	究する。		(プリセプター、パートナ		(山口)					
	14 継続教育プ	ログラムの課	題の分析と看	f護専門職の機能と活動に	工必要な知識を講	義し追究する。 (山口)					
	15 看護学、継続 本質につい [*]		る倫理的課題	きとその解決について学修	し、看護を管理す						
テキスト ・参考書	適宜提示するが	、資料の配布	5も行う。また	た、初回に文献リストを配	配付する。						
予習・復習に ついての情報	随時提示する。										
授業の形式	講義	講義									
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%)									
その他											

科目名									
担当教員	小林由里、市村由美子								
クラス			開講学期		対象学年	1年			
曜日・時限		_	講義室	——————————————————————————————————————	授業形態	講義			
単位区分			単位数		2 単位	MT-4X			
平位区刀	看	··	, ,—,,,	学を支える諸理論に	. ,—	・ 宝珠			
授業の概要	看護管理学の基本的概念とともに看護管理学を支える諸理論について教授する。高度実践看護師の果たすべき役割としての組織運営、組織の活性化について学び、そのために必要なチーム医療のマネジメント、管理者との連携・調整について検討する。また、質の高い看護サービスを提供することの意味を追究し、高度実践看護師として看護の質の向上のための戦略と看護管理の視点から取り組むべき今後の課題について展望する。								
授業の目標	1. 看護管理の基本概念を理解し看護管理に必要な知識と技術について説明できる。 2. 看護実践に影響を与えている組織的課題について看護管理者と共同して解決に向かう概念と理論を用いて説明できる。 3. 組織運営に参画し組織的課題の解決策を提案できる。 4. 高度実践看護師として保健医療組織における多職種構成員との調整について述べることができる。 保健医療チームとの調整や看護の機能を効果的かつ円滑に展開するマネジメント力の修得								
日 ルス ケ 'ひ HE ノ J						/11多1寸			
		1 看護および看護管理の定義 看護とは、管理とは、看護管理とはについて、各定義とそれぞれの関連性について明確にする。 (小林)							
授業計画	2 看護管理の基本概念と看護管理に必要な知識体系 看護管理学に含まれる要素の概念を通して、基本的な概念の統合について検討する。看護管理に必要な知識体系を明確にし、それらを統合することの重要性について教授する。 (小林)								
	3 組織論と組織行動 組織論と組織原則を理解し、看護の現場における組織行動の考え方を検討する。組織理論について の資料を複数確認し、理論と組織行動の統合について理解を深める。								
	(市村) 4 組織理念、組織文化、組織分析 組織の成り立ちと構造、組織風土、組織文化について理解し、組織分析の在り方を検討する。各自 の組織状況を提示し、実際に分析を試みる。 (市村)								
	5	システム論とシステムア システム論の理解を通し の組織においてどのよう	てシステム思え			て理解する。各自			
	6	リーダーシップの概念と 基礎理論としてのリータ ついて検討する。		こついて理解する。名	ト理論を通して、看護 ⁹				
	(小林) 7 リーダーシップのスキル リーダーシップの発揮について検討し、教育的役割を果たすことと併せて考察を深める。各自が置かれている状況下でどのようなリーダーシップが有効であるかについて検討する。								
	8	組織の中の動機付け、意 主要な看護管理の方法論 リーダーシップとの連動	論としての動機		里論について理解し考				
	9	組織変革、交渉の原理 変化理論について理解し 理論の有効性と交渉の原				(市村)変革における変革			
						(市村)			
	10	組織におけるパワーとコ パワーの行使、エンパワ 方について考察する。事 学ぶ。	'ーメント、アサ	ーーティブネスにつレ	いて検討し、専門職と	スの実際について			
	11	チーム医療のマネジメン	/			(市村)			
		チーム医療の概念とチーについて検討する。		こ向けた高度実践看記	嬳師としての組織にお	ける役割と責務 (小林)			
						(\1 \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\			

	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , 					
授業計画	12 高度実践看護師としての管理職者との連携・調整、組織 高度実践看護師として、専門看護活動に必要な保健・医療・福祉にかかわる多職種間や看護組織に おける調整・協力・管理について、管理者との連携・調整のあり方を検討する。					
	(小林)					
	13 医療安全とリスクマネジメント					
	安全管理体制組織とリスクマネジメントの考え方について追究する。					
	医療事故に至った数種の事例分析から、リスクマネジメントの機能について検討する。					
	(小林)					
	14 看護サービスの質保証 看護資源の管理と活用の実際					
	(小林)					
	15 社会変化に伴う現代の医療の変化と高度実践看護師に求められる役割とこれからの課題					
	看護をとりまく環境的側面の問題と課題について探究する。					
	看護管理の視点から現在の日本の医療が求めるCNSの活用・活躍のあり方について、各自で課題					
	を提示し、ディスカッションを通して将来の展望を整理する。					
テキスト	(市村) (市村) (京村) (京村) (京村) (京村) (京村) (京村) (京村) (京					
・ 参考書	<参考書>W.G. スコット, I. R. ミッテェル, P. H. ハーンハリム者, 鈴木辛毅 監試「組織理論一構造・打動分析」八十 代出版, /ステファン・ロビンス著, 高木晴夫 監訳「組織行動のマネジメント」ダイヤモンド社,					
<i>≫</i> 7 €	P・ハーシィ、K・H・ブランチャード、D・E・ジョンソン著,山本成二,山本あづさ訳「入門から応用へ 行動科学の					
	展開 人的資源の活用」生産性出版,/井部俊子,中西睦子監修,井部俊子,勝原裕美子編集「看護管理学習テキス					
	ト第1巻~8巻」日本看護協会出版会 ※その他資料として随時紹介する。					
予習・復習に	(事前学習) ①自施設の組織体制を明確にし、組織図における自身の立ち位置と役割について明確に					
ついての情報	しておく。②自施設の組織上の問題点と課題について整理しておく。					
	(事後学習) 自身の立場で実施できる看護管理の側面(組織変革、リーダーシップ、交渉、連携・調					
	整など)からの内容と方法について具体的に整理する。					
評価の方法(叶花					
評価の配点比						
率と評価の要	授業への積極的参加 (30%) 、課題発表と内容 (30%) 、レポート (40%)					
点)						
その他						
CVIE						

授業の概要剤の		開講学期講義室単位数	五味田裕、松浦純平 後期 —	対象学年	1・2年				
曜日・時限 単位区分 授業の概要 剤の	重々の病態要因・状況を路	講義室	後期		1・2年				
単位区分 授業の概要 剤の	重々の病態要因・状況を路	#11 V/2		155 A16 A17 A15					
授業の概要 剤の	重々の病態要因・状況を路	単位数		授業形態	講義 (一部演習)				
授業の概要剤の			2単位						
	種々の病態要因・状況を踏まえて、医療現場の緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤の主・副作用を含む薬力学的ならびに生体に取り込まれた薬の体内運命面での薬物作用を解説する。医薬品の医療現場での取り扱い、薬物濃度を測定しながらの薬物治療、リスクマネイジメントを学習する。日常生活への影響、服薬指導と患者と家族のコンプライアンスを高めるための看護支援の技術について事例を基に討議して修得する。								
授業の目標 。そ も ま 2.名 3.臨 4.薬 性 5.難	専門看護師の能力として、緊急応急処置、症状管理、慢性疾患対応時における薬物治療を薬力学的ならびに薬物動態的側面から理解して、薬物起因症状か、疾患自体からの症状か判断する力をつける。そのために各治療薬の作用機序、処方理由、薬物相互作用、生体内薬物動態と血中モニタリング、患者への服薬指導、薬物代謝酵素に関わる遺伝子診断等々を理解しておく必要がある。 1. 薬の基礎・臨床の薬理作用を薬理力学的並びに薬物動態学的基本原理を理解する。 2. 各疾病に使用される薬物についての作用機序を理解して、分類カテゴリーに関連させて理解する。 3. 臨床において、看護支援の面から薬物の適正・安全・最適使用が実践できるようにする。 4. 薬物治療は患者側からの協力・理解が必要で、その際 服薬指導を含めたコミュニケーションの重要性を理解する。 5. 難病治療において新規医薬品の薬物治療に積極的看護支援ができるようにする。								
育成する能力 護が 力も	各種病態に対応した薬物治療を病態学的、薬力学的ならびに薬物動態的に理解して、最適・最新な看護ができる能力を育成する。また未解決薬物治療を視野に新薬開発臨床試験等においても関われる能力も育成する。								
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 11 12 13	各種病態に対応した薬物治療を病態学的、薬力学的ならびに薬物動態的に理解して、最適・最新な看護ができる能力を育成する。また未解決薬物治療を視野に新薬開発臨床試験等においても関われる能力も育成する。 1 臨床薬理学概論 1 (薬物の様式、体内動態、薬物相互作用、新規医薬品の開発並びに新薬物療法に関わる臨床研究への看護領域の関わり支援等) (五味田) 2 臨床薬理学概論 2 (より個別化された薬物治療の実践における看護支援;遺伝性薬理を踏まえた薬物動態、投与経路、用法・用量、警告・禁忌等を踏まえて) (五味田) 3 循環器系疾患に作用する薬 (心不全治療薬、抗高血圧症薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬の作用機序)・関連疾患に対する新規治療薬の最新治療と看護支援 (五味田) 4 呼吸器・消化器系疾患に作用する薬 (気管支喘息治療薬、鎮咳薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬の作用機序)・関連疾患に対する新規治療薬、脂質異常症治療薬、高尿酸血症・痛風治療薬の作用機序)・関連疾患に対する新規治療薬、脂質異常症治療薬、高尿酸血症・痛風治療薬の作用機序)・関連疾患に対する新規治療薬の最新治療と看護支援 (五味田) 5 代謝性疾患に作用する薬 (権眠薬、鎮痛薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬の作用機序)・手術医療における麻酔薬等の薬物使用、ならびに付随した薬物使用と看護支援 (五味田) 7 精神・神経系疾患に作用する薬 (催眠薬、鎮痛薬、抗パーキンソン病薬、抗てんかん薬の作用機序)・手術医療における麻酔薬等の薬物使用、ならびに付随した薬物使用と看護支援 (五味田) 8 臨床応用と実際 (1) クリティカル看護で薬物が使用される患者への臨床判断、緊急・慢性時の薬剤使用、鎮痛・鎮静薬使用の重症患者の観察、アセスメント、臨床判断 (五味田) 9 臨床応用と実際 (2) 感染症に関する医薬品:抗菌薬の適正使用、薬剤選択、体内動態・薬効、特に耐性菌対策・院内感染対策への関与および臨床判断。 HIV、結核治療における服薬管理・指導と最新治療・院内感染対策への関与および臨床判断。 HIV、結核治療における服薬管理・指導と最新治療・院内感染対策への関与および臨床判断。 HIV、結核治療における服薬管理・指導と長新治療								

	15 患者と家族が安心して薬物療法(漢方を含む)を受けられるために医師、薬剤師と協働する看護師
	の支援 患者の薬物療法(漢方を含む)の服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術(服薬
	アドヒアランス)について教授する。 (松浦)
テキスト	『臨床場面でわかる! くすりの知識』ーナースの出会う臨床場面・その質疑一五味田裕(監)荒木
・参考書	博陽(編) 南江堂・『臨床薬理学』日本臨床薬理学会編(中野・安原 他)
予習・復習に	臨床現場での薬物治療において、看護支援面での課題を考えておき、それを講義中の検討課題とする
ついての情報	こともある。毎回の講義内容で関連した基本的な用語を理解すること。
授業の形式	プリント配付資料を中心に授業する。時に臨床場面・その疑問・応答(上記テキスト)しながら演習をする。また視聴覚資料を用いることもある。
評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点)	授業中の質疑応答と提示課題へのレポート提出
その他	

							10
科目名			病態生	理学			
担当教員	五味田裕、	松浦純平、	辻川真弓、	吉田和枝、	竹内佐智恵、	福録恵子	7.
クラス	_	開講学期		前期	対1	象学年	1・2年
曜日・時限		講義室		_	授	業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数			2 単位		
授業の概要	臓器系統別に主要な症候の る基礎的能力を養う。具体的 候を示す事例の症状や検査が を行う。	的には、臨床 所見などから	○ 現場でよく行う病態生理を対します。	観察される	る症候の病態な	上理を講義	衰し、そのような症
授業の目標	1. 主たる症候の病態生理が 2. 学習内容を活用して、事 3. 提示された事例の病態を	例の病態生理 踏まえて、必	里を図式化し 公要な看護援	助を説明~	できる。		LIM I
育成する能力	各種疾患の病態において詳 育成する。						
	1 病態生理学の概念、総 遺伝子治療への看護支払	爰等)					(五味田)
	2 総論II(生活習慣病、元 最新の病態病理情報とそ	それに対応す	つる看護支援)			艺等;特	(五味田)
	3 皮膚・体温調節と病態を	上理、共に皮	で膚・体温調節	節の重要性	生と看護支援		(五味田・吉田)
授業計画	4 免疫系疾患の病態生理、 治療法と看護支援	と共に最新	行情報の取得る	と治療法、	特に各種免疫	医疾患の解	¥明に伴う新規 (五味田)
	5 体液調節と病態生理、 各種免疫疾患の解明に係			態生理、と	共に最新情報	みの取得と	:対応、特に (五味田・竹内)
	6 循環器疾患と病態生理、 治療法と看護支援			と治療法、	特に各種疾患	見の解明に	工伴う新薬含む (五味田・竹内)
	7 呼吸器系疾患と病態生 看護支援	里、と共に最	お情報の取得	导と治療法	去、特に病態角	解明に伴う	
	8 消化器系疾患の病態生理 治療法、特に病態解明					の最新情	
	9 腎・泌尿器系疾患の病態解明に伴う新治療法とえ	生理、と共	に最新情報の	の取得と治		肾・泌尿器	
	10 内分泌系疾患の病態生物ならびに看護支援法)				ミ患発現機構に	-関する最	
	11 脳神経系疾患の病態生現報と看護支援法を含む)	里(認知症、	精神障害の	 病態生理、	とともに各級		
	12 a) 筋骨格系疾患の病態を b) 感覚器の働きと病態を 認知症等の耳鼻咽喉科	上理(最新の	耳鼻咽喉系(の看護アプローチ
	13 感染症、がん疾患の病態のいて、免疫・遺伝性に	生理 (感染	症・がん疾息			その画期	
	14 病態生理学的変化が患者臨床での病態生理学に関連して得た知見を臨床で員が教授する。	旨の身体機能 員する体験事	€・心理面・社 耳例を報告し事	社会面に及 事例検討を	とぼす影響 と行う。病態生		引する事例検討を
	15 病態生理学的変化に適成 エビデンスに基づいた対 授する。				上のために必	要な知識	と技術について教 (松浦)
テキスト ・参考書	吉岡俊正『超ビジュアル病! 市田公美『疾病と病態生理』		メジカルビュ [、]	一社			
予習・復習に ついての情報	テキスト等を熟読するとと	もに、毎回の	の講義内容に	関連した月	用語を参考書	等で理解で	けること。
授業の形式	配付資料、視聴覚資料など	を用いた講郭	蹇、演習				
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	授業中の質疑応答と提示課題	<u></u> 夏へのレポー					
その他							
<u> </u>							

-					11			
科目名	フィジカルアセスメント							
担当教員	柴田政		中紘士、前田吉樹、 え、竹内佐智恵、福釒	松浦純平、齋藤英夫 最恵子				
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1・2年			
曜日・時限	_	講義室		授業形態	講義 (一部演習)			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	高度実践看護師が、複雑なうために必要なフィジカルとして、クライエントの状ンテーション及びディスカ	アセスメントの知 態に沿ったアセス ッション、模擬患	『識と技術を教授する メント手法と結果の 『者を用いた実践演	る。系統的フィジカル D臨床判断について実 習を行う。	アセスメントを基盤 践的に学ぶ。プレゼ			
授業の目標	 専門看護師に必要な系ける。 全身の各臓器、系の診 複雑な健康問題を持つ4. 専門看護師に必要な臨5. 種々のライフ・ステー断し、それらに基づき6. 臨床で実践しているフ 	査と臨床判断を学対象のフィジカル 対象のフィジカル 床看護判断能力を ジにある対象者の 臨床看護判断を行 ィジカルアセスメ	だぶ。 シアセスメントを修行 高める。 9症状や所見等のエト すう能力を養う。 シトの力量を高める	导する。 ビデンスに基づき、病 る。	態を解釈・判			
育成する能力	高度実践看護師が対象者の できるための能力を育成す		こついて、全身をシン	ステマティックに診て	臨床看護判断が実施			
		アセスメントの意 アセスメント	味と解析等		(齋藤)			
授業計画	2 脳神経系のフィジカルアセスメント 脳神経系の診察と評価: 問診、視診、触診、打診、意識障害、反射異常の評価について学ぶ。 (西川) 運動器系の診察と評価: 問診、視診、触診、打診、触診、関節可動域、疼痛の評価について学ぶ。 シュミレーターモデル人形(フィジコ)での演習。 (福録・前田) 消化器系のフィジカルアセスメント 消化器系(腹部) の診察と評価: 問診、腹部の視診・触診・打診・聴診、腹水の観察、女性患者の腹部の視方、腹部のアセスメントの留意点、腹水の評価について学ぶ。シュミレーターモデル人形(フィジコ)での演習。 (古田・齋藤) 丁鼻咽喉系の診察と評価: 問診、視診、耳鏡、聴力、鼓膜・炎症の観察により耳鼻咽喉系のアセスメントの留意点を学ぶ。 模擬患者での演習。 (西川) 眼疾患のフィジカルアセスメント 眼疾患の診察と評価: 問診、視診、耳鏡、聴力、鼓膜・炎症の観察により耳鼻咽喉系のアセスメントの留意点を学ぶ。 模擬患者での演習。 (西川) 循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系の診察と評価: 問診、視力、視野、眼底鏡の観察により、視力障害、白内障、高血圧、糖尿病などの評価について学ぶ。 模擬患者での演習。 (西川) 循環器系の診察と評価: 問診、視診、脈の触診、心音の聴診・打診、血圧、浮腫の観察、呼吸の評価、循環動態の評価について学ぶ。シュミレーターモデル人形(フィジコ)での演習。 (竹内・齋藤) 血液・造血器系の診察と評価: 問診、視診、聴診、の観察と血液検査により、貧血、出血傾向の評価。 (柴田) 代謝系のフィジカルアセスメント 代謝系の診察と評価: 問診、視診、聴診、打診、身体計測により、栄養・代謝のアセスメントの留意点と評価を学ぶ。模擬患者での演習。 (野中) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント 無診、熱診、触診、対診により呼吸の評価をする。肺雑音の評価の留意点を学ぶ。シュミレーターモデル人形(フィジコ)での演習。 (竹内・齋藤) 免疫系のアィジカルアセスメント							
	12 内分泌系のフィジカルで 内分泌系診察と評価: 13 性機能・腎泌尿器系ので 性機能・腎泌尿器系ので	問診、視診、聴診 	メント		(柴田) (柴田) 価について学ぶ。			
	14 高度なフィジカルアセン 看護師が行う高度なフィシカルアセス	ィジカルアセスメ	ントが患者と家族の)異常の早期発見、健	(吉田・齋藤) 康回復につながるこ (松浦)			

授業計画	15 患者が自らフィジカルアセスメントの変調に気づく支援 複雑な健康問題をもった対象が自らフィジカルアセスメントし、身体の変調に気づくために必要な知 識と技術について体験事例を基に討議する。 (松浦)
テキスト	工藤二郎『フィジカルアセスメントの根拠がわかる! 機能障害からみた からだのメカニズム』
・参考書	医学書院 藤崎 郁『フィジカルアセスメント完全ガイド』学研メディカル秀潤社
予習・復習に	指定されたテキストを熟読するとともに、毎回の講義内容に関連した参考書で基本的な用語を理解するこ
ついての情報	Ł₀
	(事前学習) 臨床で実践しているフィジカルアセスメントの目的、根拠、技術をまとめ、実践しているフ
	ィジカルアセスメントが患者の異常の早期発見、副作用の早期発見、症状の予測に繋がった
	事例をまとめておく。
	(事後学習) 学習したフィジカルアセスメントの知識と技術を臨床で応用し、これまでその相違をまとめ ておく。
授業の形式	テキスト、配付資料、視聴覚資料を用いた講義、演習
評価の方法(
評価の配点比	筆記試験 (80%) レポート課題 (20%)
率と評価の要	
点)	
その他	
, / I	

科目名			看護研究特論		12		
	-t- ++ m# III.	四並体之 玉芸さ			an 44		
担当教員	吉村雅世、 ——————			下守弘、中川晶、丸尾智 			
クラス	<u> </u>	開講学期	前期	対象学年	1年		
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義		
単位区分	必修	単位数		2 単位			
授業の概要	看護学の専門的な知識や技 を育成するため、看護研究						
授業の目標	 2. 文献のクリティークにつ 3. 研究課題の設定のプロセ 4. 各種の研究手法を理解で 5. 自分が実践してきた看護 	看護研究の過程を理解できる。 文献のクリティークについて理解できる。 研究課題の設定のプロセスを理解できる。 各種の研究手法を理解できる。 自分が実践してきた看護研究の課題を明確にする。 修士論文又は課題研究のための研究手法を明確にする。					
育成する能力	特別研究、課題研究、及び	マネジメント力に	工必要な看護研究のプ	方法を習得する。			
	1 看護研究とは 看護研究とはなにか		題、研究デザイン、	研究のプロセスを中心	いに教授する。 (服部)		
	2 看護研究と倫理 研究における倫理の 倫理審査申請書の記			授する。	(服部)		
授業計画	3 文献クリティーク1 研究活動に活かす文 ークを行う。	献クリティークの	基礎について学び、	自分の関心領域の文献 、自分が見落としてV	状を用いてクリティ		
	4 文献クリティーク 2 高度看護実践や看護4 システマティックレ	研究におけるシス ビューの基本を教		ーの必要性やその方法			
	5 研究の手法1(量的研 量的研究手法を用い これまで実施した量 6 研究の手法2(量的研	る研究デザインや 的研究を用いて、			(西薗)		
	量的分析のためのデ	ータ収集方法や変	数の測定方法につい	て教授する。	(西薗)		
	7 研究の手法3 (量的研 統計学的分析の方法		•		(西薗)		
	8 研究の手法4(質的研 質的研究手法を用い する。 実施した質的研究を	る研究デザインと		・の特徴など、質的研究 ・++×	ピ手法の基礎を教授 (吉村)		
	9 研究の手法5 (質的研	究手法)		グラフィーの方法につ			
	10 研究の手法 6 (質的研 現象学、歴史的研究		教授する。		(吉村)		
	11 研究の手法7 (会話分 会話分析の方法につ	析)		きよス	()		
	12 研究の手法8 (ナラテ 研究活動における臨	ィブ) 床ナラティブアプ	゜ローチの有効性や、	<u>まりる。</u> 実例を紹介しながら、	· /		
	実践の場における研 13 研究の手法9 (ナラテ 臨床ナラティブアプ	ィブ)			(中川)		
	14 研究の手法10 (混合研 テキストマイニング	究手法)	-	トマイニングの方法に	こついて		
	2 4724 277 2 777 2 11-11		手法の活用例を示し	ンながら、実験的手法 <i>の</i>	(松浦)		
	いて教授する。 これまでの学習から。	、修士論文又は課	題研究のために必要	な研究的視点と研究力	7法を討議する。 (辻下・丸尾)		

テキスト・参 考書	牧野清子、『エビデンスに基づく看護実践のためのシステマティックレビュー』、日本看護協会出版会Suzan K. Grove、Nancy Burns, Jennifer R. Gray、黒田 裕子他訳、『バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 一評価・統合・エビデンスの生成』、エルゼビア・ジャパン川野雅資編著(2015):看護研究、PILAR Press川野雅資編著(2002):看護研究入門、星和書店その他、適宜紹介する。
	(事前学習)①これまで実践した看護研究についてまとめ、研究としての一貫性について検討しておく。②参加した学会等で、印象的な研究についてまとめておく。③学術研究論文を2本読んでおく。 (事後学習)①自分が取り組みたい研究課題を明確にする。特に、研究方法について継続的に学習する。②機会を得て、日本看護科学学会や日本看護研究学会、その他各専門領域の学会に参加する。
授業の形式	講義、ディスカッション、実施した研究の提示
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート (100%) 自分が行いたい研究課題を明確にし(20%)、考えられる研究方法を提示し(40%)、想定する倫理的課題を 検討し(20%)、研究方法の課題と利点を文献を基に論述する(20%)
その他	

科目名							
担当教員	守本とも子	子、吉村雅世、	西薗貞子、芝田ゆかり、松浦	前純平、吉川義:	之		
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年		
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義		
単位区分	選択	単位数	2	2 単位			
授業の概要	疾病治療に関する援助につ ジメントを伴う医療・処置	いて現状の課 置について国際	ジにおける人々の QOL の向上 題を考える。 在宅療養で看該的、他職種との連携、リータ ある人々の現状を分析し課題	護が担う医療の ・ーシップをキ	中で、高度なマネ ーワードに、小児		
授業の目標	ついての課題を考察でき 2. 在宅療養における治療・ 察できる。 3. 在宅療養における治療・ 4. 在宅医療において高度な	る 処置の現状と 処置の現状と :医療技術を必	らさまざまなライフステージ 関わる多様な職種から看護の 国際比較から看護の今後の課 要とする医療の中でのリーダ にある人の健康課題と高度な	役割について ^を 題を考えること ーシップについ	今後の課題を考 とができる。 いて考察できる。		
育成する能力	における看護職の役割を考	察する能力を	育成する。				
		宅療養と家族の	の支援 在宅療養を必要と [*] 看護で行われる医療・処置	する人たち	(守本)		
			と呼吸器の医療について、国際 から現状について考える。	祭性、他職種、	リーダーシップを		
授業計画	4				(吉村)		
			った糖尿病に関する医療について考り 文献等から現状について考り		他職種、リーダー (吉村・西薗)		
			予防、褥瘡処置、経管栄養に~ め、文献等から現状について?		、他職種、リーダ (吉村・西薗)		
	9 在宅におけるがん性疼 テーマを決め、文献等 10		療について、国際性、他職種、 題を考える。	リーダーシッ	プをキーワードに (松浦)		
	11 支援が困難な在宅療養	患者への専門的	的看護実践:神経筋難病・家	族	(#: m)		
	12 支援が困難な在宅療養	患者への専門的	的看護実践:ALS患者・家	族	(芝田)		
	13 1. 在宅における高齢者 1) 皮膚裂傷 (s				(CH)		
	142. 在宅における排泄管1) 失禁ケア153) ストーマ保存・在院日数短	理とその課題 2) 失禁関連皮 百者へのケア 縮に伴う在宅	『膚炎(Incontinence Assosia ケアに求められるもの ・局が 生の高い看護師(特定行為を	所管理の評価			
テキスト ・参考書			水戸美津子 編集 2014.2川野あゆみ編著 2017.3 放送				
予習・復習に ついての情報	在宅医療で実施されている	高度医療・処					
授業の形式	講義			-			
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)						
その他							

A) II A	14						
科目名	在宅看護学特論Ⅱ(慢性期)						
担当教員	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	さも子、吉村雅	推大 、	、松浦純平 			
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年		
曜日・時限	<u> </u>	講義室	_	授業形態	講義		
単位区分	選択	単位数	2	2 単位			
	成人期・老年期の主要な疾 在宅における慢性期看護の成人期・老年期に起こりう ンテーションから全人的看 する方法、課題を考える。	今日的課題を る主要な疾患	考える。	医療・処置を受	ける事例のプレゼ		
授業の目標	と研究への適用を探究す。 2. 各ライフステージにおいて 全人的看護について探究	. 在宅で医療を生涯継続する患者・家族を理解するための基盤となる理論と概念について学び、実践と研究への適用を探究する。 2. 各ライフステージにおいて在宅における高度医療および処置を受けている患者の問題点を見出し、全人的看護について探究する。 3. 在宅における慢性疾患をもつ患者および家族の今日的課題を探究し、看護を開発する基盤を修得す					
1 -1 -4 1	在宅における主要な疾患の疾患を持つ患者及び家族の				る。また、慢性期		
	1 在宅看護(慢性期疾患) アドボカシー、エン/		×理念 パートナーシップ、ヘルス	プロモーショ	(守本)		
			よどの基本概念を学ぶ。	Hart Kom S. C.	Id. S		
授業計画	3 在宅看護と家族 家族の)介護負担と軽	経滅について、現状と課題、課	題解決の方向	性について考える。(堀内)		
	4 COPD (慢性閉塞性呼吸器 5 題、課題解決の方向性に		する呼吸器疾患を患う患者 う。	・家族の看護は	こついて、現状と課 (守本)		
	6 脳卒中後遺症、認知症な 7 について考える。	とどの神経障害	系患者・家族の看護について、	、現状と課題、	課題解決の方向性 (守本)		
	8 脳血管疾患により麻痺の考える。)ある患者・家	族の看護について、現状と	課題、課題解決	その方向性について (堀内)		
			たす患者・家族の看護につ E、大腿部頸部骨折、腰椎骨				
	12 がん対策基本法と在宅に 13	おけるがん看該	養について、現状と課題、課題	原解決の方向性は	こついて考える。 (松浦)		
	14 糖尿病(合併症を含む) て考える。	を患う患者・	家族の看護について、現状の	と課題、課題所	解決の方向性につい (吉村)		
ナンスト	在宅医療実践ガイド 2013. 慢性期看護「第3版」鈴木志			/ ヒロカワ			
	在宅医療で、よく見られる疾患と看護について学びを深める。 担当するテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。						
授業の形式	講義						
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)						
その他							

科目名		在宅 手等						
担当教員			4、伊藤健一、小林和 1					
					1 F			
クラス	-	開講学期	後期 ————————————————————————————————————	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	<u> </u>	授業形態	講義			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	関わる者が果たすべき役割として活躍できるような3 生活動作の獲得を目指した。	域での在宅生活を回復支援する上での基盤となる地域リハビリテーションの理念を理解し、ケアに わる者が果たすべき役割について理解を深めながら、在宅生活における回復支援のためのリーダー して活躍できるような実践的能力の基礎を醸成する。具体的には、地域生活支援に必須である日常 活動作の獲得を目指した行動分析学的アプローチを習得するとともに、地域において介護予防を実 できるマネジメント能力、そしてセラピストなど多職種との連携や協働による地域生活者に対する 別支援能力を涵養する。						
授業の目標	1. 地域での在宅生活を回2. 在宅での回復支援を推注 3. 日常生活動作の獲得に 介護予防など在宅生活を[進のため実践能力 必要な行動分析学Ⅰ	を習得する。 的アプローチを実践で	きる。				
育成する能力	ト力を修得する。			多戦性との連携に接	19 3 4 4 2 7 2			
	1 講義ガイダンス、在年 2 日常生活動作の運動学		受の概要		(辻下)			
	3 在宅生活における日常				(辻下)			
授業計画	4 介護予防のマネジメン		チ		(辻下)			
22/86/14	5 生活習慣病を合併する				(辻下)			
	6 肥満を合併する患者の				(伊藤)			
	7 慢性呼吸障害を合併す		爰		(伊藤)			
	8 心筋梗塞後の患者に対				(伊藤)			
	9 糖尿病の患者に対する	5回復支援			(伊藤)			
	10 行動分析学を用いた 日		<u> </u>		(伊藤)			
	 11 日常生活動作指導にお	おける応用行動分析	斤学1(ベッド上基本!	動作)	(小林)			
	 12 日常生活動作指導にお	おける応用行動分析	近学2(座位・立位動で 「学2)(本位・立位動で	作)	(小林)			
	13 日常生活動作指導にお	おける応用行動分析	近学2(歩行・移動動 行学2(歩行・移動動	作)	(小林)			
	 14 在宅場面での介護者に	こ対する日常生活技	台 導		(小林)			
	15 地域における在宅生活	5の回復支援の実践			(小林)			
テキスト ・参考書	辻下守弘・小林和彦『リッ 太田仁史『地域リハビリ			門』医歯薬出版	(辻下)			
予習・復習に ついての情報	指定されたテキストを熟 ること。	読するとともに、	毎回の講義内容に関連	旦した参考書で基本的	りな用語を理解す			
授業の形式	テキスト、配付資料、視り	 徳覚資料を用いた	講義					
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	筆記試験 (80%) 、レポー	・ト課題(20%)						
その他								

科目名		左 字手制	# 学 株 沙 N / W 林 与 长 古 校	Z\	16			
			雙学特論Ⅳ(地域包括支援	₹ <i>)</i> 				
担当教員		寸 7						
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	また、専門分野における	理解するととも 研究を理解し、	に、地域の特性を生かした 自らの研究に役立てる力を	た地域包括支援に を習得する。	ついて概説する。			
授業の目標	 健康・不健康を問わず 康増進について考察で 地域の特性を把握する 専門分野における研究 	医療連携・地域包括支援システムの構築の中での看護職の役割について考察できる。 健康・不健康を問わず、さまざまな健康レベルにある人が、地域で生活するための健康支援・健 康増進について考察できる。 地域の特性を把握するための保健・医療統計を理解する。 専門分野における研究を考察し、自らの研究計画に役立てることができる。 地域包括支援システムを推進するために看護職が果たす役割・課題について理解することで、地域包						
育成する能力	括支援システムを推進で	きる教育力を修	得する。					
	1 さまざまな健康レベル	いにある人の健康	ま支援・健康増進		(守本)			
	2 医療連携と地域包括	支援システム			(守本)			
	3 譫妄、認知症、脳卒	中後遺症患者の存	空宅看護に関連する制度と	社会資源	(守本)			
授業計画	4 譫妄、認知症、脳卒口	中後遺症患者のク	ケースマネジメントとチー	-ム医療	(守本)			
	5 譫妄、認知症、脳卒の	中後遺症患者の均	地域包括ケア連携		(守本)			
	6 保健・医療統計①				(平野)			
	7 保健・医療統計②				(平野)			
	8 地域包括支援システ.	ムの構築の実際	認知症					
	9				(守本)			
	_ ,		要素に関する文献クリティ 生活支援、複合サービス、					
					(守本)			
			こ関する文献クリティーク	7から、研究の現場	犬と課題・方向			
	性を考える。(自助、 14	互 切、 共助、2	公明等)		(守本)			
	15 まとめ				(守本)			
テキスト ・参考書	国民衛生の動向(最新版 よくわかる看護研究論文		├協会 山川みやえ、牧本清子紅	扁著 2014.6 日本				
予習・復習に ついての情報	医療連携・地域包括支援システムにおける現状について理解しておくこと							
授業の形式	講義、グループワーク							
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート(70%) プレゼンテーション(30	%)						
その他								

科目名		-	生 生宅看護学特論演習		17		
				4 L 01 LN NAZET			
担当教員	一	ドとも子、吉村雅 	世、辻下守弘、堀内美	長由紀、松浦純平 ── ─			
クラス	<u> </u>	開講学期	前期	対象学年	2年		
曜日•時限	_	講義室	_	授業形態	演習 (一部講義)		
単位区分	選択	単位数		2 単位			
授業の概要	慢性疾患・障害の予防に とその家族への支援につ した援助方法や看護職の 養を支える看護職の役割	いて、文献レビュ 役割について追タ を考える。	ューやディスカッショ ピする。国際的視点や	ンを行い、対象の多額 他の専門職の視点に	策なニーズに対応 も注目して在宅療		
授業の目標	2. 設定したテーマについ 法を追究することがで 3. 設定したテーマについ 師の役割を追究するこ 4. ディスカッションの中	着目するテーマについて、国際的に、また他職種の視点から文献レビューができる。 設定したテーマについて、さまざまなライフステージにある人々の多様なニーズに対応した援助方 法を追究することができる。 設定したテーマについて、さまざまなライフステージにある人々の多様なニーズに対応した看護 師の役割を追究することができる。 ディスカッションの中でリーダーシップが取れる。					
育成する能力	在宅における患者と家族 いて探求できる能力を育 成する。	成する。また、マ	生宅看護のリーダーと	してリーダーシップ			
	1 テーマの決定 文献し	ノビュー、プレゼ	ン資料作成の打ち合え	つせ	(守本)		
	2 COPD (慢性閉塞性肺療 3 いてのプレゼンテーシ		呼吸器疾患患者と家族 ッション	その看護における課題			
授業計画			-		(守本)		
以未刊凹	4 筋骨格系障害により、 5 プレゼンテーションと		たす患者と家族の看護 ン	における課題とその	解決策についての		
	6	-			(辻下)		
	9		看護における課題とそ	の解決方法について	のプレゼンテーシ (吉村)		
	8 脳血管疾患により麻痺	ちのなる 电老しぐ	族の看護における課題	頃レ <i>ンの個</i> 油+沖1ァ。			
	9 テーションとディスク		-//大ヾノ∕目 啰 (〜 ⊀⊃ (丿 る) 床戻	<u> </u>	(堀内)		
		進における課題と	その解決方法について	てのプレゼンテーショ	ョンとディスカッ		
	11 ション				(松浦)		
	12脳卒中後遺症患者と記する13イスカッション		る課題とその解決方法	<u></u> 去についてのプレゼン			
	14				(守本)		
		の看護における調	題とその解決方法につ	ついてのプレゼンテー			
テキスト ・参考書	各自、最新の文献レビュ、	ーを行い資料とす	たる。		(守本)		
予習・復習に ついての情報	興味のあるテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。						
授業の形式	プレゼンテーションとデ ッション	ィスカッション、	あるいはグループワ	ーク、プレゼンテー	ション、ディスカ		
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	ディスカッションへの参 看護の役割についての考		-マについての文献レ	ビュー (30%)			
その他							

科目名	18 育成看護学特論 I (発達支援)						
担当教員			子、山口求、市村由美				
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年		
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)		
単位区分	選択	単位数		2 単位	(FFDC II)		
授業の概要	小児が精神的・身体的・ 学習し、各種身体機能障 ついて理解し、小児の望	音や身体障がいを	恃っている小児の病態	や、病態から来る	日常生活の特徴に		
授業の目標	2. 小児や小児を取り巻く 3. 小児期におこりやすい 述べることができる。	. 小児期に特徴的な発達理論について述べることができる。 . 小児や小児を取り巻く家族及び社会に関する制度や施策について述べることができる。 . 小児期におこりやすい身体機能障害の種類やその特徴及び身体障がい児の特徴について 述べることができる。 . 身体機能障害や身体障がいを持つ児やその家族に対し、具体的な支援内容を述べることができる。					
育成する能力	小児の健全な発達を遂け 家族機能の支援のための			理解することで、ノ	小児の成長発達や		
		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	会性の発達について学.		(山口)		
	2 エリクソン、ピアジ	エ、ハビガースト等	等の発達理論について?	学ぶ。	(市村)		
	3 エリクソン、ピアジ	エ、ハビガースト等	等の発達理論について?	学ぶ。	(市村)		
授業計画	4 ブロンフェンブレナ	―の生態学的アプロ	ューチからみた小児の	発達について学ぶ。	(山口)		
	5 小児期の健康問題を	とらえるための概念	念や理論について学ぶ。)	(山口)		
	6 小児期の健康問題を	とらえるための概念	念や理論について学ぶ。)	(山口)		
	7 小児の発達区分ごと	に見た健康問題につ	ついて学ぶ(乳児期・x	幼児期)。	(市村)		
	8 小児の発達区分ごと	に見た健康問題につ	ついて学ぶ(学童期・)	思春期)。	(山口)		
	9 身体に障がいを持つ 小児)。	児の特徴と健康問題	題について学ぶ (身体)	障がいと知的障が↓			
		児の特徴と健康問題	夏について学ぶ(身体	障がいを持つ小児)			
	11 健康問題を持つ児や	身体に障がいのある	る児を支える制度や施	策及び社会資源につ	いて学ぶ。		
	12 健康問題を持つ児や 説明できる(乳児期		る児の看護方法につい	て理解し、具体的な	(山口) 支援方法について (市村)		
	13 健康問題を持つ児や 説明できる(幼児期	身体に障がいのある	る児の看護方法につい	て理解し、具体的な			
	14 健康問題を持つ児や 説明できる(学童・	<u>,</u> 身体に障がいのある	る児の看護方法につい	て理解し、具体的な			
	説明できる(字里・15 健康問題を持つ児やについて説明できる	身体に障がいのある	る児の看護方法をとお	して児や家族のQOL			
テキスト・参考書	・『ピアジェに学ぶ認知・児童心理学三つの理論 一郎 (監訳)・人間発達の生態学(エ	発達の科学』北大 エリクソン/ピア コロジー) ―発達	ジェ/シアーズ 新装	版 H. W. メイ	ア (著),大西 誠		
予習・復習に	磯貝 芳郎/福富 譲【記 検索語から文献検索を行		ナス研究シサル 指粉炉	読みレジュマお佐に	むしておくこし		
ついての情報 授業の形式			プ゚゚ぬ゚ヤク プロ㎜入で↑歿数補	muoアレンユクでTFA	W C (40 \ C C o		
授業の形式 評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	授業に対する取組(20%	義及び学生によるプレゼンテーション 業に対する取組(20%)プレゼンテーション(30%:適切性、妥当性、資料の作成度合い、発表の容と方法)、レポート(50%:論理性、一貫性、自身の考え等)					
その他					※2020 2 17 租左		

※2020.2.17 現在

科目名		育成看護学	· 特論Ⅱ(次世代育成支		19	
担当教員		服部律子、美甘祥子、三田村七福子				
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年	
曜日・時限	_	講義室		授業形態	講義	
単位区分	選択	単位数		2 単位		
授業の概要	次世代育成のための看護 まで、妊娠前から産後まっ 行うため、基本となる理話	でを連続線上で捉	え、産後の母親のメン			
授業の目標	1. 次世代育成支援の理念。 2. 親準備性の概念や形成。 3. 妊娠・出産・子育て期の 4. 産後の母親のメンタル・ 5. 家族が拡大する時期に 理論や科学的根拠に基づい	過程について理解 ∩母親や家族の心 ヘルスについて理 焦点をあてて、子	し説明できる。 理を理解し説明できる。 解し説明できる。 育て支援の在り方を考	察できる。	に音酔べキス手	
育成する能力	護を実践できる力を育成で		円() た有暖() (8) りりて:	水水し、大匹八百以	に其脈(きる相	
	1 次世代育成支援とは1 次世代育成支援とは1		 成支援の法的整備と制原		(服部)	
	2 次世代育成支援とは 2 次世代育成支援の歴	2	9454 E W 1 E	~	(服部)	
	3 親準備性1 親準備性の概念				(服部)	
授業計画	4 親準備性 2 親準備性の形成				(服部)	
	5 親準備性3 親準備性形成と看護	 養介入			(服部)	
	6 親役割1 母親役割とその獲得				(服部)	
	7 親役割2 父親役割とその獲得				(服部)	
	8 周産期の心理 妊娠・出産・子育で		の心理		(美甘)	
	9 母親のメンタルヘルフ 妊娠前の心理	< 1			(服部)	
	10 母親のメンタルヘルフ 妊娠期の心理	< 2			(美甘)	
	11 母親のメンタルヘルフ 産後の心理	< 3			(服部)	
	12 家族が拡大する時期の 子育て支援の考え大				(服部)	
	13 家族が拡大する時期の 臨床での取り組みの)子育て支援を考	える2		(三田村)	
	14 家族が拡大する時期の 臨床での取り組みの)子育て支援を考	える3		(三田村)	
	15 まとめ 子育て支援の在り力	万を考察する			(服部)	
テキスト ・参考書	丁育 (又族の住り万を考察する (旅部) 一					
予習・復習に ついての情報	随時説明する。					
授業の形式	講義					
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)					
その他						

41 1			(20
科目名	育	成看護学特論Ⅲ	(リプロダクティブ	ヘルス・ケア)	
担当教員		服	部律子、美甘祥子		
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数		2 単位	
授業の概要	女性のリプロダクティブへ 症などリプロダクティブへ び、さらにリプロダクティ ついて考察する。	ヘルス上の健康問 アブライツを踏ま	題と、それらの健身 えた妊娠、出産など	₹問題に介入するた& ご性と生殖に関する優	めの理論について学
授業の目標	1. 女性のリプロダクティフ 2. 統計などから女性のリフ 3. リプロダクティブライツ	プロダクティブへ ノを踏まえた性と	ルス上の課題を読み 生殖に関する健康を	x解くことができる。 と支える看護について	て考察できる。
育成する能力	女性のリプロダクティブ^ 女性のリプロダクティブ^	、ルス・ケアのた			
	1 リプロダクティブヘル リプロダクティブへ		史的変遷、近年の動	向と課題	(服部)
	2 リプロダクティブヘル リプロダクティブヘ	スと健康行動			(服部)
	3 リプロダクティブヘル	スと意思決定			
授業計画	4 リプロダクティブへル 女性のやせと食習慣	スに関連する健康		決定の理論、意思決	<u>*定支援 (服部)</u> (美甘)
	5 リプロダクティブヘル	スに関連する健康	表課題 2		
	子宮頸がんと健康行 6 リプロダクティブへル		表課題 3		(美甘)
	性行動と性感染症 7 リプロダクティブヘル	スに関連する健康	表課題 4		(服部)
	8 リプロダクティブヘル 性暴力被害と被害者		表課題 5		(服部)
	9 リプロダクティブヘル		表課題 6		
	デートDV 10 統計からリプロダクテ 母子に関する人口動 探究する。			゜ロダクティブヘルス	(服部) (上の課題を (服部)
	11 保健統計からリプロダ			。 °ロダクティブヘルス	
	12 リプロダクティブヘル		· · · · ·		
	健康教育(学級活動 13 リプロダクティブへル	⁄ス支援 2			(美甘)
	ピア・サポートの基 14 リプロダクティブヘル	⁄ス支援3	レ)、 天践例		(服部)
	ピア・サポートのコ 15 まとめ	ーディネート			(服部)
テキスト	加納尚美編、『フォレンシ	ジック看護 『 ― 医・	操薬出版		(服部)
・参考書	木原雅子、『10代の性行動 日本児童教育振興財団内日 その他、関連文献を適宜紹	助と日本社会 そし 日本性教育協会、	てWYSH教育の視点		
予習・復習に ついての情報	随時説明する。	-			
授業の形式	講義				
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)				
その他					

科目名	21 育成看護学特論Ⅳ(家族支援)				
担当教員		服音	『律子、峰博子		
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数		2 単位	
授業の概要	育成期の幅広い看護実 育成期の家族を支援す る理論や、Family cen ぶ。	るための看護について	考察する。そのため	りに、家族を理解する	らための基本とな
授業の目標	1. 家族を理解するため 2. 家族アセスメントに 3. 家族支援の具体的方	ついて理解し説明でき 法について理解し説明	る。 できる。		
育成する能力	家族支援や家族ケアのを修得する。	具体的方法の理解によ	る家族構成員全体~	〜のケアを調整できる	るマネジメント力
	1 家族とは 家族観の背景、家	家族の機能と形態の変化	と、家族看護学とは	-	()
	2家族の発達家族周期論、発達				()
	3 システムとしての 家族システム論、	家族 システムとしての家族	医、家族システム σ	構造	()
授業計画	4 家族アセスメント モデルの特徴、	家族看護過程			()
	5 家族アセスメントの	のモデル 1 アセスメント・介入モラ	デル		()
	6 家族アセスメントの家族生活力量モ	のモデル 2			()
	7 家族アセスメント(()
	8 家族形成と地域社会				(服部)
	9 家族支援の実践例 病をもつ子ども	1			(峰)
	10 家族支援の実践例	2			(峰)
	11 家族支援の実践例 合併症妊産婦の	3			(峰)
	12 家族看護と研究	_{る灰又仮} る研究の特徴、課題、重	計 力		(
	13 育成期の家族支援	を考察する1		1=# n to t = - 1	() (DD \$1 2)
	14 育成期の家族支援				(服部)
	複修生の母子を 15 まとめ	取り巻く家族への取り約	組みの実際を家族看	「護の倪点で考える	(服部)
テキスト ・参考書	山崎あけみ・原礼子編	、『家族看護学』、南	江堂		(服部)
予習・復習に ついての情報	随時説明する。				
授業の形式	講義。ただし、第13講、第14講は履修生の発表と全体討議によって進める。				
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)				
その他					

※2020.4.12 現在

科目名			育成看護学特論演習		22
担当教員		服部律	津子、山口求、美甘祥子		
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	2年
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	演習
単位区分	選択	単位数		2 単位	
授業の概要	女性のリプロダクティブペ するテーマを選び、それら 選択した各テーマに対する	らに対して国内外	の論文をクリティークし		
授業の目標	1. 育成看護学に関する課 2. 各課題に対して文献を2 3. 各課題に対する看護のプ	クリティークし多	角的に検討することがで	できる。	
育成する能力	育成看護学分野における記	課題や課題に対す	る看護の方法を科学的に	こ探求できる能力を	育成する。
	1 子どもの健康障害に関 子どもの健康障害に		探究 1 み解き看護方法を探究す		(山口)
	2 子どもの健康障害に関	引する看護方法の			(山口)
	3 子どもの健康障害に関	引する看護方法の			(山口)
授業計画	4 子どもの健康障害に関	目する看護方法の			(山口)
	5 子どもの健康障害に関	目する看護方法の	探究 5		
	6 子育て支援に関する看	f護方法の探究 1	み解き看護方法を探究す	୍ଦ	(川口)
	7 子育て支援に関する看	f護方法の探究 2			(服部)
	8 子育て支援に関する看	f護方法の探究3	看護方法を探究する		(服部)
	子育て支援に関する9子育て支援に関する看		看護方法を探究する		(服部)
	子育て支援に関する 10 子育て支援に関する看		看護方法を探究する		(服部)
	子育て支援に関する 11 女性のリプロダクティ	る論文を読み解き アブヘルス・ケア	看護方法を探究する に関する看護方法の探究	² 1	(服部)
		ーィブヘルス・ケ	アに関する論文を読み解	ぽき看護方法を探究	する (美甘)
	女性のリプロダクラ	ティブヘルス・ケ	アに関する論文を読み解 に関する看護方法の探究	解き看護方法を探究	する (美甘)
	女性のリプロダクテ	ーィブヘルス・ケ	アに関する論文を読み解	ぽき看護方法を探究	する (美甘)
	14 女性のリプロダクティ 女性のリプロダクラ15 女性のリプロダクティ	ティブヘルス・ケ	アに関する論文を読み解	解き看護方法を探究	する (美甘)
テキスト			アに関する論文を読み解		する (服部)
・参考書	それぞれのテーマに関連し	した研究論文等 σ	文献を用いる。		
予習・復習に ついての情報	随時説明する。				
授業の形式	ゼミ形式で行う。				
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)				
その他					

						23
科目名			精神看記	獲学特論 I (歴史・法制)	度)	
担当教員				川野雅資、西出順子		
クラス		_	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限		_	講義室	_	授業形態	講義
単位区分		選択	単位数		2 単位	
授業の概要	をき	或した看護実践者に必要だ 受ける立場の人から見た* として尊重されて生きて暮	青神保健・医	療・福祉・看護サービス	の制度と歴史から、	
授業の目標	2.	諸外国(英国、米国)の精神 ケアを受ける人の立場から リカバリー、ノーマライヤ	う、日本の精	神医療の現状を理解する	0	で理解する。
育成する能力	精礼	申保健・医療・福祉・看記 导する。				ための教育力を
	1	日本の精神医療の歴史 我が国の精神医療の歴史	で講義し、	見在の精神医療の現状に	ついて討議する。	(川野)
	2	日本の精神保健福祉法の 日本の精神保健福祉法の		て講義し、課題を討議す	る。	(川野)
授業計画	3		:概観し、精神	人の人権 申を病む人の人権をどの。 ひかについて講義をし、		のか、そして現在
	4	英国の精神保健法 英国の精神保健法につい	いて講義をし、	地域精神医療と入院精	神医療の実際を学習	
	5	英国の精神医療の方向性 英国がどのように入院中 は何かを資料を基に討議	心の精神医療	寮から地域精神医療に変	遷してきたのか、患	
	6	米国の地域精神医療の第 米国の地域精神医療の第	遷	課題と利占について討	達 する	(川野)
	7	米国のMental Health Ac 米国のMental Health Ac 保健制度とトラウマ・イ	ct の変遷地 t が時代とま	或精神医療の変遷 にどのように変化してき	きたのかを概観し、	
	8	グローバルヘルス 諸外国(イタリア、ベル: 精神医療の在り方につい	ギー、ロシア \て検討する。	、タイ王国、など) の精ギ ノーマライゼーション	申医療の歴史を概観	
	9	ノーマライゼーションの 日本の精神医療のノーマ 日本の精神医療でノーマ ーションの理念を具現化	,ライゼーシ ,ライゼーシ	ョンの実際 ョンを実践している組織	、活動について講義	(川野) し、ノーマライセ (川野、西出)
	10	諸外国のノーマライゼー 英国と米国(ハワイ州)の	-ションの実)精神医療で	 软		
	11	医療観察法 医療観察法制定の背景と	: 運用の実際:	を講義する。		(川野)
	12	諸外国の精神障害を有す 英国と米国(ハワイ州)で				· 計する。 (川野)
	13	精神を病む人からみた精 社会資源の現状について 状を、精神を病む人の存	講義し、障害	子者総合支援法の活用と記	方問看護をはじめと	する社会資源の理
	14	精神を病む人とその家族 我が国の現在の地域精神 いて討議する。				変やサービスにつ
	15	これからの日本の精神医精神を病む人とその家族 践者の役割と機能につい	ミのニードを?		制度を検討する卓越	(西出) した精神看護実
		レスコマア区部 C 1改化(C゚ノV	・ く 印明 対 り る。			(川野、西出)

	,
テキスト・参考書	Care Quality Commission(2016):Monitering Mental Health Acts 2015/16, Mental Health Reform 福川摩耶、宇佐美しおり、野末聖香、他(2014):精神障害者への精神科ケア・マネジメントチーム及びチーム内における精神看護専門看護師(CNS)の役割と評価、熊本大学医学部保健学科紀要、10,27-35 法務省、厚生労働省(2014):心身喪失等の状態で重大な他害行為を行ったものの医療及び観察などに関する法律の施行の状況についての検討結果。
	Health Care, Mosby
予習・復習に	(事前学習) 日本及び英国と米国の精神医療サービスに関する社会的現象と法整備に関する資料を精
ついての情報	読する。特に、事件と法との関係について調べる。
	(事後学習) 今回の学習が臨床の場ではどのように課題があるのかをまとめておく。精神看護専門看護師として倫理的課題に気づき、組織の中にどのように提言できるかをまとめる。
授業の形式	講義、ディスカッション
評価の方法(課題レポート(100%)
評価の別法(日本の精神医療・看護の実際をケアを受ける受け手の立場からみた利点と改善点を記述しているか
HI III - MOIIII -	The first product of the state
率と評価の要	(30%)、
点)	卓越した精神看護実践者が担うべき役割と機能について言及しているか(30%)、
	文献・資料を活用して深く洞察しているか(20%)、
	論旨に一貫性があるか(10%)、
	内容を十分理解しやすく記述しているか(10%)、の視点で評価する。
その他	

科目名		精神看護学特	論Ⅱ (精神・身体状態	の評価)	24
担当教員		川野雅			
クラス		開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数		2 単位	
授業の概要	卓越した看護実践者に必要 場の人の体験を理解する。 折り合いをつけている人々の	様々な精神・身 の社会生活支援	体状態を理解すること のための評価方法を理	で、複雑な心と身体	
授業の目標	1. 精神を病む人の精神面・ 2. 精神を病む人が体験して 3. 精神を病む人の社会生活	いる生活上の困	難さを理解する評価力	7法を学ぶ。	
育成する能力	精神・身体状態の評価につ	いて理解を深め	卓越した看護実践者の	のための教育力を修得	する。
	1 精神を病む人の精神面 精神を病むということだ ことを理解する。そのだ 自我、自己、人格を評価 る。	がその人との身 こめに、必要な	体面、精神面、社会面 精神面と身体面をアセ	スメントする視点を	討議する。
授業計画	2 DSM-5とICD-10 活用の仕方と診断基準を	を学習する。			(川野)
	3 DSM-5とICD-10 ケースビグネットを用い いと判断した根拠を討談		状態をDSM-5とICD-10を	を用いて診断に該当っ	けるあるいはしな (川野)
	4 統合失調症の診断 統合失調症のペーパー! する。	事例について報	告し、DSM-5とICD-10を	を用いて診断基準と則	照合し、討議 (川野)
	5 気分障害 ケースを用いて気分障害	害の診断につい	て検討する。特に、双	極Ⅱ型の見極めにつ	いて討議する。 (中川)
	6 物質依存 事例を基に、DSM-5とIC	D-10を用いて診	>断基準と照合し、討論	義する。	(川野)
	7 認知症 ケースを用いて、認知症	定の診断につい	てとスクリーニング検	査法について討議す	る。 (川野)
	8 全般性機能評価 GAFを用いて、訓練用の	ケースピグネッ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ついて討議する。	(川野)
	9 心理機能評価 様々な心理テストの活列	用事例、限界を	講義する。それの尺度	を用いた研究論文を	検討する。 (西出)
	10 身体機能評価 精神疾患を病む人が被り の評価方法を理解する		能(歯、視力、聴力、循	盾環、代謝、栄養、排	せつ、皮膚、足) (西出)
	11 発達段階評価・発達課題 エリクソンの漸進的発達する。	夏評価	て、暦年齢と心理発達の	の段階について模擬!	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	12 陰性・陽性症状評価 BPRS、PANSSを紹介し、	評価方法を模と	経事例を用いて修得する	<u> </u>	(川野)
	13 日常生活能力・セルフク 診断の手引きに基づいて 長期入院生活を送ってい 力の評価を検討する。	アア て、日常生活能 いる間に獲得で	力(ADL、IADL)の活用を きなかった、あるいは	を理解する。特に長期	明入院精神病者が
	14 リカバリー評価・社会資 RAS、IMRについて紹介しら、臨床での活用を討談 社会適応評価に関する目	ン、活用の仕方 養する。	を検討し、臨床で、特に		
	退院可能性評価表(川野 15 卓越した精神看護実践者 学習した様々な評価を	ら)を紹介し、 皆が行う様々な	臨床での活用野可能性 評価の臨床活用	を討議する。	
テキスト ・参考書	ついて討議する。 野末聖香、宇佐美しおり(26 南裕子監修、宇佐美しおり ヒロカワ				

	融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10精神および行動の障害、医学書院
	日本神経学会監修、American Psychiatric Association原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の 手引き、医学書院
	福田俊也(2014):観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド 改訂第3版、じほう
	沼初枝(2013):臨床心理アセスメントの基礎、ナカニシヤ出版
	加藤三郎監訳American Psychiatric Association原著(2016)統合失調症スペクトラム障害および他の
	精神病性障害群 DSM-5セレクションズ、医学書院
	西平直訳、E.H.エリクソン著(2011):アイデンティティとライフサイクル、誠信書房
	日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院 「魔広禁神医学」領集委員会領(2015):禁神科魔広証(エステーマル「2016年時) 魔広禁神科学第44業増
	「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016年版]、臨床精神科学第44巻増刊号
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999): Advanced Practice Nursing in Psychiatric
	and Mental Health Care, Mosby
	千葉理恵、宮本有紀(2009):精神疾患を有する人のリカバリーに関連する文献レビュー、日本看護科学
	会誌、29(3),85-91
予習・復習に	(事前学習)精神看護学領域に関する学術論文で活用している精神面、身体面、心理面の評価尺度に
ついての情報	ついて調べる。臨床で実際に活用している評価の種類を調べる。
	(事後学習)様々な評価方法のうち、臨床に活用した尺度があれば、その有効性と限界をまとめてお く。
授業の形式	講義、ディスカッション、体験事例のまとめと報告、臨床で使用している尺度の紹介
評価の方法(課題レポート(100%)
評価の配点比	精神を病む人は、どのように医療者に自分の苦しみをわかってもらえるのか、又、本人も、家族も
率と評価の要	気づいていない苦しみや困難を見つけてほしいと考えているか(40%)、そのために活用してほしいと
点)	考えるであろう尺度とはどのようなものか(30%)について、理解しやすく記述する(30%)。
その他	

科目名	指神看護学特論Ⅲ(精神科治療技法)					
担当教員				催資、西出順子、中川		
クラス		_	開講学期	前期	対象学年	1年
曜日・時限		_	講義室	_	授業形態	講義
単位区分		選択	単位数		2 単位	
授業の概要	<i>の</i> ,	或した看護実践者に必要な 人の視点から、精神的など を学ぶ。				
授業の目標	2. 🗐	情神を病む人が必要として 多職種と共同して提供する 精神看護専門看護師として	る治療技法を理	里解する。	の技法の実践への活り	用可能性を探る。
育成する能力	様⁄	々な精神科治療技法につい	へて理解を深め	り卓越した看護実践者	のための教育力を修行	导する。
	1	精神を病む人が求める治精神を病む人の立場から 社会生活を送りやすくす 列挙し、それぞれの技法	。見た、治療技 「る技法、対人	関係がスムースに送		験事例を基に
授業計画	2	精神科薬物療法 抗精神 抗精神病薬の効果と副作 討議する。		義。特に、最新の抗精	青神病薬の適用可能性	と危険性について
	3	精神科薬物療法 抗うつ抗うつ薬と抗躁薬の効果に関する効果と危険性に	と副作用に関		こんかん薬など他の抗	(中川) 精神病薬との併用
		精神科薬物療法 抗不安			THE STATE OF THE S	(中川)
	4	抗不安薬、睡眠導入剤に になっている治療用麻薬	関する使用方	法と危険性に関する記	講義。その他の向精神	
	5	薬物療法の副作用				(川野)
		看護師が発見する可能性 討議する。	きが高い精神科	薬物療法の副作用に	ついて、体験事例を基	に文献と合わせて (川野)
	6	薬物療法の副作用 精神を病む人とその家族 体験事例と文献を基に計		副作用に気づくことだ	が出来るための看護師	币の役割について
	7	治療技法(精神分析的療	法)			(川野)
		精神分析的精神療法とこの技法、治療目標、対象	ロフートが開発			
	8	治療技法(来談者中心療 個人精神療法の技法(来 する。精神療法の文献検	談者中心療法、			(西出) 点について講義を (川野、西出)
	9	治療技法(動機づけ面接) 動機づけ面接の4つの中が 、トラウマ・インフォー	心的な治療技法			·
		治療技法(認知療法と行! 認知療法の技法(ネガテ 直し、損得比較表、認知 スケール(尺度)で表現 晴らしの利用、直接的な し、文献と体験事例から	動療法) ィブな思考の詞 ロ的歪みの同定 □、イメージの :論争、活動ス □有効性と限界	記録(コラム法=ABC 、誇張的表現や逆説 置き換え、認知的リノ ケジュールを記録す	生)、思考の証拠さが の利用、症状や苦痛の ハーサル、自己教示法	し、責任帰属の見 つ程度について 、、思考中断法、気
	11	治療技法(認知行動療法) 認知行動療法の技法(活 停止法、ロールプレイン 限界を討議する。	動記録表、注意			· ·

授業計画	12 治療技法(解決療法) 解決療法の治療技法、治療目標、対象、限界を教授し、実践例と文献から活用方法を討議する。 (川野)
	13 治療技法(家族療法) 家族療法の諸理論と技法(コミュニケーション派家族療法、精神力動的家族療法、構造派家族療法、多世代派家族療法、戦略派家族療法、ミラノ派/システム論的家族療法)、治療目標、対象、禁忌を教授し、文献と体験事例から有効性と限界を討議する。
	(川野)
	14 治療技法(集団精神療法) 集団精神療法の治療目標、技法、集団構成員、コ・セラピストとの連携、集団の発展段階、ルール について教授し、文献と体験事例から有効性と限界を討議する。集団精神療法を推進するセラピス トの役割について検討する。 (川野、西出)
	15 卓越した精神看護実践者が行う様々な治療技法の臨床活用
	卓越した精神看護実践者が担う治療的アプローチの技法を討議し、どのような場で、どのような技術を、どのようなニードがある対象者に提供するのか、看護の独自性と協働、そしてユーザー参加型の治療的アプローチの技法について討議する。
	(川野、西出)
テキスト ・参考書	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkingtonら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック 私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店 武藤清栄訳、J.F.T.Bugental著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴EBMからNBMへ、金剛出版 末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 日本家族研究・家族療法学会(2013):家族療法テキストブック、金剛出版 C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby 矢澤美香子編(2018):基礎から学ぶ心理療法、ナカニシヤ出版
予習・復習に ついての情報	(事前学習) ①矢澤美香子編(2018):基礎から学ぶ心理療法、ナカニシャ出版を事前に抄読しておく。②臨床で実践している精神科における治療的アプローチの技法を報告できるように資料などをまとめておく。(事後学習) 日本サイコセラピー学会など、精神科領域で実践に活用している治療技法を検討する学会などに参加して、治療技法の理解を深める。
授業の形式	講義、ディスカッション
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%) 精神を病む人とその家族が必要としている治療的アプローチの技法について(40%)、卓越した精神看 護実践者が身に付ける治療的アプローチの技法について(30%)、多職専門家と技術を共有しそれぞれ の役割の遂行について(20%)、理解し易く記述する(10%)。
その他	

						26
科目名		<u> </u>	精神看護学特論	IV(精神看護理論、援	(助技法)	
担当教員			اال	野雅資、西出順子		
クラス		_	開講学期	後期	対象学年	1年
曜日・時限		_	講義室	_	授業形態	講義
単位区分		選択	単位数		2 単位	
授業の概要	の 支担	或した看護実践者に必要だ 見方から、安全で、安心 爰として、高度な実践者(して治療・看護 こ必要な看護理	を受け、社会に適応的 論と援助技法を学ぶ。		
授業の目標	2. * 3. *	清神を病む人が必要とし、 精神を病む人が安全で安、 精神看護専門看護師とし、	心して回復に迎 て精神看護理論	えるための援助技法を と援助技法との関連を	理解し、説明できる	
育成する能力	得	神看護学を支える看護理! する。			した看護実践者のた	めの教育力を修
	1	精神看護に活用できるオペフロー、トラベルビーのか、その課題と妥当性 医療者が注意する必要が	-、外口玉子の対 生について文献村	け人関係理論が、実践の 検討と体験事例を基に		
授業計画	2	精神看護に活用できる看対人関係論の第一段階で			技法の特徴	(川野)
	3	精神看護に活用できる看 対人関係論の第二段階で			援助技法の特徴	(川野)
	4	精神看護に活用できる 対人関係論の第三段階で な援助技法の特徴			との出会いへの橋渡	しの時期」に必要
	5	精神看護に活用できる看 ジーン・ワトソンのヒュ 形成の理論になるのか、	.ーマンケアリン	/グ理論が、精神を病む		
	6	精神看護に活用できる程 ヒューマンケアリングの 議する。				
	7	 精神看護に活用できる看	€蓮理論(とっ-	マニスティックナーシ	ハノゲ)	(川野、西出)
	,	ジョセフィン・ピーターが、精神を病む人と医療献検討と体験事例を基に	-ソンとロレッ? そ者との間で信頼	タ・ヅデラードのヒュ	ーマニスティックナ	
	8	精神看護に活用できる看 ヒューマニスティックラ から討議する。				
						(川野)
	9	服薬継続支援 入院患者と退院した患者 れる看護師の役割につい		できるための工夫と技	術に関する文献と体	験事例から、望ま (川野)
	10	日常生活技能訓練(SST) SSTの目的、対象、方法 する。	、評価方法を講	義する。実施したSST <i>o</i>)体験事例からそのタ	
	11					(川野、西出)
		心理教育 心理教育の目的、対象、 と課題を討議する。	方法、評価方法	云を講義する。実施した	と心理教育の体験事例	列から、その効果 (川野)
	12	精神科訪問看護 精神科訪問看護の目的、 援などの介入技術の特別 いて討議する。			夏とケアの受け手に と	

授業計画	13 退院支援 退院支援 退院支援の技法を文献と体験事例を基に検討する。最も課題になることは何かを明らかにし、その ために入院中にできる治療技術を退院支援の立場から討議する。英国で実施しているピアサポータ 一の積極的活用について、日本の精神医療での課題について検討する。 (川野) 14 地域移行支援
	地域移行支援を実際に行っているCNSをゲストスピーカーに招き、実践例を紹介してもらい、課題と精神看護専門看護師ができる役割と機能について討議する。 (川野、ゲストスピーカー)
	15 卓越した精神看護実践者が行う様々な援助技法と看護理論の関連性
	看護理論と援助技法との関係を理解し、説明できる。 (川野、西出)
テキスト	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会
・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ
	樋口輝彦著(2016):今日の精神科治療指針 第2版、医学書院
	浦部晶夫、島田和幸(2017):今日の治療薬 2017、南山堂
	西園昌久総監修、池淵恵美監訳 (R. P. Loberman 著) (2008): リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、星和書
	店
	厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。
	白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版
	川野雅資 (2017 年発刊予定):トラウマインフォームドケア、精神看護出版
	日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院
	菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkington ら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック
	私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店
	大島巌、加藤大慈(2015): IMR 入門、IMR
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press
予習・復習に ついての情報	(事前学習) 臨床で実践している援助技法についてまとめておく。精神看護の理論を復習する。 (事後学習) 臨床で実践している援助技法を精神看護の理論で説明する。
授業の形式	講義、ディスカッション、実践報告、事例検討、ゲストスピーカー
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%) 様々な看護理論と援助技法の中から、これまでの実践例を紹介し文献検討を加えて、自分が最も大事にしている考え方(40%)と援助技法(40%)について、一貫性を持って論述する(20%)。
その他	

4) D <i>b</i>		-4-1-411	70/		27				
科目名	地域移行支援精神看護学特論								
担当教員	川野雅資、西出順子								
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義				
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数		2 単位					
授業の概要	専門看護師として、主に1年以上入院している精神を病む人に対して、家族関係、社会資源、潜在能力、リカバリーをアセスメントし、その人が安心して地域生活に移行できる看護を実践する能力を身に付ける。								
授業の目標	1. 地域移行支援の対象と支援。 2. 長期入院患者の日常生活能力、社会適応能力を理解し、支援する技術。 3. 長期入院患者の家族支援、地域の資源を理解し、連携して支援する技術。 4. 長期入院患者の潜在能力開発とリカバリーを支援する技術。 5. 地域移行支援機能強化・地域定着に関する取り組みと技法。 6. 地域移行支援を実践する時の他職種専門家との調整、コンサルテーションの技量。								
育成する能力	日本や諸外国のケアマネジ	メントモデルる	を学び、ケアに関するマ	ネジメント力を修得	身する。				
	1 地域移行支援の対象と 1年以上の長期入院精神 早期対応とピアサポーク	障害者及び、	未受診・受療中断等の精	育神障害者に対する	支援。 (川野)				
	早期対応とピアサポーターの活用。 (川野) 2 長期入院患者が体験している日常生活能力と社会適応能力向上の技術 日常生活能力と社会適応能力を高めるために必要な、直接ケア技術、間接ケア技術、SSTについて 文献検討と体験事例から討議する。 (川野)								
	3 長期入院患者の日常生活 食事の支度、洗濯、金銭	舌能力と社会通 桟管理、趣味、	日中の過ごし方、友人、	電話、インターネ	ットの活用、など				
	の力量を高めるのに有効な技術と限界を実践例から検討する。また、実践報告を行う。 (川野) 4 長期入院患者の家族が求めている支援、地域の資源の理解 デイケア、訪問看護ステーション、就労移行・就労継続支援、日常生活支援など、家族が必要とし ている支援および地域で活用できる資源について、文献検討、資料、体験事例から討議する。 (川野、西出)								
授業計画		りの専門職と医 別から討議し、	療以外の専門職、非専門 それらの専門職・非専門 コンサルテーションに	間職の効果的な連携に	を支援しているこ				
	6 長期入院患者が備えている潜在能力開発 問題点・課題にばかり目を向けずに、様々な体験を共にすることで理解できる、あるいは発揮して 明白になる潜在能力を開発する手法に関して、文献検討と体験事例から討議する。 (川野、西出)								
	7 長期入院患者のリカバリーを支援する技術 (ストレングスモデル、リカバリーに基づく心理教育 IMR・疾病管理とリカバリーの心理教育の手法についてテキストから理解する。 (川野、西出								
	8 長期入院患者のリカバリ 実践例 IMR・疾病管理とリカバ		5技術 (ストレングスモ を例示し、その成果と課		基づく心理教育)				
	9 地域移行支援機能強化病域 地域移行機能強化病域の 料、文献から学ぶ。精神	病棟での精神看 の施設基準、個 申科認定看護師	f護専門看護師の役割と	機能 支援、看護師が行う 明待について討議す	支援について資				
	サポーター、症例検討会の役割と機能に関して現	舌能力、住居確 会の実践活動を 里解を深める。	E保、退院後の医療確保な CONSのゲストスピーカー	ょどのために実践す ・に報告してもらい、					
	11 地域定着への支援 ACT 英国、米国、日本のACT で実施する上での課題	の実際とその	課題について、見聞報告	テ、実践報告の文献だ	から討議し、日本 (川野)				
	12 地域定着への支援 ACT ACTを実践しているゲスい対象への支援技術、E	(包括的地域生 トスピーカー 医療受けたいと		形成の技法、服薬を 繋ぐ技術を学び、そ					
	13 ケアマネジメントモデバ 英国、米国、日本のケブ し、有効性と課題につい	アマネジメント	、モデルの実際について、	. 見聞録、文献、体	験事例から討議 (川野)				

	14 長期入院患者が再発、再入院を防止するクライシスプラン
	患者と共に作成するクライシスプランとは何か、クライシスプランの活用支援の方法について理解
	する。 (川野)
	7.50
155 AHA 31	to the tensor of the state of t
授業計画	15 卓越した精神看護実践者が、長期入院を続けている患者とその家族の見方、考え方、ニードを満た
	す技法の臨床応用可能性についてこれまでの学習内容を振り返り、討議し、自分の考えを明確にす
	│ │ │ │ │ │
	割を討議する。 (川野、西出)
テキスト	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会
・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベル
・参与音	
	ヒロカワ
	川野雅資総編集(2017):精神看護キーワード、日本看護協会出版会
	福川摩耶、宇佐美しおり、野末聖香、他(2014):精神障害者への精神科ケア・マネジメントチーム及び
	チーム内における精神看護専門看護師(CNS)の役割と評価、熊本大学医学部保健学科紀要、10,27-35
	安藤満代、川野雅資、谷多江子、他(2015):精神障がい者が病院から地域へ移行する思いの理解、イン
	ターナショナルNursing Care Research, 14(1), 81-88
	河東田博(2009):ノーマライゼーション原理とは何か:人権と共生の原理の探求、現代書館
	厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。
	http://www/mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-K
	ikakuka/000051138.pdf
	厚労省(2017):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策。
	大力音(2017)。及列入内に指行体音音のの地域が引いて同じった共体的の次。 http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12301000-Roukenkyoku-Soumuka/0000052710.pdf
	宇佐美しおり、中山洋子、野末聖香、他(2014):再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実
	態、日本精神保健看護学会誌、23(1), 70-80
	宇佐美しおり、吉田智美、高山良子、他(2015):在宅療養移行支援(Transitional Care)における専門
	看護師の活動実態と評価、看護、67(7), 78-90
	園田順一(2010):ACTとは何か、吉備国際大学臨床心理研究相談所紀要、7号、45-50
	川野雅資(2018):トラウマインフォームドケア、精神看護出版
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric
	and Mental Health Care, Mosby
予習・復習に	(事前学習)地域移行機能強化病棟に関する法律と実践例の報告を調べる。患者と家族、地域の保健
ついての情報	医療福祉サービスの立場からの体験談や地域移行に係ることをどのように受け止めたの
	かという研究報告を調べる。
	(事後学習) 地域移行機能強化病棟で生じうる倫理的課題についてまとめておく。
	(事体予目) 地域物門域能域に対体でエレブな間壁的味趣に ジャーくまとめておく。
1-2 11/4 15	
授業の形式	講義、ディスカッション、実践報告、ゲストスピーカー、事例検討
評価の方法(部 日音 1、よ 2 1 (1000/)
評価の配点比	課題レポート(100%)
率と評価の要	長期入院患者とその家族の課題と力のある側面を評価する技術(30%)とその技術を実践する方法
点)	(30%)に関して、多職種連携の視点から(20%)から一貫性のある記述(20%)をする。
!!!	
その他	
C 47 IE	

科目名	28 急性期精神看護学特論							
担当教員	川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	 1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義			
単位区分	 選択(CNSを履修するコース)	単位数		2 単位	BIT 924			
授業の概要	専門看護師として、急性期の られるアセスメントの視点 する能力を身に付ける。	<u>' </u>	情神を病む人に対して、その	の人と家族が安心				
授業の目標	する能力を身に付ける。 1. 病気を発症した時期に精神を病む人が体験している状態の理解と支援。 2. 精神を病む人と家族への早期介入、支援。 3. 急性期に安心して治療を受けることができる技術。 4. 患者や家族の反応や言動に対して陰性感情を抱く時の自己理解と自己の立て直し。							
育成する能力	急性期の精神看護学について	て理解を深め卓	直越した看護実践者のための	の実践力と教育ス	力を修得する。			
授業計画	2 名	と関するとは、「など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、な	をゲストに招き、実践の手討を基に討議をする。 して入院治療の場を受け入連携に討議をする。 して入院治療の場を受け入連携に対議する。 地域とはいる。とないので、急性期間では、急性期間では、急性期間では、急性期間では、急性期間では、一次のでは、一次では、一次のでは、一次のでは	る術験型の 国文 法 水文域 、護法 る るら 感解つ あに満 剤の家に事主体 手検 有 い検療 一が学 術 のい をのて こりす ので基理の 米を 性則地と担 ーー。 安 態め き標献 、す援 神 とや支 に解報 国行 と野地体う 救ダ 全 をの 起、検 そい、 科	献議 、 英、 題が携ってという。 と 、 英、 題が携ってという。 と 、 英、 題が携ってという。 と 、 英、 題が携ってでプローン・の、 は、			
	基に討議する。 12 急性期の状態にある患者	音への多職種専			(川野)			
	治療との関係性について	て文献検討と体	験事例を基に討議する。		(川野)			

授業計画	13 急性期の状態にある患者の家族への多職種専門家による心理教育 多職種専門家が実施する急性期の状態にある患者の家族への家族のニードに応える心理教育プログラム、実施方法、評価について文献検討と体験事例を基に討議する。 (川野)
	14 急性期の状態にある患者の家族への多職種専門家による心理教育の実践例 多職種専門家が急性期の状態にある患者の家族への家族のニードに応える心理教育プログラムの
	実践例を紹介し、文献検討と体験事例を基に討議する。 (川野)
	15 卓越した精神看護実践者が、急性期の状態にある患者とその家族に支援する技法の臨床応用可能性
	これまでの学習から急性期の状態にある患者と家族が安心して治療を受けられ、早期に回復していく支援のために、認定看護師や多職種専門家と協働して展開する、卓越した看護実践者の看護の考
テキスト	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会
• 参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ
	針間博彦監訳、P. French, et. al., 編著 (2011):精神病早期介入、日本評論社
	法務省、厚生労働省(2014):心身喪失等の状態で重大な他害行為を行ったものの医療及び観察などに関する法律の
	施行の状況についての検討結果。
	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002gk0i-att/2r985200002gk49.pdf
	池添志乃、田井雅子、中野綾美他(2011):倫理的判断を基盤とした抑制についての調査。日本看護倫理学会誌。3(1)
	西池絵衣子、三宅美智、末安民夫他(2013):全国の精神科病床を有する施設における行動制限最小化委員会の実態
	に関する調査 運営の在り方と看護職の役割、日本精神科看護学術集会誌、56(2), 266-270
	野田寿恵、杉山直也、三宅美智他(2013):行動制限の国際比較 日本フィンランド精神科急性期医療における隔離・身体的拘束研究から、精神科治療学、28(10) 1265-1271
	宇佐美しおり、田中美恵子、永井優子他(2014):精神科看護実践 実線 における倫理的課題と対処方法の実態、日本
	精神保健看護学会誌、23(1), 112-131
	川野雅資(2018):トラウマインフォームドケア、精神看護出版
	大西玲子、他(2012):スーパー救急病棟入院患者の家族が看護師に求めるケア、日本精神科救急学会誌、15,75-82
	日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院
	「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016年版]、臨床精神科学第44巻増刊号
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999): Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental
	Health Care, Mosby
予習・復習に	(事前学習)急性期精神看護、スーパー救急病棟の看護に関する報告を調査する。患者と家族の立場
ついての情報	からの体験談や患者と家族がどのように医療・看護を受け止めたのかという研究報告を 調べる。陰性感情を抱く看護師への支援に関する文献を調べる。
	調べる。陰性感情を抱く有護師への又族に関する又脈を調べる。 (事後学習)精神看護専門看護師が実践している急性期の対象に対する調整、倫理調整、コンサル
	(事後子自) 精神有機等自有機師が失践している志住物の対象に対する調整、開建調整、コンリル テーション、研究、教育の実践をまとめておく。
	/ Y D Y V 9170 3/2 D 2/2/2/2 D C 2/2/2 N 0
授業の形式	講義、ディスカッション、実践報告、ゲストスピーカー、事例検討
評価の方法(課題レポート(100%)
評価の配点比	急性期の状態にある患者と家族が安心して医療を受けられる看護師の役割(40%)、ケア技術(30%)、
率と評価の要 点)	多職種連携・地域連携(20%)に関して、論理的に記述(10%)する。
尽)	
その他	
C 47 [E	

						29			
科目名	精神看護学演習 I (精神科治療技法)								
担当教員		川野雅資、西出順子							
クラス		_	開講学期	前期	対象学年	1年			
曜日・時限		_	講義室	_	授業形態	演習			
単位区分		選択	単位数		2 単位				
授業の概要	治療技術	卓越した看護実践者に必要な精神を病む人とその家族への治療的なアプローチの技法を身に付ける。 治療を受ける立場の人の視点から、多職種と連携した精神的な治療・回復に必要な様々な高度な治療 技法を修得する。							
授業の目標	2.	情神を病む人が必要とし 多職種と共同して提供す。 情神看護専門看護師とし	る治療的なアフ	プローチの技法を修得する					
育成する能力	様々	々な精神科技法について	理解を深め卓越	した看護実践者のための	の実践力と教育力を	と修得する。			
	1	カウンセリングの基本技 共感、受容、自己一致の		る方法を演習で身に付け	ける。	(川野、西出)			
	2	カウンセリングの基本技 信頼、安心、依存、転程		例を基に実践的に理解す	つ る。	(川野、西出)			
授業計画	3	1対1の短期精神療法 選来談者が最も相談したい身体状態、社会的状態をにして、面接者の判断を(一般的には6回から12屋べき課題と治療の頻度をて身に付ける。	いことを中心に と観察や問いかける ・来談者に伝える。 □)と頻度(一般	けなどの技法を用いてア 、面接者が出来る範囲を 的には週2回)を伝え、来	・セスメントし、来 ・来談者に伝えて、 ・ 談者の意向を優先	談者の精神状態、 談者の課題を明確 セッションの回数 して共に取り組む			
	4	1対1の短期精神療法 月 5回から10回のセッショ め、支持し、時には面接	ンで、取り組む そ者が別の方策	を提案するなど、面接者	の技法に応じた具	体的援助技法を活			
	5	用して、回復に向かう3 1対1の短期精神療法 糸	冬結期の技法			(川野、西出)			
		課題が解決することがラションで来談者は何をラジョンで来談者は何をラジョンで来談者は「あるか、面接すすめ、面接者は、今回で、関係を終結する技術	学んだか、何を何 後者に対して感]のセッション	修得した、今後同様な課 じたこと、改善した方が で自分自身が学習した事	題が生じたときに 良いことを表現で :、来談者に今後期	どのように今回の きるように会話を 待することを伝え			
	6	認知行動療法 自分の記							
		注意そらし法、アサーシ 知と行動、感情に気づく			ールテレイングで				
	7	認知行動療法 ワーク ABC法によるワークシー レイングで身に付ける。	トを用いて認知	叩行動療法を実践する技	法について体験事件	(川野)			
	8	家族精神療法 プログラ	ラムの立安			(川野)			
		仮定した患者の家族(例うつ状態)で外来通院し者と家族、など)を対象	えば、青年期で ている患者と家	マ族、引きこもり青年の.	患者と家族、成人類				
	Q	家族精神療法 宝協し言	平価 ①			(川野)			
9 家族精神療法 実施と評価 ① 仮定した患者家族(例えば、青年期で急性期の状態で入院した患者の家族、成人期の 状態)で外来通院している患者と家族、引きこもり青年の患者と家族、成人期の発達 家族、など)を対象に明確にした治療目標、技法をロールプレイングで身に付ける。									
	10	精神療法的アプローチ	宝駐却生 っ	ーパードジョン ①		(川野)			
	10	実践した長期精神療法的 改善が必要な点、来談者	ウアプローチを 音にとって安心	報告し、そこで使用して できる技法かどうか、に					
		り効果的で来談者にベネ	r / 1 ツ	公1又広と彫付りる。		(川野、西出)			
	1	Î.							

授業計画	11 精神療法的アプローチ 実践報告 スーパービジョン ② 実践した長期精神療法的アプローチを報告し、そこで使用している技法の有効性と限界、良い点と改善が必要な点、来談者にとって安心できる技法かどうか、についてスーパービジョンを受け、より効果的で来談者にベネフィットがある技法を修得する。 (川野、西出
	12 精神療法的アプローチ 実践報告 スーパービジョン ③
	12 精神療法的アプローナー美践報告 スーハービション ③ 実践した長期精神療法的アプローチを報告し、そこで使用している技法の有効性と限界、良い点と 改善が必要な点、来談者にとって安心できる技法かどうか、についてスーパービジョンを受け、よ り効果的で来談者にベネフィットがある技法を修得する。
	(川野、西出)
	13 集団精神療法 プログラムの立案 仮定した集団(例えば、長期入院統合失調症患者、青年期で急性期の状態で入院した患者又はその 家族、外来通院している精神障害者又はその家族、など)を対象に実施する集団療法の治療目標、 技法を明確にする。
	(川野、西出)
	14 集団精神療法 実施と評価 仮定した集団(例えば、長期入院統合失調症患者、青年期で急性期の状態で入院した患者又はその 家族、外来通院している精神障害者又はその家族、など)を対象に明確にした集団療法の治療目標 、技法をロールプレイングで身に付ける。
	(川野、西出)
	15 卓越した精神看護実践者が行う様々な援助技法の臨床活用
	卓越した精神看護実践者が実施する治療的なアプローチの技法を臨床で活用する際の課題を明確にする。
	(川野、西出)
テキスト ・参考書	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 狩野力八郎監訳G. 0. Gabbard著(2012):精神力動的精神療法:基本テキスト,岩崎学術出版社 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 日本家族研究・家族療法学会(2013):家族療法テキストブック、金剛出版 菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkingtonら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック 私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店 武藤清栄訳、J.F.T. Bugental著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴EBMからNBMへ、金剛出版 末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Menta Health Care, Mosby N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press
予習・復習についての情報	 (事前学習) ①N. Evans, B. Hannigan(2016): Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Pressを事前に抄読する。②精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。 (事後学習) 治療的なアプローチの技法を臨床で実践したら、有効性と限界について文献を活用してまとめておく。教育の機会があれば実施し、その時の課題と学習したことが役立った内容をまとめておく。自分の臨床に必要な治療的なアプローチの技法を明確にしていく。
授業の形式	講義、演習、ロールプレイング、プログラム作成と発表、VTR、リフレクション、スーパービション
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%) 自分の臨床に最も活用できる治療的なアプローチの技法を抽出し、その技法、目的、対象、方法、 などを明確にする。実践可能な治療的なアプローチの技法か(40%)、患者と家族の視点から安心して受 けられる治療的なアプローチの技法か(40%)、論旨が一貫しているか(20%)という視点で評価する。
その他	

科目名		精神看護学演習Ⅱ	(精神看護理論、持	爱助技法)	30				
担当教員	川野雅資、西出順子								
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	演習				
単位区分	選択	単位数		2 単位					
授業の概要	技法を身につける。精神	精神看護理論に支えられた卓越した精神看護実践者に必要な精神を病む人とその家族への様々な援助技法を身につける。精神を病む人の物の見方から、安全で、安心して治療・看護を受け、社会に適応的に、そして自立して生活するための支援として、高度な精神看護実践者に必要な援助技法を修得する							
授業の目標	 精神看護理論に基づくする。 患者と家族が信頼して 精神看護専門看護師と 	受けられる高度な援 しての実践への活用	助技法を修得する。 可能性を探る。						
育成する能力	精神看護学の実践を支え 実践力と教育力を修得す		助技法について理角	军を深め卓越した看護	実践者のための				
	1 対人関係論に基づく対人関係論の発展段		の実際についてロー	・ルプレイングを用い	て修得する。 (川野、西出)				
授業計画	2 ヒューマンケアリンジーン・ワトソンのける。		^で の理論に基づく援	助技法の実際を、演習	習を通して身につ (川野)				
	3 ヒューマニスティッ ヒューマニスティク ける。	クナーシングの理論。 ナーシングの実存主		まままで ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま まま	習を通して身につ (川野)				
	4 精神を病む人が安心 文献や資料を活用し 支援プログラムを立	、体験事例を含めて言							
	5 精神を病む人が安心 グ 立案したプログラム 良い点と改善するこ にする。プレゼンテ	を実施し、実行した技 とが必要な点を討議	支法とそのプログラ	ムの内容に関して、	学生、教員と共に けべき技法を明確				
	6 トラウマ・インフォー 臨床で実施可能なト 患者との共同の可能	ラウマ・インフォー。		0	(川野)				
	7 トラウマ・インフォー 立案したトラウマ・シ きかけるとしたら、 のように説明し、参	インフォームドケア <i>0</i> どこの誰に、どのよう) 内容の実現するた に働きかけるか、						
	8 日常生活技能訓練(St 仮定した(例えば、長 害者、など)対象に携 割を考えたプログラ (川野)	長期入院統合失調症患 是供するSSTの方法、Ł	者、急性期の青年基		っす慢性期精神障				
	9 日常生活技能訓練(S) 作成したプログラム の内容に関して、学 ラムを立案し、改善	でロールプレイングで 生、教員と共に良い点	まと改善することが		より良いプログ				
	10 患者への心理教育 仮定した対象(例えば神障害者、など)に携	ば、長期入院統合失調			(川野) で暮らす慢性期精 (川野)				
	11 患者への心理教育 作成したプログラム 、学生、教員と共に								

	7/ 24 1. 5.2 (4.1) 4. (1.1.4) (1.1.4)
授業計画	改善すべき技法を明確にする。 (川野)
	12 精神を病む患者の家族への心理教育 プログラムの立案 仮定した家族(例えば、急性期の統合失調症の家族、長期入院の精神障害者の家族、初発の青年期 の患者の家族、患者が家庭で暴力行為があるために退院をためらう家族、など)を対象に、心理教育の方法、技法、環境、ルール、リーダーシップ、コ・リーダーの役割を考えたプログラムを作成する。
	(川野)
	13 家族への心理教育 実施と評価 作成したプログラムでロールプレイングを実施し、実行した技法とそのプログラムの内容に関して 、学生、教員と共に良い点と改善することが必要な点を討議して、より良いプログラムを立案し、 改善すべき技法を明確にする。
	(川野)
	14 精神科訪問看護 患者と家族が安心して受けられる、精神科で必要な訪問看護の援助技法を整理し、訪問前から訪問 時、訪問後の援助技法を具体的に計画する。
	卓越した精神看護実践者が実施する治療的なアプローチの技法を臨床で活用する際の課題を明確にする。
	(川野、西出)
テキスト ・参考書	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 西園昌久総監修、池淵恵美監訳(R. P. Loberman著)(2008):リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、星和書店 C. A. Shea, L. R. Pelletier, E. C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby 稲田八重子監訳(H. Pepulau著)(1973):人間関係の看護論―精神力学的看護の概念枠、医学書院長谷川浩、川野雅資訳(L. Zuderard,)(1983):ヒューマニスティックナーシング、医学書院川野雅資、長谷川浩訳(J. Watson著)(2003):ワトソン21世紀の看護論 ーポストモダン看護とポストモダンを超えて一、医学書院大島巌、加藤大慈(2015):IMR入門、IMR
予習・復習に ついての情報	(事前学習) ①精神看護学特論IVの内容を復習しておくことと ②臨床で実践した援助技法の何が有効で何が課題だったかをレポート1枚程度にまとめておく。 (事後学習) 修得した援助技法を臨床に応用したら、文献を活用して課題と利点をまとめておく。スタッフに教育をする機会があれば、その時の教育の技術をまとめる。
授業の形式	演習、討議、プログラムの発表、リフレクション、ロールプレイング、スーパーピジョン
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%) 自分の臨床に最も活用できる援助技法を抽出し、その技法、方法、ルール、リーダーシップ、など を明確にする。実践可能な内容か(30%)、精神看護の理論と整合性があるか(30%)、患者と家族の視点 から安心して受けられるプログラムか(30%)、分かりやすいプログラムの記述か(10%)という視点で評価する。
その他	

					31			
科目名	精神看護学実習 アセスメント							
担当教員	川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	実習			
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数		2 単位				
授業の概要	精神を病む人とその家族の精神状態、身体状態、社会生活能力、退院可能性、ソーシャルサポートなどのアセスメントを行い、それらアセスメントを統合し、精神看護専門看護師として看護計画を立案し、支援の実践能力を修得する。							
授業の目標	 精神を病む人を精神機能、身体状態、社会生活力、退院可能性、ソーシャルサポートなどの視点から総合的にアセスメントできる。 総合的なアセスメントから、患者の課題を特定し、持っている力と合わせて患者の長期目標、短期目標を設定し、看護計画を患者と共に計画し、実践できる。 ケースカンファレンスや家族との面談より、精神を病む人とその家族の現在の状態を総合的にアセスメントし、他職種専門家(精神科医・臨床心理士・作業療法士・社会福祉士・薬剤師など)と共に支援計画を立案し、実践できる。 							
育成する能力	精神を病む人とその家族の合育力を高める。	包括的なアセ	スメントを実践して卓越しケ	た看護実践者のた	上めの実践力と教			
授業計画	 実習病院 ハートランドしぎさん 実習期間 7月25日から9月15日までの間の2週間 3 実習内容 ①複雑な問題を抱えた精神を病む人を1名ないし2名受け持ち、精神状態、身体状態、社会生活力、退院可能性、ソーシャルサポートなどの視点から総合的にアセスメントを行う。 ②総合的なアセスメントから、患者の課題を特定し、持っている力と合わせて患者の長期目標、短期目標を設定し、看護計画を患者と共に計画し、実践する。 ③他職種専門家からの情報やケースカンファレンスなどを通じて、精神症状やフィジカルアセスメントを行う。 ④ケースカンファレンスや家族との面談などを通じて、家族の疾患に対する理解や家族機能などをアセスメントし、家族をエンパワーメントする看護計画を他職種専門家と共に立案し、実践する。 ⑤1週目で受け持ち患者・家族のアセスメントを実施し、看護計画を立案する。その後、計画を実践し、評価、再アセスメントを行う。 4 カンファレンス ①実習病院の精神看護専門看護師と担当教員から定期的なスーパーバイズを受ける。 ②アセスメントの方法、適切な尺度の使用、アセスメント結果の判断のスーパーバイズを受ける。 							
テキスト・参考書	書院 福田俊也(2014):観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド 改訂第3版、じほう 沼初枝(2013):臨床心理アセスメントの基礎、ナカニシヤ出版 日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院 「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016 年版]、臨床精神科学第44巻増刊号							
予習・復習に ついての情報	(事前学習)精神看護学特論 (事後学習)学習した内容を			ハるアセスメント	を整理する。			
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。							
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	スーパーバイズをする精神 ³ (100%)	————— 看護専門看護I	 師の意見も参考にして実践 [‡]	────────────────────────────────────	-トで評価			
その他								

	T				32		
科目名	精神看護専門看護師役割実習						
担当教員	川野雅資、西出順子						
クラス	一 開講学期 後期 対象学年 1年						
曜日・時限	_	講義室	1	授業形態	実習		
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数	2	2 単位			
授業の概要		解を深める。	·人とその家族・介護者への支 精神看護専門看護師が活用し 高度な臨床判断を学ぶ。				
授業の目標	研究の6つの役割と機能の 2. 精神看護専門看護師の高度 できる。	の概要を理解 度な臨床判断 車携ができ、	と技法を学び、実際に看護実 相談・調整・教育などの役割	『践を行い、 自	己の課題を明確に		
育成する能力		つの役割につ	Oいて理解を深め卓越した看記	護実践者のため	りの実践力と教育		
授業計画 デキスト ・参考書	1 実習病院 ハートランドしぎさん、有馬高原病院、東京女子医科大学八千代医療センター 2 実習期間 1月末から3月末までの間の2週間 3 実習内容 ①事前に教員及び精神看護専門看護師の指導を受けて実習計画を立案する。 ②施設のオリエンテーションを受け、実習病棟の患者の生活支援とケア実践活動についての概要を知る。 ③精神看護専門看護師の指導のもと、精神看護専門看護師の機能と役割(直接ケア、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究)について、事例検討会や症例カンファレンスなどへの見学、参画などを通じて学習する。また、他職種との連携について、理解を深める。 ④精神看護専門看護師の臨床判断と技法を担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受けて意味づける。 4 カンファレンス・スーパーバイズ ①適宜、精神看護専門看護師、指導教員からスーパーバイズを受ける。 ②1・2週目終了時にカンファレンスを開き、助言を受けながら、実習を進める。 野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ宇佐美しおり、田中美恵子、永井優子他(2014):精神科看護実線における倫理的課題と対処方法の実態、日本精神保健看護学会誌、23(1), 112-131 野末聖香著編集(2004):リエゾン精神看護:患者ケアとナースの支援のために、医歯薬出版株式会社安田妙子、山内典子、山田咲樹子、他(2012):大学病院における専門領域の異なる CNS の協働に関する研究、木村						
予習・復習に ついての情報	平井元子(2014): リエゾン: 身体とこころをつなぐかかわり、仲林書林 (事前学習) 精神看護専門看護師の役割と機能、そして活動に関する文献を調べる。精神看護専門看護師に直接活動内容を聴ける機会を積極的に作る。 (事後学習) 学習した6つの役割を臨床の場で実践し、その体験をまとめる。						
授業の形式	実習。精神看護専門看護師。	と教員から定	期的なスーパーバイズを受け	る。			
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	スーパーバイズをする精神 ^ま (100%)	—— 看護専門看護	師の意見も参考にして実践場	画と実習レポ	ートで評価		
その他							
I							

		33					
科目名	直接ケア実習						
担当教員	川野雅資、西出順子						
クラス	一 開講学期 後期から前期 対象学年 1年~2年	:					
曜日・時限	— 講義室 — 授業形態 実習						
単位区分	選択 (CNSを履修するコース) 単位数 4 単位						
授業の概要	精神を病む人及び/又はその家族を総合的にアセスメントし、その結果対象に必要な治療方法をし、実施し、評価することを学ぶ。	選択					
授業の目標	1. 精神を病む人の精神状態、身体機能、社会面を総合的にアセスメントして、精神を病む人が必しているセラピーを実施し、その効果を評価する。 2. 精神を病む人の家族が必要としているセラピーを実施し、その効果を評価する。						
育成する能力	精神を病む人とその家族への治療技法を実践して卓越した看護実践者のための実践力と教育力を る。	高め					
授業計画	 実習病院 ハートランドしぎさん、有馬高原病院、やまと精神医療センター 実習期間 3月1日から9月15日までの間の4週間(180時間) 対象患者又は家族 複数名(セラピーに応じて適切な対象者数を決める。) 学習内容 ①精神を病む人の精神状態、身体機能、社会面を総合的にアセスメントする。 ②対象の必要性に応じて精神療法、集団精神療法、家族療法などから効果的と判断できる治療技法を選ぶ。 ③選択したセラピーについて患者及び/又は家族に分かりやすく説明して同意を得る。 ④実施したセラピーの効果を評価する。 実習方法 ①実習前に担当教員と精神看護学演習 I・II のセラピーの学習修得を確認する。 ②実習前に担当教員から実施するセラピーのスーパーバイズを受ける。 ③セラピーを実施する前に精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。 ④対象のアセスメントの結果を精神看護専門看護師と教員からスーパーバイズを受ける。 ⑤対象が必要としているセラピーを精神看護専門看護師と教員からスーパーバイズを受けて選択する。 ⑥選択したセラピーについて患者及び/又は家族の同意を得る。 ⑦精神看護専門看護師と共同してセラピーを実施する。 						
テキスト ・参考書	⑨セラピーを実施する際には、適時、担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。 西園昌久総監修、池淵恵美監訳(R. P. Loberman 著)(2008):リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、 星和書店 特野力八郎監訳(Glen O. Gabbard 著)(2012):精神力動的精神療法:基本テキスト,岩崎学術出版社 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 宇佐美しおり、中山洋子、野末聖香、他(2014):再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実態、日本精神保健看護学会誌、23(1),70-80 武藤清栄訳、J. F. T. Bugental 著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴 EBM から NBM へ、金剛出版						
予習・復習に ついての情報	末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出 版 N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press (事前学習)精神看護学演習 I・Ⅱの技術を復習する。精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。これまでに実施したセラピーの体験を整理する。 (事後学習)学習した治療技法の臨床への応用を探索する。						
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。						
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	スーパーバイズをする精神看護専門看護師の意見も参考にして実践場面と実習レポートで評価 (100%)						
その他							

					34			
科目名	上級直接ケア実習							
担当教員	川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	通期	対象学年	2年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	実習			
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数	:	2 単位				
授業の概要			決困難な精神の課題を抱えて 看護専門看護師の臨床判断と					
授業の目標	家、地域の資源のスタッフ。	と協働してア	患者とその家族・介護者に必 セスメントし、介入し、評価	する。				
育成する能力	選択したサブスペシャリテル越した看護実践者のための領		その家族の複雑で解決困難な 力を高める。	:課題に対する看	護を実践して卓			
	有馬高原病隊 地域移行支援 移行支援機能	完の急性期病 受精神看護学 経強化病棟。	ペシャリティに選択した学生 棟、都立松沢病院又はスーパ をサブスペシャリティに選択	ペー救急病棟。 した学生は、有具				
授業計画	2 実習期間 4月から9月15日までの間に連続して2週間実習する。 3 対象患者 複雑で解決困難な事例を2事例受け持つ。 4 実習内容 患者とその家族・介護者が精神を病むことによって求めている支援を、対象者を含めてアセスメントする。ケア計画を立案し、精神看護専門看護師が行う介入を実行し、対象者と共に評価する。 5 実習方法 ①担当教員のスーパーバイズを受けて実習計画を立案する。							
	②実習病院の精神看護専門看護師の指導を受けて実施する。 ③適時、担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。							
テキスト・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10 精神および行動の障害、医学書院日本神経学会監修、American Psychiatric Association 原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き、医学書院日本神経学会監修、American Psychiatric Association 原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き、医学書院厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。http://www/mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/000051138.pdf野田寿恵、杉山直也、三宅美智他(2013):行動制限の国際比較日本フィンランド精神科急性期医療における隔離・身体的拘束研究から、精神科治療学、28(10)1265-1271狩野力八郎監訳(Glen 0. Gabbard 著)(2012):精神力動的精神療法:基本テキスト,岩崎学術出版社「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016年版]、臨床精神科学第44巻増刊号武藤清栄訳、J.F.T.Bugental 著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴 EBM から NBM へ、金剛出版							
予習・復習に ついての情報	(事前学習)精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。サブスペシャリティに応じて地域移行支援精神 看護学特論又は急性期精神看護学特論の内容を復習しておく。 (事後学習)臨床の場で学習した知識と技術を応用する。その体験をまとめておく。							
授業の形式	実習。精神看護専門看護師。	と教員から定	期的なスーパーバイズを受け	†る。 				
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	スーパーバイズをする精神 ³ (100%)	スーパーバイズをする精神看護専門看護師の意見も参考にして実践場面と実習レポートで評価						
その他								

科目名	特別研究										
担当教員	守本とも子、辻下守弘、服音 松浦純平、美甘祥子、小林由		雅世、堀内美由紀、西薗	貞子、柴田政彦、	伊藤健一、						
クラス	<u> </u>	開講学期	通期	対象学年	1~2年						
曜日・時限	_	講義室	(指導教員に確認)	授業形態	演習						
単位区分	選択必修	単位数		8 単位							
概 要		「精神看護学分野」「在宅看護学分野」「育成看護学分野」の3分野にかかわり、学生が作成した研究 計画を基に具体的な研究へと導き、論文を完成させるための指導を行う。									
授業の目標	1. 研究計画書の作成に関する基 2. 専門看護領域の発展や専門知 研究活動を行える。 3. 研究を推進するにあたり確か	口識・技術の いな倫理観に	向上をはかるために、科 裏付けられた研究的態度	を身に付けること	こができる。						
育成する能力	研究の遂行に伴う研究協力者にする。	はじめ研究フ	ィールドにおける関係す	る職種とのマネシ	ジメント力を修得						
授業計画 及び テーマ	1回~30回 1. 在宅医療看護分野、育成看護学分野、精神看護学分野を取り巻く状況について関連文献をまとめプレゼンテーションを行い、研究的に取り組むべき課題を抽出する。 2. 課題に関連した国内外の研究論文をクリティークする。 3. 課題に関する研究状況を明らかにし、研究的に取り組むべき課題を精選する。 31回~60回 1. 課題に関する研究計画書の作成 2. 研究倫理委員会の審査申請書の作成 61回~90回 1. 研究対象者、施設などとの調整 2. データ収集・整理、分析 91回~120回 論文作成 (守本とも子) 在宅療養者とその家族の QOL 向上と自立をめざした看護実践について、最近の研究成果を文献レビューする。そして、今後の在宅療養者とその家族への看護実践の在り方と課題解決のための方策を探究するための研究指導を行う。 (辻下守弘)										
	高齢者の運動習慣形成のための動分析学的アプローチとその第	高齢者の運動習慣形成のための行動変容と高齢者の介護者を対象とした介護技術指導を目的とした行動分析学的アプローチとその効果に関して研究計画から研究の実施、そして論文作成までを指導する。									
	(服部律子) 子育て準備期から周産期、子育て期までの人々や母子に対する看護など次世代育成への支援に関 分野において、自ら課題を発見し、研究テーマを設定して研究に取り組み修士論文にまとめるま プロセスを指導する。										

(吉村雅世)

高齢者ケア及び高齢者の看護のナラティヴ・アプローチを取り上げ、対象理解や支援方法などの研究、科学的な研究方法の習得、論文作成の指導を行う。

(堀内美由紀)

グローバル化,ダイバーシティなどをキーワードとして、長期に日本で生活をしてきた在日外国人の 高齢化の課題、介護支援や在宅看護に関する国際比較、途上国における介護に対する家族の認識、等 の研究テーマを取り扱う。海外における調査に関する研究倫理や手順についても指導する。

(西薗貞子) R2.4.1~

看護師には専門分野に関わらず、変化・多様性・複雑さへの対応が求められています。 様々な分野の種々の課題への対応力、看護師の能力育成、臨床における継続教育の視点から検討を行います。

授業計画 (柴田政彦) R2.4.1~ 及び 慢性疼痛患者のアセスメント、有効な看護支援等に関して研究計画の立案、研究計画書の作成、研究 テーマ 遂行、研究報告書の作成までの研究指導を行う。 (伊藤健一) R元.7.1~ 急増する慢性呼吸器疾患や、虚血性心疾患を有する人々の回復支援としての運動療法と生活支援に関 連する分野において研究テーマを設定し、一連の研究プロセスと研究発表の方法、ならびに論文作成 を指導する。 (松浦純平) 成人看護学領域急性期(クリティカル)分野において、特に術後せん妄に関する研究課題を中心に、 量的研究と質的研究のミックスメソッドであるテキストマイニング法を用いて修士論文を完成するた めの研究指導を行う。 (美甘祥子) 新しい生命を産み育てる母親とその家族や、各ライフステージにある女性とその家族の健康課題・問 題に関する研究課題について、修士論文の完成に至るまでの研究プロセスを指導する。 (小林由里) 新人看護師を含む看護師のクリティカルシンキング能力、看護実践能力に関するテーマについて、研 究課題の明確化や研究方法の検討など研究をまとめるにあたり必要な指導を行う。 テキスト ・参考書|特に指定しない。 予習・復習に ついての情報 看護関連の課題について問題意識を持って学ぶ姿勢をもつ。 授業の形式 個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション 評価の方法(評価の配点比 文献レビュー(20%)研究方法の妥当性(20%)論文の完成度(60%) 率と評価の要 点) その他

※2020.3.27 現在

					36					
科目名			課題研究							
担当教員			川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	通期	対象学年	2年					
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	演習					
単位区分	選択必修(CNS必修)	単位数	4	1 単位						
授業の概要	ークし、実践を概念化し新 成するための研究指導を行	神看護学実習で取得した精神看護専門看護師の技法について、理論的、広範囲な文献からクリティークし、実践を概念化し新たな技法も開発、有効性の検証又は理論開発を行い、課題研究の論文を完まるための研究指導を行う。								
授業の目標	2. 研究テーマにふさわしい	学習内容の中から、精神看護専門看護師の実践の中で生じる課題を抽出する。 研究テーマにふさわしい知見を得て、修士課程修了に相当する課題研究論文をとしてまとめる。								
育成する能力										
授業計画のアーマー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	精積 (川野精しま) (川野精しま) (別として) (別の (別を) (別の です) (精神看護学実習の実践で体験した患者及び家族の状態に応じた看護支援方法及び高度な看護技術、看護師の自己理解に基づく実践場面で気づいた看護援助を行う際の内発的な力、患者及び家族と看護師との関係性に影響する要因、などに関して高度な看護技術と知識を備えた精神看護師に必要な現象、技法、などに関してこれまでの実習記録とスーパービジョンの記録を振り返り、課題研究にふさわしいテーマを抽出する。学生同士でのプレゼンテーションを行い、テーマの生成に示唆をえる。 16 回~20 回 文献検討 デーマに関連する、国内外の文献を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検討を行う。 21 回~30 回 課題に関する研究計画書の作成、提出。研究倫理委員会への審査申請書の作成。31 回~40 回 デーマに関する実践場面の抽出を文献と照らし合わせて考えを深める。41 回~60 回 論文作成 課題研究論文を論文の形式に従って記述する。 研究テーマの抽出 実践の中で生じる課題を抽出する。 デーマに関連する文献を看護学、精神医学、心理学、社会福祉学、薬学などから探索する。必要があれば海外の文献を探索する。 と要があれば海外の文献を探索する。 と当教員、学生同士で討議してテーマを深める。 備理委員会 研究計画を倫理委員会に提出して承認を得る。 修士論文としての質を高めるために、担当教員、精神看護専門看護師、学生と定期的に討議する。 担当教員から定期的に指導を受ける。積極的に時間の設定をする。 (川野雅寶) 急性期精神障害者とその家族又は地域移行支援機能強化病棟に入院中の長期入院精神障害者とその家族に対して、複数回実施した自らのケア技術を、文献的裏付けを討議して臨床適応可能について論文としてまとめる。プラクティスをエビデンスにする。 (西出順子) 看護の臨床のカウンセリング手法や技術に関する研究課題を設定して、論文を作成するための指導を								
テキスト ・参考書	特に指定しない。									
予習・復習に ついての情報	これまでの実習記録を振り	返る。自分の	課題を強化する文献を自ら調	べる。						
授業の形式	個別指導と学生と教員への	プレゼンテー	ション							
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	課題研究論文(リサーチペ	ーパー)を持	って修士論文の評価基準と手	順に従って評	価(100%)					
その他										

修士課程学位論文題目届

奈良学園大学大学院 看護学研究科 看護学専攻(修士課程)

提出年月日(西暦) 年 月 日

氏名(自署): 主指導教員 : 削指導教員 : 指導教員の承認を得てから教務課に提出してください。	印 印 印
	印
	印
指導教員の承認を得てから教務課に提出してください。	
指導教員の承認を得てから教務課に提出してください。	ÉD
	⊢l↑
<u> </u>	
1. 論文題目は和文、英文の両方を記入してください。	
・題目が日本文の場合は、英語訳を必ず書いてください。	
・題目が英文の場合は、日本語訳を()書きで必ず書いてください。	
※2. 学位記の氏名はここに記入した氏名を用います。	
※3. 自署欄以外はパソコン等で入力してください。	
NO. 日 自 M PA/ Fits/ ・/ ー V 寺 C/C/J U C N C C V 。	
究科広報媒体への題目・氏名掲載の同意	
□ 広報媒体における論文題目と執筆者氏名の掲載を同意します。	
二 広報媒体における論文題目と執筆者氏名の掲載を同意しません。	
受領印	
Things.	
修士課程学位論文題目届受領票	
	얼티나 쓰나 쓰면
	学園大学大学院
看護学研究科 看護学専	.攻(修士課程)
学籍番号:	
长 名:	



奈良学園大学大学院 看護学研究科 看護学専攻

(2020年度)

I 研究科の教育研究上の目的

教育理念に基づき、在宅看護、育成看護、精神看護分野における専門性を深め、国内外で活躍することができる高度な看護実践者と看護の各分野における実践的教育の担い手及び研究者を育成することを目的とする。

Ⅱ 教育研究上の目標

- (1)地域医療を支える質の高い看護実践者の育成
 - ・看護実践のリーダーとして、高い倫理観をもち、チーム医療に求められる「実践力」「マネジメント力」「教育力」「研究力」を備えた高度な看護専門職として活躍する人材を育成する。
- (2) 最新の看護学教育を実践する教育者の育成
 - ・看護大学等で将来の医療を担う看護職者を育てるため、最新の知識と技術、研究力を もち、高い倫理観と責任感を備えた教育者としての人材を育成する。
- (3) 臨床から地域を包括する視野をもつ研究者の育成
 - ・保健医療分野での課題の解決に向けて、国際的視野をもって保健・医療・福祉システムを創造的に構築するため企画・調整・統括的能力を発揮できる研究者としての人材を育成する。

Ⅲ 大学院及び研究科等名称・英文表記

大学院名 奈良学園大学大学院 Graduate School of Naragakuen University

研究科名 看護学研究科 Graduate School of Nursing

課程名 修士課程 Master Course

専攻名看護学専攻Master Course of Nursing学位名修士(看護学)Master of Science in Nursing

IV ポリシー

<アドミッション・ポリシー>

- (1) 学修目標を明確にして主体的に学ぶことができる。
- (2) ヒューマンケアを提供する看護職としての資質を有している。
- (3)国際的視野に立ち、柔軟な発想と論理的思考で課題を探究する姿勢をもっている。

〈カリキュラム・ポリシー〉

- (1)看護学分野における高度な看護実践能力と教育研究能力を有する人材を育成するための教育課程を編成する。
- (2)高度な看護実践能力と教育、研究の基盤となる専門的知識と学際性を備え、また、高い倫理観と国際性を養うため、基盤科目及び専門科目に区分した体系的な教育課程を編成する。
- (3) 基盤科目では、専門の学習の深化と発展につながる基礎的理論及び研究技法又は国際的視野に立脚した最新の知識と科学的根拠に基づいた理論の教授に重点を置いた講義、演習を行う。
- (4) 専門科目、研究科目として、講義、演習及び特別研究・課題研究を通し、高度な専門

的能力を養成する科目を設置する。なお、CNSを履修するコースには資格認定のための必要な科目を設置する。

(5) 主指導教員と副指導教員による複数の教員指導体制のもと、高度な看護実践に貢献できる論文又は課題研究の研究指導を行う。

〈ディプロマ・ポリシー〉

- (1) 各専門分野における諸理論に精通し、臨床現場で生じている課題を科学的、論理的に解決する方法を修得し、質の高い看護実践力を有している。
- (2) 臨床で生じている課題について、研究手法を用いて科学的に探究できる能力を有している。
- (3)各専門分野において、臨床での看護実践を教育するための知識を有している。
- (4) 高い倫理観をもち、臨床で生じる倫理的問題に対して、適切に判断し、調整する方法を見出す力を有している。
- (5) 看護実践及び教育、研究について、国際的視野をもち、保健医療チームにおけるリーダーとして、他のメンバーを尊重し、協働や連携を促進できるマネジメント力を有している。

V 授業時間

時限	時刻
1	9:00~10:30
2	10:40~12:10
3	13:00~14:30
4	14:40~16:10
5	16:20~17:50
6	18:00~19:30
7	19:40~21:10

※休講等連絡は、入学時配付のメールアドレスへ連絡します。

VI 成績評価

秀、優、良、可、不可をもって表わし、秀、優、良、可を合格とし、不可を不合格とします。評価は100点をもって満点とし、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とします。

VII 修了要件

本大学院に2年以上在学し、所定の科目を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定します。

CNSを履修するコースにおいては、基盤科目16単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント12単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から4単位以上)、専門分野24単位以上(特論4科目8単位、演習2科目4単位、実習4科目10単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか1科目2単位選択)、研究科目から課題研究4単位を加え、合計44単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格することをもって修了要件とします。

VⅢ 学位

修士 (看護学)

IX 教員組織(令和2年9月16日現在)

専任教員

- 1 守本 とも子 教授(研究科長・学部長)
- 2 川野 雅資 教授 (CNS養成課程申請責任者)
- 3 吉村 雅世 教授
- 4 辻下 守弘 教授
- 5 服部 律子 教授
- 6 西薗 貞子 教授
- 7 堀内 美由紀 教授
- 8 柴田 政彦 教授
- 9 西川隆 教授
- 10 伊藤 健一 教授
- 11 松浦 純平 准教授
- 12 美甘 祥子 准教授
- 13 芝田 ゆかり 准教授
- 14 小林 由里 准教授
- 15 西出 順子 講師

兼担教員

- 16 金山 憲正 教授 副学長
- 17 野中 紘士 講師
- 18 吉川 義之 講師
- 19 井上 葉子 講師 2020.9.16~
- 20 佐藤 郁代 講師 2020.9.16~
- 21 前田 吉樹 助教
- 22 齋藤 英夫 助教

兼任講師

- 23 中川 晶
- 24 平野 文男→周藤俊治 2020.9.16~
- 25 小林 和彦
- 26 三田村 七福子
- 27 五味田 裕
- 28 峰 博子
- 29 辻川 真弓
- 30 吉田 和枝
- 31 竹内 佐智恵
- 32 福録 恵子
- 33 丸尾 智実
- 34 新谷 奈苗
- 35 上野 栄一 36 村岡 潔
- 00 111-1 186
- 37 市村 由美子
- 38 山口 求

奈良学園大学大学院履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は授業科目(以下「科目」という。)の履修方法等に関し、奈良学園大学大学院学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、必要な事項を定める。

(科目の開設)

- 第2条 学則第14条に基づき、毎学年の初めに科目の開設を行う。
- 2 科目の開設は、毎学年における授業科目、授業時間数及び授業担当教員を示すものとする。
- 3 精神看護学分野においては、高度実践看護師養成課程「CNSを履修するコース」を設け、そのコースの1学年の定員は2名とする。

(履修の登録)

- 第3条 学生は、履修しようとする科目について、各学期の初めにおいて指定された期日までに所定の履修届を提出し履修科目の登録を行なわなければならない。
- 2 学生は、前項の履修登録をした後においては、履修登録した科目を任意に変更することができない。

(指導教員)

- 第4条 専門分野の研究および授業の科目の履修を指導するため、学生ごとに指導教員を定める。
- 2 指導教員決定後変更のある場合には、奈良学園大学大学院 看護学研究科委員会の承認を得て、「指導教員変更届」を提出しなければならない。

(修了要件)

- 第5条 本大学院においては、基盤科目から必修6単位を含み10単位以上、専門科目から3つの分野のうち1つの分野を主たる分野として演習2単位を含む8単位以上及び他の分野から4単位以上の計12単位以上、研究科目から特別研究8単位を加え、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格することをもって修了要件とする。ただし、精神看護学分野の急性期精神看護学特論と地域移行支援精神看護学特論、実習科目は履修できないものとする。
- 2 CNSを履修するコースにおいては、基盤科目16単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント12単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から4単位以上)、専門分野24単位以上(特論4科目8単位、演習2科目4単位、実習4科目10単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか1科目2単位選択)、研究科目から課題研究4単位を加え、合計44単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格することをもって修了要件とする。

(履修の禁止)

- 第6条 次に揚げる科目は履修することができない。
 - (1) 履修登録をしていない科目
 - (2) 既に単位を修得した科目
 - (3)授業時間が重複する科目

(単位の認定)

第7条 各科目の単位の認定は、試験の成績により行い、合格者に所定の単位を与える。 (試験)

- 第8条 試験は、筆記試験、口述試験、論文提出その他とする。
- 2 試験は、原則として担当教員が実施する。

(受験資格)

第9条 履修する科目の出席時間数が、当該科目の授業時間数の3分の2以上出席した学生には、 その科目の受験を認める。ただし、出席時間数が3分の2以上に達しない者のうち、やむを得な い理由による欠席については、担当教員が受験資格を認めることがある。

なお、授業料を滞納している学生には全科目、受験資格を与えないものとする。

(追試験)

第10条 追試験は、急病その他やむを得ない正当な理由により試験を欠席した者に対して行う。 2 前項の規定により追試験を受けようとする者は、その科目の担当教員の許可を得たうえ、必要 書類を添えて、追試験受験願を教務課へ提出するものとする。

- 3 第1項に規定する正当な理由及び第2項に規定する必要書類とは、次の各号によるものとする。
 - (1) 正規の通学手段による事故、悪天候等での遅延とし、必要書類は、事故証明書または遅延証明書等とする。
 - (2)病気、負傷等による通院及び入院とし、必要書類は、診断書等とする。
 - (3) 忌引きとし、必要書類は、葬儀礼状等とする。
 - (4) その他事情やむを得ないと認められるものとし、その日時に欠席しなければならなかったことを証明する文書等とする。

(再試験)

- 第11条 試験において不合格の評価を得た学生に対して1回を限度として再試験を実施すること ができる。
- 2 前項の規定により再試験を受けようとする者は、再試験手続き日に、再試験受験料を添えて、再試験受験願を教務課へ提出するものとする。
- 3 再試験の受験料は別に定める。

(再試験、追試験の成績の評価)

- 第12条 再試験の成績の評価は、可(60点)を最高点とし、担当教員が行うものとする。 また、追試験の成績の評価は、秀(90点)をもって満点とし、秀(90点)、優(80点以上90点未満)、 良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。
- 2 2 人以上の教員により授業を分担する科目については、当該科目を分担する教員の合議により成績の評価を行なうものとする。

(最終試験の成績評価)

第13条 学則第22条での最終試験の成績は、合格又は不合格の評価をもって表す。 (試験における不正行為)

第14条 試験において不正行為があったときは、当該不正行為に係る科目の試験及び当該試験 期間中に既に受験した科目の試験は無効とし、当該試験期間中の以後の受験を認めないもの とする。

(再履修)

第15条 成績の評価が不合格となった科目について単位を修得しようとするときは、当該学期以 降に改めて履修届を提出し、再履修しなければならない。

(雑目1)

第16条 この規程に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、学長がこれを定める。

附則

この規程は平成30年4月1日から施行する。

附則

この規程は令和2年6月1日から施行する。

奈良学園大学大学院学位規程

(目的)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)、奈良学園大学大学院学則に基づき、奈良学園大学大学院(以下「本学大学院」という。)において授与する学位の種類、論文審査、その他学位に関して必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学大学院において授与する学位は、修士(看護学)とする。

(学位の授与)

第3条 学長は、広い視野に立って深い学識を修め、看護学における研究能力または高度な専門性を必要とする看護職者として高い能力を有する者に対し、本学大学院学則第23条の定めるところにより、所定の学位を授与する。

(学位の授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院学則第22条の定めにより課程の修了を認定された者に授与する。

(審香機関)

第5条 本学大学院における、論文審査及び申請手続きに関する事項の決定は、学長の付託に 基づき本学大学院学則第27条に定める研究科委員会が行う。

(論文審査の申請)

第6条 本学大学院学則第14条に定める論文の審査を申請できる者は、研究科委員会が本学大学院学則で定める修了の期日に修了し得ると認めた者で、かつ修了の期日まで在籍し得る者とする。

(申請方法及び申請書類)

第7条 修士課程に在籍する者が修士(看護学)学位の申請をするときは、所定の修士論文または 課題研究論文審査申請書に修士論文または課題研究論文4部を添え、所定の期日までに研究 科長を経て学長へ提出するものとする。

(申請の受付と受理の決定)

第8条 論文審査の申請があった場合には、学長はその審査を研究科委員会に付託する。 (審査)

第9条 修士論文及び課題研究論文の審査は、主査1名、副査2名で行う。

2 研究科委員会は、主査および副査による論文の審査および最終試験の判定結果並びに当該学生の単位取得状況により修士課程の修了について合否を判定する。

(学位の名称)

第10条 学位記を授与された者が、学位の名称を用いるとき、学位の次に(奈良学園大学)を附記 するものとする。

(学位授与の取消)

- 第11条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為をしたとき、または不正に学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会の議決を経て、学位の授与を取り消し、学位記を還付させることがある。
- 2 研究科委員会において、前項の議決をするには、構成員の3分の2の出席と、出席者3分の2以上の賛成を必要とする。

(学位記の再交付)

第12条 学位記の再交付を受けようとするときは、その理由を具し、学長に願い出なければならない。

(規程の改正)

第13条 この規程の改正については、研究科委員会の議を経て、学長がこれを定める。 (雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、学位の授与に関して必要な事項は、研究科委員会の議を 経て、学長がこれを定める。

附則

この規程は平成30年4月1日から施行する。

附則

この規程は令和2年4月1日から施行する。

奈良学園大学大学院学則

 制
 定
 平成30年4月1日

 最近改正

第1章 総則

(大学院の目的)

第1条 奈良学園大学大学院(以下、「本大学院」という。)は、教育基本法及び学校教育 法の定めるところにより、奈良学園大学の建学の精神と教育理念に則り、学部における 一般的・専門的教養の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論とその応用を教授・ 研究し、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識と卓越した能力を 培い、もって社会の発展及び文化の進展に寄与することを目的とする。

(自己点検・評価)

第2条 本大学院における自己点検・評価については、奈良学園大学学則(以下「本学学則」という。)第2条の規定を準用する。

(情報提供)

第3条 本大学院における情報の公開については、本学学則第3条の規定を準用する。

第2章 組織及び修業年限、学年、学期及び休業日

(組織)

第4条 本大学院に修士課程を置く。

(研究科、専攻及び学生定員)

第5条 本大学院に置く研究科、専攻及びその学生定員は次の通りとする。

		, , , ,	. , - 0
研究科名	専攻名	入学定員	収容定員
看護学研究科	看護学専攻	8人	16人

2 看護学研究科は登美ヶ丘キャンパスに置く。

(教育研究上の目的)

- 第6条 本大学院の研究科、専攻における教育研究上の目的は次の通りとする。
 - (1)看護学研究科看護学専攻

教育理念に基づき、在宅看護、育成看護、精神看護分野における専門性を深め、国内外で活躍することができる高度な看護実践者と看護の各分野における実践的教育の担い 手及び研究者を育成することを目的とする。

(修業年限)

第7条 本大学院の修業年限は、2年とする。

(在学年数)

- 第8条 学生は、4年を超えて在学することができない。ただし、第9条の規定する長期 履修を選択した学生(以下「長期履修学生」という。)は、5年を越えて在学することが できない。
- 2 前項の規定に関わらず、第33条の規定により入学した学生は、就業すべき年数に2年を加えた年数を超えて在学することはできない。
- 3 前2項に規定する在学期間には、休学期間は算入しない。 (長期履修学生)
- 第9条 研究科は、学生が職業を有している等の事情により、標準年限を超えて計画的に 教育課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を 認めることができる。
- 2 前項に関する必要な事項は、別に定める。 (学年)
- 第10条 本大学院の学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 (学期)
- 第11条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は前期の終期及び後期の始期を変更することができる。 (休業日)
- 第12条 休業日は、次の通りとする。ただし、夏期、冬期及び春期休業の期間は、年度 毎に定める学年暦によるものとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

大学創立記念日 11月1日

夏期休業

冬期休業

春期休業

2 前項の規定にかかわらず、学長は、臨時に休業日を変更し、もしくは臨時に休業日を 設け、又は休業日に授業を設けることができる。

(授業期間)

第13条 1年間の授業を行う期間は、試験等の期間を含め、35週を下らないものとする。

第3章 教育課程及び教育方法

(教育課程)

- 第14条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び修士論文の作成等に関する指導により 行うものとする。
- 2 授業科目及び単位数は、別表第1の通りとする。
- 3 授業科目の履修方法その他の必要な事項は別に定める。 (単位の計算方法)
- 第15条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を もって構成する事を標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間 外に必要な学修等を考慮して、次の基準により算定するものとする。
 - (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - (2)実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本大学院が定める時間の授業をもって1単位とする。

(単位の授与)

- 第16条 各授業科目を履修し、その試験又は論文審査に合格した者には、学長は、認定 の上、所定の単位を与える。
- 2 各授業科目について、所定の出席時間数に達した学生に限り、その授業科目を履修したものとみなす。

(成績の評価)

- 第17条 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可をもって表わし、秀、優、良、 可を合格とし、不可を不合格とする。
- 2 前項の評価は、100点をもって満点とし、秀 (90点以上)、優 (80点以上 90点未満)、良 (70点以上 80点未満)、可 (60点以上 70点未満)、不可 (60点未満)とする。 (本大学院以外の大学院の科目の履修)
- 第18条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の科目を履修させることができる。
- 2 前項の規定により学生が修得した授業科目の単位は、10単位を超えない範囲で本大学院における科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(本大学院以外の教育施設等における研究指導)

- 第19条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生に当該大学院又は研究所等において必要な研究指導を、1年を超えない範囲で受けさせることができる。
- 2 前項の規定により受けた研究指導は、本大学院の修了要件となる研究指導として認め

ることができる。

(入学前の既修得単位の認定)

- 第20条 学長は、学生に対して教育上有益と認めるときは、本大学院の入学前に他の大学院において履修した科目について修得した単位を、本大学院において修得した科目について修得したものとみなすことができる。
- 2 前項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、第19条第2項の規 定により修得した単位と合せて10単位を超えないものとする。 (教育方法の特例)
- 第21条 本大学院において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他 特定の時間又は時期において、授業又は研究指導等により教育を行うことができる。

第4章 課程の修了及び学位の授与

(課程の修了)

- 第22条 本大学院に2年以上在学し、所定の科目を30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の議を経て、学長が修了を認定する。
- 2 前項に規定する修士論文の審査は、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、 特定の課題についての研究の成果の審査をもってこれに代えることができる。 (学位の授与)
- 第23条 学長は、前条による修了者に対し、修士(看護学)の学位を授与する。

第5章 教職員組織

(教員)

第24条 本大学院の授業及び研究指導は、大学院設置基準に規定する資格を有する本学の教員が担当する。ただし、研究科委員会の議を経て、兼任教員に授業の担当を委嘱することができる。

(事務組織)

- 第25条 本大学院に関する事務は、学部の事務組織がこれにあたる。 (研究科長)
- 第26条 本大学院の研究科に研究科長を置く。研究科長は研究科の学務を統督する。
- 2 研究科長は、研究科の担当教員のうちから学長が指名し、研究科委員会の委員長となる。
- 3 研究科長の任期は2年とし、再任を妨げない。 (研究科委員会)
- 第27条 本大学院に、研究科委員会を置く。
- 2 研究科委員会は、研究科長、研究科で授業等を担当する教員をもって構成する。
- 3 前項の規定に関わらず、研究科長は、他の職員を出席させることができる。
- 4 研究科委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 大学院の学則、その他諸規定の制定及び改廃に関する事項
 - (2) 研究科の課程及び学生の教育に関する事項
 - (3) 研究の指導及び論文の審査に関する事項
 - (4) 単位認定、課程修了認定並びに学位授与に関する事項
 - (5) 賞罰に関する事項
 - (6) 研究科担当教員の任用及び昇任に関する事項
 - (7) 研究科担当教員の審査基準に関する事項
 - (8) 学生の厚生補導及びその身分に関する事項
 - (9) その他大学院に関する事項
- 5 研究科長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。ただし、研究科長に事故ある ときは、研究科長があらかじめ指名した教授が議長となる。
- 6 その他研究科委員会に関する規則は、別に定める。

第6章 入学、退学、休学等

(入学の時期)

第28条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学資格)

- 第29条 本大学院に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とす る。
 - (1) 学校教育法第83条に規定する大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 文部科学大臣の指定した者
 - (5) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の 学力があると学長が認めた者
- 2 看護学研究科看護学専攻においては、看護師免許を取得している者 (入学志願)
- 第30条 本大学院に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出し なければならない。
- 2 提出の時期、方法、同時に提出すべき書類については、別に定める。 (入学者の選考)
- 第31条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。 (入学に関する手続き)
- 第32条 入学を許可された者は所定の期日までに指定する書類を提出するとともに、所 定の納付金を納入しなければならない。
- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。 (編入学及び転入学)
- 第33条 学長は、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選 考の上、相当年次に入学を許可することができる。 (退学)
- 第34条 退学しようとする者は、その理由を記載し、学長の許可を得なければならない。 (休学)
- 第35条 疾病その他やむを得ない理由により就学することができない者は、学長の許可 を得て休学することができる。
- 第36条 休学の期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、1年に限り延長することができる。
- 2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。
- 3 休学の期間は、第8条の在学年数には算入しない。 (復学)
- 第37条 休学期間満了のとき又は休学の期間中であってもその理由が消滅したときは、 学長の許可を得て復学することができる。

(除籍)

- 第38条 次の各号にいずれかに該当する者は、研究科委員会の議を経て学長が除籍する。
 - (1) 第8条に規定する在学年数を超えると認められる者
 - (2) 休学期間を満了し、復学を願い出ない者
 - (3) 死亡又は3ヶ月以上所在不明の者
 - (4) 履修科目登録をせず、連絡のない者
 - (5) 授業料の納付を怠り、督促に対しても納付しない者 (留学)
- 第39条 外国の大学院に留学することを志望する者は、学長の許可を得て留学すること ができる。
- 2 前項の留学期間は在学期間に含めることができる。

(再入学)

第40条 退学者及び第38条第4号又は第5号により除籍された者が、再入学を願い出 た場合は、学長が学年の始めに限りそれを許可することがある。

第7章 授業料等納付金、入学金及び入学検定料

(授業料等の金額)

- 第41条 本大学院の授業料等納付金は、別表第2の通りとする。
- 2 入学金及び入学検定料は、別表第3の通りとする。

(授業料等納付金の納入方法及び時期)

第42条 授業料等納付金等の納入金は、年額の2分の1ずつを2期にわけて納入し、納入時期は別表第4の通りとする。

(退学等の場合の授業料等)

第43条 学生が退学し、もしくは除籍された場合にあっても、当該期の授業料等を納入しなければならない。ただし、第38条第4号及び第5号の理由により除籍された者は、この限りでない。

(休学及び復学の場合の授業料等)

第44条 休学した者については、休学した期間の授業料等を免除又は減額することができる。ただし、学期の中途において休学した者は、原則当該期の授業料等を納入しなければならない。

(その他の費用)

- 第45条 授業料等納付金、入学金のほか実験実習費その他の教育に必要な費用を納入させることがある。
- 2 前項に定める納入金の種類及び納入に必要な手続き等については、別に定める。 (授業料等納付金の不還付)
- 第46条 既納の授業料等納付金は、原則として返還しない。ただし、入学許可を得た者で、指定の期日までに入学の取消しを願い出た者については、入学金又はこれに相当する金額を除く学費を返還することがある。

(学費の延納等)

第47条 正当な事由により学費を延納又は分納しなければならなくなったときは、直ち にその旨届け出て許可を得なければならない。

第8章 賞罰

(表彰)

第48条 学業、操行ともに優秀な者又は特殊の善行があって他の模範となる者に対しては、学長は研究科委員会の議を経て表彰することができる。

(懲戒)

- 第49条 本大学院の規則等に違反し又は本学の学生として本分に反する行為があったと きは、学長は研究科委員会の議を経て懲戒する。
- 2 前項の懲戒は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当すると認められる学生に対して行う。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくして出席が常でない者
 - (4) 本大学院の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第9章 雑則

(学則の改廃)

第50条 本学則の改廃は、評議会及び研究科委員会並びに学長の承認を得て、理事会の 議を経て行うものとする。

附則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1

看護学研究科看護学専攻

ΔN	日巨八	極楽到日のなか	単位	立数
科目区分 		授業科目の名称	必修	選択
		国際医療特論	2	
基盤科目		国際看護特論		2
		ヘルスプロモーション特論		2
		看護倫理特論	2	
		コンサルテーション論		2
		看護理論特論		2
		看護教育学特論		2
		看護管理学特論		2
		臨床薬理学		2
		病態生理学		2
		フィジカルアセスメント		2
		看護研究特論	2	
	/ -	在宅看護学特論 I (在宅看護学)		2
	人名	在宅看護学特論Ⅱ(慢性期)		2
	分看 難	在宅看護学特論Ⅲ(回復支援)		2
	在宅看護学	在宅看護学特論IV(地域包括支援)		2
	,	在宅看護学特論演習		2
	去	育成看護学特論 I (発達支援)		2
	育成看護学	育成看護学特論Ⅱ(次世代育成支援)		2
		育成看護学特論Ⅲ(リプロダクティブヘルス・ケア)		2
		育成看護学特論IV(家族支援)		2
亩		育成看護学特論演習		2
専門科目		精神看護学特論 I (歴史・法制度)		2
科		精神看護学特論Ⅱ (精神・身体状態の評価)		2
Ħ		精神看護学特論Ⅲ(精神科治療技法)		2
	分	精神看護学特論IV(精神看護理論、援助技法)		2
	分 野 精	地域移行支援精神看護学特論		2
	(神	急性期精神看護学特論		2
	神看護学	精神看護学演習 I (精神科治療技法)		2
	S 学	精神看護学演習Ⅱ(精神看護理論、援助技法)		2
		精神看護学実習 アセスメント		2
		精神看護専門看護師役割実習		2
		直接ケア実習		4
		上級直接ケア実習		2
7,11	定到日	特別研究		8
4 升	究科目	課題研究		4

別表第2

授業料等納付金

費目	授業料・教育充実費 (年額)
区分	
看護学研究科	750,000 円

[※]CNS を履修するコースを選択する場合は、2年次において年額 100,000 円を追加する。

別表第3

入学金及び入学検定料

費目	入学金	入学検定料
区分		
本学卒業生	50,000 円	35,000 円
他大学等卒業生	200,000 円	35,000 円

別表第4

授業料等納付金の納入方法及び時期

区分	納入期限
前期(4月1日から9月15日まで)	4月中
後期(9月16日から翌年3月31日まで)	10 月中

奈良学園大学大学院 看護学研究科看護学専攻 教育課程科目表 (2020 年度) 2020.8.28

	区	分	科 目 名	科目責任者	単 位 数	配当年次	時間	間数	○···CNS 選択科目●···CNS 必修科目★···研究科必修科目☆···研究科選択科目		修科目 必修科目	CNS 区分
01	砉	Ė	国際医療特論	守本	2	1前	15	30		*	必修	
02	麦盘 毛 目	登 斗	国際看護特論	守本	2	1後	15	30		☆		
03	Ė	i	ヘルスプロモーション特論		2	1後	15	30		☆		
04			看護倫理特論	守本	2	1前	15	30	0	*	必修	共A
05			コンサルテーション論	川野	2	1・2前	15	30	0	☆	CNS	共A
06			看護理論特論	守本	2	1後	15	30	0	☆	2 科目	共A
07			看護教育学特論	山口	2	1後	15	30	0	☆	4 単位以上	共A
08			看護管理学特論	西薗	2	1後	15	30	0	☆	選択	共A
09			臨床薬理学	五味田	2	1・2後	15	30	•	☆		共B
10			病態生理学	五味田	2	1・2前	15	30	•	☆	CNS 必修	共B
11			フィジカルアセスメント	松浦	2	1・2前	15	30	•	☆		共B
12			看護研究特論	吉村	2	1前	15	30	0	*	必修	共A
13	車	存	在宅看護学特論 I (在宅看護学)	守本	2	1前	15	30		☆		
14	専門科	宅手	在宅看護学特論Ⅱ(慢性期)	守本	2	1前	15	30		☆		
15	目	獲	在宅看護学特論Ⅲ(回復支援)	辻下	2	1後	15	30		☆		
16		在宅看護学分野	在宅看護学特論IV(地域包括支援)	守本	2	1後	15	30		☆		
17		野	在宅看護学特論演習	守本	2	2 前	15	30		☆		
18		育	育成看護学特論 I (発達支援)	山口	2	1前	15	30		☆		
19		成業	育成看護学特論Ⅱ(次世代育成支援)	服部	2	1前	15	30		☆		
20		有 護	育成看護学特論Ⅲ(リプロダクティブヘルス・ケア)	服部	2	1後	15	30		☆		
21		成看護学分野	育成看護学特論IV(家族支援)	服部	2	1後	15	30		☆		
22		野	育成看護学特論演習	服部	2	2前	15	30		☆		
23		业主	精神看護学特論 I (歴史・法制度)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	
24		精神看護学分野	精神看護学特論Ⅱ(精神・身体状態の評価)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	C
25		有護	精神看護学特論Ⅲ(精神科治療技法)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	CNS精神看護専攻教育課程
26		学分	精神看護学特論IV(精神看護理論、援助技法)	川野	2	1後	15	30	•	☆	CNS 必修	神神
27		野	地域移行支援精神看護学特論	川野	2	1後	15	30	0	☆	CNS1 科目	看
28			急性期精神看護学特論	川野	2	1後	15	30	0	☆	2 単位選択	専
29			精神看護学演習 I (精神科治療技法)	川野	2	1前	15	30	•	☆	CNS 必修	教
30			精神看護学演習Ⅱ(精神看護理論、援助技法)	川野	2	1後	15	30	•	☆	CNS 必修	育
31			精神看護学実習 アセスメント	川野	2	1前	45	90	•	☆	CNS 必修	程
32			精神看護専門看護師役割実習	川野	2	1後	45	90	•	☆	CNS 必修	
33			直接ケア実習	川野	4	1後-2前	45	180	•	☆	CNS 必修	
34			上級直接ケア実習	川野	2	2 通	45	90	•	☆	CNS 必修	1
35	科	研	特別研究	守本	8	1-2 通	15	120		☆	修士選必	
36	目	究	課題研究	川野	4	2通	15	60		☆	CNS 選必	
計				_	<u> </u>	_			38	44		

基盤科目から必修6単位を含み10単位以上、専門科目から3つの分野のうち1つの分野を主たる分野として演習2単位を含む8単位以上及び他の分野から4単位以上の計12単位以上、研究科目から特別研究8単位を加え、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。ただし、精神看護学分野の急性期精神看護学特論と地域移行支援精神看護学特論、実習科目は除く。

CNSを履修するコースにおいては、基盤科目 16 単位以上(国際医療特論、看護倫理特論、看護研究特論、臨床薬理学、病態生理学、フィジカルアセスメント 12 単位必修、コンサルテーション論、看護理論特論、看護教育学特論、看護管理学特論から 4 単位以上)、専門分野 24 単位以上(特論 4 科目 8 単位、演習 2 科目 4 単位、実習 4 科目 10 単位はそれぞれ必修、急性期精神看護学特論又は地域移行支援看護学特論からいずれか 1 科目 2 単位選択)、研究科目から課題研究 4 単位を加え、合計 44 単位以上を修得し、課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

科目名			国際医療特論		01						
担当教員		字术									
				业在产	1 <i>F</i> r:						
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年 講義						
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	(一部演習)						
単位区分	必修	単位数		2 単位							
授業の概要	ケア・サービス・制度を	国際性を育むために、諸外国の医療・看護の在り方を学び、ケアを受けている受け手にとって必要な アア・サービス・制度を国際的な視点から学ぶ。									
授業の目標		1. ケア・サービスを受ける受け手の視点から諸外国の医療・看護の実際を考えることができる。 2. グローバルな視点で、ケア・サービスの受け手が望む医療・看護を考えることができる。									
育成する能力	諸外国の医療制度や看護		養や医療を多角的に 扱	₽える教育力を修得 [→]	する。						
	1 医療・看護の国際化				(堀内)						
	2 タイ王国における医	療制度と看護の実際	ž		(守本)						
	3 タイ王国における、 ることと課題	ケア・サービスを受	ける受け手の視点に	立った医療制度と看							
授業計画	4 英国における医療制	度と看護の実際			(堀内)						
	5 英国における、ケア 課題	サービスを受ける。	受け手に視点に立った	た医療制度と看護の							
	6 米国における医療制	度と看護の実際			(堀内)						
	7 米国における、ケア 課題	サービスを受ける。	受け手の視点に立った	た医療制度と看護の							
		からみるインドの医	療制度と看護の実際		(堀内)						
			おける、ケア・サービン	スを受ける受け手の	視点に立った医療						
	制度と看護の優れて 10 諸外国の医療制度と				(堀内)						
	11 諸外国のケア・サート 比較	ごスを受ける受け手	の視点に立った医療制	制度と看護の優れて	(堀内) いることと課題の (堀内)						
	12 海外赴任者の視点か	ら考える諸外国の医	療制度と看護								
	13 海外における保健・	医療・福祉・看護の	実際		(堀内)						
	14 海外におけるケア・	サービスの受け手の	立場からみた保健・	医療・福祉・看護の							
	15 ケア・サービスを受	ける受け手からみた	医療・看護の課題と	望ましい点	(堀内)						
テキスト ・参考書	国際医療論、日本放射線技師会出版会										
予習・復習に ついての情報	海外の保健・医療・福祉・看護に関する英文資料・文献を調べる。										
授業の形式	講義、討論、プレゼンテーション、ゲストスピーカー										
評価の方法(評価の配点比率と評価の要点)	課題レポート(80%)、プ	課題レポート(80%)、プレゼンテーション(20%)									
その他											

					02				
科目名	国際看護特論								
担当教員		守本とも子、堀内美由紀							
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)				
単位区分	選択	単位数		2 単位					
授業の概要	国際医療特論の学習を踏 るために必要な知識と技行 いて、国内外の文献検討る	析を学ぶ。文化的 を通して関心の	的背景や医療制度および ある健康問題を選択し、	福祉制度等から生 解決手法を探索す	じた健康問題につ				
授業の目標		1. グローバルな健康課題に対して、看護の視点から解決策を検討できる。 2. 異なる文化的背景を持つ対象の看護実践の例を具体的に説明できる。							
育成する能力	国内外の看護の現状や健康を持って看護問題の解説			舌動が展開できる能	力と、国際的な視				
	1 オリエンテーション グローバリゼーション	の看護に及ぼす	卡影響		(守本・堀内)				
	2 国際協力機関の役割				(守本)				
授業計画	3 開発途上国の看護の理	見状と課題							
1文未訂四	4 先進国の看護の現状と課題 (守本・堀内) (坂内)								
	1								
	6 タイ王国の福祉政策と看護教育 (守								
	7 諸外国の終末期ケアの	現状と課題			(堀内)				
	8 英国におけるコミュニ	ニティケアの実際	祭と課題						
	9 諸外国の高齢者入居が	正設における看 詞	生		(堀内)				
	10 認知症ケアの国際比較	Ž			(堀内)				
	11 海外の医療機関で働く	• 外国人看護師	币との協働		(堀内)				
	12 異文化看護の理解① 文献検討を通して関心	いのある健康課題	夏に関する解決手法を探	索する	(守本・堀内)				
	13 異文化看護の理解②	n k y 64 H 3m I	Z) HR]_ ~ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	+ 1. 7	(3 - 1 — 7)М (3 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 / 2 /				
		10める健康課題	夏に関する解決手法を探	新する 	(守本・堀内)				
	14 異文化看護の理解③ 文献検討を通して関心	いのある健康課題	夏に関する解決手法を探	索する	(守本・堀内)				
	15 異文化看護の理解④ プレゼンテーション・	まとめ							
テキスト ・参考書	国際保健医療学,日本国際これからの国際看護学―			とも子監著.ピラ	(守本・堀内)				
予習・復習に ついての情報	海外の保健・医療・福祉	看護に関する。	文献を調べる。						
授業の形式	講義・討論・学生によるこ	プレゼンテーシ	ョン						
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(80%)、プレ	ゼンテーション	(20%)						
その他									

科目名		ヘル	スプロモーション特論		03			
担当教員	辻下守弘、伊藤健一							
クラス	_	開講学期		対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義			
単位区分	選択	単位数	2	L 2 単位				
授業の概要	ヘルスプロモーションの定: ロームを予防し、健康的な: ついて学習する。レジスタ と実践方法を対象者の特徴 りの方法や運動処方の作成 指導するか、施設や用具の	生活を構築する ンストレーニン を踏まえて学習 について具体的	ための要素(運動、栄養、 グ、エンデュアランストレ し、年齢・性別・健康状態 に理解する。また、それら	休養と健康を阻 ーニング等の交 や体力レベルに	1害する要因) に かまに関する理論 に応じた健康づく			
授業の目標	1. ヘルスプロモーションの 2. 現代社会と健康問題、健 3. 身体活動と健康増進につ 4. 看護師として対象者に応	指導するか、施設や用具の利用方法も含めて学習する。 1. ヘルスプロモーションの定義、歴史、展開について理解する。 2. 現代社会と健康問題、健康とライフスタイルについて理解する。 3. 身体活動と健康増進についての基礎理論を学習する。 1. 看護師として対象者に応じた健康増進プログラムの作成や指導ができる。						
育成する能力	高度な看護を提供する上で て行動変容理論を応用でき			ある体力と運動	加生理学理論そし			
	 講義ガイダンス、現代の ヘルスプロモーションの ヘルスプロモーションの 	の定義と歴史	ルスプロモーション		(辻下・伊藤) (伊藤)			
授業計画	4 ヘルスプロモーション記	計画の策定と討	論		(伊藤)			
	5 神経系、骨格筋系と運動	<u></u> 助			(伊藤)			
	6 呼吸器系、循環器系と過	重動			(辻下)			
	7 内分泌系、エネルギーf	大謝と運動			(辻下)			
	8 女性の身体特性と身体活	舌動			(辻下)			
	9 体力の測定と評価				(辻下)			
	10 ウォーミングアップと	ケーリングダウン	ンの実際		(辻下)			
	11 レジスタンストレーニン	ノグの実際			(辻下)			
	12 エンデュアランストレー	ーニングの実際			(辻下)			
	13 トレーニング実施上の智	習意点			(辻下)			
	 14 運動習慣形成のための行	 寸動変容			(辻下)			
	15 地域づくり型保健活動 &	とヘルスプロモー	ーション		(辻下)			
テキスト ・参考書	 辻下守弘・他『リハビリテ グリーン他著、神馬征峰訳				(伊藤)			
予習・復習についての情報	指定されたテキストを熟読 ること。	するとともに、	毎回の講義内容に関連した	参考書で基本的	的な用語を理解す			
授業の形式	テキスト、配付資料、視聴	覚資料を用いた	講義					
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	筆記試験 (80%) レポート調	県題(20%)						
その他								

전 F A				=	5.2# /A 711 64 2A			04		
科目名	看護倫理特論 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									
担当教員	守	『本とも子、服	段部律子、西	西薗貞子、吉	付雅世、中川晶、村[岡潔、新名	\$奈苗、上野 ⁹	栄一 ————————————————————————————————————		
クラス		_		開講学期	前期		対象学年	1年		
曜日•時限				講義室	_		授業形態	講義 (一部演習)		
単位区分		必修		単位数		2 単	位			
授業の概要	で看護職 め、臨床 る能力を の意思決	看護倫理を理解するうえで基盤となる生命倫理をベースに看護倫理の歴史的経緯を概観する。その上で看護職が判断し行動していくときに重要となる概念や倫理の原則、倫理に関する理論の理解を深め、臨床現場で看護職が直面する倫理的問題に、気付く能力、考察する能力、調整する能力、解決する能力を養う。また、看護実践の経験をもとに、看護倫理の持つ意味を深く探究し、様々な倫理面での意思決定の方法論について探究し、倫理調整を行うために必要な知識と技術を修得する。								
授業の目標	2. 看護実 3. 討論を 4. 高度実 係者間	 1. 看護における生命倫理の歴史的変遷を理解する。 2. 看護実践における倫理的課題を理解する。 3. 討論を通して倫理的問題に対する倫理調整のプロセスを理解する。 4. 高度実践看護師として倫理的感受性を豊かにし、看護現場における倫理的な問題・葛藤について関係者間で調整することを学ぶ。 								
育成する能力		力を修得し、	様々な倫理	里問題を解決	直面する倫理問題に する能力を育成する。		、考察する力	、マネージメ		
	1	生命倫理・医看護倫理の意		営義と歴史的	圣緯			(中川)		
	2									
授業計画	3 トラウマインフォームドケアの概念 トラウマの定義、トラウマインフォームドケアの定義 (西薗)									
	4 トラウマインフォームドケアと非トラウマインフォームドケア 自分が所属する機関・部署、そして自分自身の中にあるトラウマインフォームドケアと非ト ラウマインフォームドケアについて討議する。倫理的感受性を豊かにし、臨床現場における 倫理的な問題・葛藤について関係者間で調整することを学ぶ。 (西薗)									
	5 ターミナルケアと看護倫理 ターミナルケアでの家族を含めた医療者とコンセンサスを得ていくプロセスの調整 (上野)									
	6		療の現状を		直医療の場における記 者との間で問題を明る			っての人権な (服部)		
	7	告知とインフ 治療の選択権	オームドニ を生命保持	コンセント 寺と生活の質(の葛藤から患者、家族 コセスを調整する能力	族の要望を				
	8	高齢者虐待、認知症を含む				レ解決等を	シ調整する能-	カ (吉村)		
	9									
	10 11	10 事例検討 I 医療現場における倫理的ジレンマの現状と解決方法についての討論								
			発表	アナハナフト公田	内ジレンマの現状と角	あかわ 十・シナ) :	このいての計	(村岡)		
	13 14	事例検討Ⅱ	倫理的問題		パンレンマの現状と 系者間で調整する。	弊伏力 伝い	ニックレ・ C クノおりお	(新谷)		
₩ 3			発表					(新谷)		
テキスト ・参考書		Ⅰ 小西恵美子 Ⅱの事例給計			監修 医療人権を考え	える全執筆	在 2011 11 ≢	·護協会出版		
予習・復習についての情報	(事前学	全習)新聞・T	`Vなどで幸	设道される倫:	並じ	ポートを作	作成する。	HZ WW A HI/W		
授業の形式	講義(一	部演習)								
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート	、(80%)、プレ	 ⁄ゼンテージ	ンヨン(20%)						
その他										

	T				05				
科目名	コンサルテ―ション論								
担当教員	川野雅資								
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1・2年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)				
単位区分	選択	単位数		2単位					
授業の概要	看護職を含むケア提供者に対して必要なコンサルテーションの知識と技術を教授する。コンサルテーションの意義、目的、概念を教授し、コンサルティのニードを理解し、求めているコンサルテーションを提供するのに必要なコンサルテーションのモデル、役割と技術を教授する。								
授業の目標	コンサルテーションの意義、目的、概念を理解しコンサルテーションに必要な技術を実施したコンサルテーションのスーパーバイズを受けて深める。 1. コンサルテーションの意義、目的、概念を理解する。 2. コンサルテーションの技術を理解する。 3. カプランのコンサルテーションの4つのモデルを理解する。 4. リピットとリピットのコンサルテーションの8つの役割を理解する。 5. 実施したコンサルテーションのスーパービジョンを受けて、自分の強みと課題を理解する。								
育成する能力	マネジメント力に不可欠な	コンサルテーシ	ョンの知識と技術の値	多得					
授業計画	コンサルテーションの意義、目的、概念 コンサルテーション・リエゾン・教育・スーパービジョン・直接ケアの相違 コンサルテーションの技法 問題の特定とアセスメントに必要な技術 相談内容を特定する技術 問題解決に必要な複数の選択肢を提案する技術 解決策を実行に移せるように支援する技術 コンサルテーションのモデルの理解								
	カプラン4つのモデル(体験事例の報告 4 コンサルテーションのカプランのコンサルテー 体験事例の報告 5 コンサルテーションのカプランのコンサルテー 体験事例の報告 6 コンサルテーションのコンサルテー	モデルの理解 ーションの4つ0 モデルの理解 ーションの4つ0 モデルの理解)モデル(コンサルティ)モデル(管理中心の=	1ンサルテーション)					
	カプランのコンサルテー体験事例の報告 7 リピットとリピットの: Adovocator, Informati 実践した事例を学習した。 8 リピットとリピットの:	コンサルテーシ on Specialist と8つの役割のミ コンサルテーシ	ョンの8つの役割 , trainer/Educator, らちの4つに該当するカ ョンの8つの役割	Joint Problem Sol 計議する。	verの役割				
	Identifier of alternatives and Linker of Resources, Fact Finder, Process Counselor, Objecti Observerの役割 実践した事例を学習した8つの役割のうちの4つに該当するか討議する。 9 コンサルテーションの実際 学生がコンサルテーションを自分のフィールドで実施する。 10 学生が実施したコンサルテーションのプレゼンテーションをし、学生間で討議をし、教師がスーービジョンを行う。カプランの4つのモデルとリピットとリピットの8つの役割で検討する。 11 学生が実施したコンサルテーションのプレゼンテーションをし、学生間で討議をし、教師がスー								
	ービジョンを行う。カ 12 プレゼンテーション・ 提示したプレゼンテー: 13 プレゼンテーション・ 提示したプレゼンテー:	スーパービジョ ションのロール スーパービジョ	ン プレイングを行い、理 ン	単論と実践を結び付 り	ける。				
	14 医師、薬剤師、社会福祉 ン 精神看護専門看護師が 体験事例を基に討議する 15 入院の場と地域の場での	止士、心理士、f 也職種専門家に る。	作業療法士、栄養士な 実施するコンサルテー	ど他職種専門家への	コンサルテーショ				
	入院の場で行うコンサル 文献と実践体験を基に	レテーションと	地域の場で行うコンサ						
テキスト ・参考書	川野雅資:改訂版コンサルラ アンダーウッド P. (1995)				、インターナショ				

	ナルナーシングレビュー、18(5), 4-12
	Lippitt G., Lippitt R. (1986):The Consulting Process in Action, Jossey-Bass Pfeiffer, San Francisco
	Caplan G(1970): The theory and practice of mental health consultation, Basic Books, ING.,
	Publishers, New York
	Campbell D., Draper R., Huffington C. (1975): A Systemic Approach to Consultation, Karnac Books,
	London
予習・復習に	
ついての情報	(事前学習) ①自分自身が実践したコンサルテーションをまとめておく。②改訂版コンサルテーショ
	ンを学ぶを精読しておく。 (事後学習)自分の組織で実践したコンサルテーションを学習した記録用紙にまとめ、可能な限り教
	員からスーパービジョンを継続的に受ける。
4-14-0-44-24	
授業の形式	講義、討論、プレゼンテーション、ロールプレイング
評価の方法(課題レポート(80%)、プレゼンテーション(20%)
評価の配点比	課題レポートは次の視点で評価する。
率と評価の要 点)	実践したコンサルテーションをカプランの4つのモデルで分析し(20%)、リピットらの8つの役割で分析 し(20%)、受けたスーパービジョンの意味と自分の課題を文献を用いて考察し(30%)、今後、自分の臨
点)	床で期待されるコンサルテーションの役割について論述する(10%)。
	プレゼンテーションは次の視点で評価する。
	実践したコンサルテーションを記録用紙に則り理解しやすくまとめ(10%)、分かりやすく発表する
	(10%)。
その他	

	T				06			
科目名	看護理論特論							
担当教員		守本とも子、山口求						
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	一 講義室 一 授業形態 講義							
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	の関係性について理解する。 らに、主な看護理論の比較 看護実践、看護教育、看護	。また、看護 分析を行い、 研究への応用		デンスについて :明らかにするこ	「明確にする。さ			
授業の目標	2. 看護理論を通して、看護 3. 主な看護理論の比較検討 4. 看護理論を実践に応用す	実践のエビデ を行い、それ ることができ	ぞれの理論構造と特性を明らる。	かにする。				
育成する能力	成する。また、看護理論を 応用ができる能力を育成す	分析し、理論 る。	明確にし、看護理論を実践に 構造と特性を明らかにする、					
	2 看護に関連するパラダー	いて国内外 <i>σ</i> イム)関連諸理論を学び、看護学。 の関連諸理論を学び、看護学					
授業計画	3 先進国における看護理語 主としてイギリス、アク		景 理論の歴史的背景を理解する	0	(守本)			
	4 主要な看護理論の理解 ワトソン ヒューマンク	<u></u> I ケアリング			(山口)			
	5 主要な看護理論の理解	П			(山口)			
	6 主要な看護理論の理解 レーニンガー 異文化家	Ш			(守本)			
	7 主な看護理論に基づいた ナイチンゲール「看護!	と実践への応	Ħ I		(守本)			
	8 主な看護理論に基づいが ヴァージニア A. ヘング	と実践への応			(守本)			
	9 主な看護理論に基づいた	と実践への応		助の技術に	(山口)			
	10 主な看護理論に基づいた	と実践への応	用 IV	. 19 ,1×2.1X.[N]]	(山口)			
	11 主な看護理論に基づいた。シスター・カリスタ・ロ	と実践への応	用 V					
	12 主な看護理論に基づいた	と実践への応	用 VI	. 1	(山口)			
	13 主な看護理論に基づいた	と実践への応		T.	(山口)			
	14 主な看護理論に基づいた	と実践への応			(山口)			
	ジョイス・トラベルビー 15 主な看護理論に基づいプローサー・ロジャース	と実践への応	用 IX		(山口)			
テキスト ・参考書		ローチ」ピラ	看護論」 ールプレス 2010年 監修: た看護実践のためにー」ピラ					
予習・復習に ついての情報	(事前学習)これまでの看 おく。		で、どのような看護理論が <i>。</i> 臨床場面で活用したことを記		ハたかをまとめて			
授業の形式	講義							
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート(100%)							
その他								
-	•							

科目名						07			
担当教員			I	求、西薗貞子、金山憲正	Ι				
クラス			開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限		_	講義室	_	授業形態	講義			
単位区分		選択	単位数		2 単位				
授業の概要	育(継統	こ関する知識と技術を教 売教育に応用できる能力	受する。教育 を教授する 。	職への教育的働きかけ、教育 学の原理を踏まえ、教育方法 継続教育の現状と課題、今後	5の理論と技法	5、評価方法を学び			
授業の目標	2. 元 3. 素 4. 素	教育学について理解する。 看護教育について理解する 教育方法の理論と技法を野 教育プログラムの評価を野 保健医療福祉の専門家と調	る。 理解する。 理解する。	教育を推進することを理解す	る。				
育成する能力	看記	護教育や看護の継続教育に	こ関する教育	力を修得する。					
	1	て講義する。	f護教育学へ(の学問的変遷と、各領域の教育		(山口)			
	2	感、エンパワーメントナ	」について考			(山口)			
授業計画	3 基礎教育と専門教育の目的と社会のニードについて講義し、看護教育課程について追究する。 (金山)								
	4 学習理論について、先人の理論を用いて講義する。 (金山)								
	5	社会人基礎力とその教持 育て方・育ち方について		生を発揮するための要素を可	視化するための				
	6			成する方法を事例を用いて講:	義し、各々の置				
	7	学習形態と教授方法	: 設備。教育	担当者を支援する技法を獲得	するための方泡	法について考える。 (西蘭)			
	8	教育の量的・質的評価の	方法と実践	こついて講義し追究する。		(西薗)			
	9	継続教育と予算、看護管	管理上の問題	との調整について講義し追究	する。	(西薗)			
	10	根拠に基づく動機づける	高める面接	支法の理論を学習し、更に、:	技術の獲得に				
	11	臨床知について講義し、	臨床の疑問	を解明するための方法を検討	する。				
				護管理の変遷について講義し、 する。	• >=, •				
		人を育てるための効果的 について追究する。	りな教育方法	(プリセプター、パートナー		(山口)			
	14		果題の分析と	看護専門職の機能と活動に必	要な知識を講	義し追究する。 (山口)			
	15	看護学、継続教育におけ 本質について追究する。	る倫理的課題	夏とその解決について学修し、	看護を管理す				
テキスト ・参考書	適宜提示するが、資料の配布も行う。また、初回に文献リストを配付する。								
予習・復習に ついての情報	随時提示する。								
授業の形式	講義								
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	課題	題レポート(100%)							
その他									

科目名				看護管理学特論		08				
担当教員		西薗貞子、小林由里、市村由美子、周藤俊治								
クラス		_	開講学期	後期	対象学年	 1年				
曜日・時限			講義室	_	授業形態	講義				
単位区分		選択	単位数		 2 単位					
授業の概要	たメ味	護管理学の基本的概念と すべき役割としての組織 ント、管理者との連携・記 を追究し、高度実践看護 後の課題について展望する	軍営、組織の活 調整について検 師として看護⊄	5性化について学び、 食討する。また、質の	そのために必要なチ)高い看護サービスを	ーム医療のマネジ 提供することの意				
授業の目標	2. 元 3. 新 4. 市	看護管理の基本概念を理解 看護実践に影響を与えていまいて説明できる。 組織運営に参画し組織的語 高度実践看護師として保修	いる組織的課題 果題の解決策を 建医療組織によ	はたついて看護管理者 ・提案できる。 なける多職種構成員と	・と共同して解決に向か の調整について述べる	ることができる。				
月成りの肥刀	保1	建医療チームとの調整や乳]朱的かつ円消に展開	するマネンメント刀())修侍 				
		看護とは、管理とは、看護管理の基本概念と看護管理学に含まれる男要な知識体系を明確にし	護管理とはに 護管理に必要 素の概念を通	な知識体系して、基本的な概念の	の統合について検討す	(小林)				
授業計画	0		一、て409を形	一 りることの里安性	にりいて教技する。	(小林)				
	3 組織論と組織行動 組織論と組織原則を理解し、看護の現場における組織行動の考え方を検討する。組織理論について の資料を複数確認し、理論と組織行動の統合について理解を深める。 (市村)									
	4	組織理念、組織文化、組 組織の成り立ちと構造、 の組織状況を提示し、ま	組織風土、組		し、組織分析の在り方					
	5	システム論とシステムア システム論の理解を通し の組織においてどのよう	てシステム思			で理解する。各自				
	6	リーダーシップの概念と 基礎理論としてのリータ ついて検討する。		について理解する。	各理論を通して、看護					
	7	リーダーシップのスキル リーダーシップの発揮に かれている状況下でどの	こついて検討し							
	8	組織の中の動機付け、意 主要な看護管理の方法論 リーダーシップとの連動	論としての動機		理論について理解し考	0.000				
	9 組織変革、交渉の原理 変化理論について理解し、交渉の原理から交渉のスキルについて理解する。組織変革における 理論の有効性と交渉の原理について実際の事例を通して学ぶ。									
	10	組織におけるパワーとエ パワーの行使、エンパワ 方について考察する。事 学ぶ。	ニンパワーメン 'ーメント、ア [・]	ト、アサーティブネ サーティブネスについ	スハて検討し、専門職と					
	11	チーム医療のマネジメン チーム医療の概念とチー について検討する。		に向けた高度実践看	護師としての組織にお	6ける役割と責務				
			- ム医療の美児	(仁円)() 仁同及天成有	6受印11 (二) (一)が紅飛び(これ)	のひかと 貝依				

授業計画	12 高度実践看護師としての管理職者との連携・調整、組織 高度実践看護師として、専門看護活動に必要な保健・医療・福祉にかかわる多職種間や看護組織に おける調整・協力・管理について、管理者との連携・調整のあり方を検討する。
	(西薗)
	13 医療安全とリスクマネジメント
	安全管理体制組織とリスクマネジメントの考え方について追究する。
	医療事故に至った数種の事例分析から、リスクマネジメントの機能について検討する。
	(小林)
	14 看護サービスの質保証
	看護資源の管理と活用の実際
	ドナベディアンの3側面からの質評価を通して、医療と看護の質評価について検討する。
	(小林)
	15 社会変化に伴う現代の医療の変化と高度実践看護師に求められる役割とこれからの課題
	看護をとりまく環境的側面の問題と課題について探究する。
	看護管理の視点から現在の日本の医療が求めるCNSの活用・活躍のあり方について、各自で課題
	を提示し、ディスカッションを通して将来の展望を整理する。
	(市村)
テキスト	<参考書>W.G.スコット, T.R.ミッチェル, P.H.バーンバウム著,鈴木幸毅 監訳「組織理論―構造・行動分析」八千
・参考書	代出版、/ステファン・ロビンス著、高木晴夫 監訳「組織行動のマネジメント」ダイヤモンド社、
	P・ハーシィ、K・H・ブランチャード、D・E・ジョンソン著、山本成二、山本あづさ訳「入門から応用へ 行動科学の
	展開 人的資源の活用 生産性出版, / 井部俊子, 中西睦子監修, 井部俊子, 勝原裕美子編集「看護管理学習テキス
	ト第1巻~8巻 日本看護協会出版会 ※その他資料として随時紹介する。
予習・復習に	(事前学習) ①自施設の組織体制を明確にし、組織図における自身の立ち位置と役割について明確に
ついての情報	しておく。②自施設の組織上の問題点と課題について整理しておく。
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	(事後学習) 自身の立場で実施できる看護管理の側面 (組織変革、リーダーシップ、交渉、連携・調
	整など)からの内容と方法について具体的に整理する。
授業の形式	講義
評価の方法(
評価の配点比	
率と評価の要	授業への積極的参加(30%)、課題発表と内容(30%)、レポート(40%)
点)	
その他	
	I .

科目名	臨床薬理学								
担当教員	五味田裕、松浦純平								
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1・2年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)				
単位区分	選択	単位数		2 単位					
授業の概要	剤の主・副作用を含む薬力 。医薬品の医療現場での取り	種々の病態要因・状況を踏まえて、医療現場の緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤の主・副作用を含む薬力学的ならびに生体に取り込まれた薬の体内運命面での薬物作用を解説する。医薬品の医療現場での取り扱い、薬物濃度を測定しながらの薬物治療、リスクマネイジメントを学習する。日常生活への影響、服薬指導と患者と家族のコンプライアンスを高めるための看護支援の技術とのいて事例な其に計算して修復する。							
授業の目標	ならびに薬物動態的側面から。そのために各治療薬の作用患者への服薬指導、薬物代記1.薬の基礎・臨床の薬理作品を発表した。 2.各疾病に使用される薬物に3.臨床において、看護支援の4.薬物治療は患者側からの性性を理解する。 5.難病治療において新規医認	専門看護師の能力として、緊急応急処置、症状管理、慢性疾患対応時における薬物治療を薬力学的ならびに薬物動態的側面から理解して、薬物起因症状か、疾患自体からの症状か判断する力をつける。そのために各治療薬の作用機序、処方理由、薬物相互作用、生体内薬物動態と血中モニタリング、患者への服薬指導、薬物代謝酵素に関わる遺伝子診断等々を理解しておく必要がある。 1. 薬の基礎・臨床の薬理作用を薬理力学的並びに薬物動態学的基本原理を理解する。 2. 各疾病に使用される薬物についての作用機序を理解して、分類カテゴリーに関連させて理解する。 3. 臨床において、看護支援の面から薬物の適正・安全・最適使用が実践できるようにする。 4. 薬物治療は患者側からの協力・理解が必要で、その際 服薬指導を含めたコミュニケーションの重要							
育成する能力	護ができる能力を育成する。 力も育成する。	また未解決	薬物治療を視野に新薬開発	を臨床試験等にお り	いても関われる能				
授業計画	各種病態に対応した薬物治療を病態学的、薬力学的ならびに薬物動態的に理解して、最適・最新な看護ができる能力を育成する。また未解決薬物治療を視野に新薬開発臨床試験等においても関われる能								
		る経験事例を	いら身体面・心理面の影響 ≥報告し、事例検討を行う ニ活用していくか、また学	。薬物療法に関す	る事例検討を通し				

	15 患者と家族が安心して薬物療法(漢方を含む)を受けられるために医師、薬剤師と協働する看護師
	の支援 患者の薬物療法(漢方を含む)の服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術(服薬
	アドヒアランス)について教授する。 (松浦)
テキスト	『臨床場面でわかる! くすりの知識』ーナースの出会う臨床場面・その質疑ー五味田裕(監)荒木
・参考書	博陽(編) 南江堂・『臨床薬理学』日本臨床薬理学会編(中野・安原 他)
予習・復習に	臨床現場での薬物治療において、看護支援面での課題を考えておき、それを講義中の検討課題とする
ついての情報	こともある。毎回の講義内容で関連した基本的な用語を理解すること。
授業の形式	プリント配付資料を中心に授業する。時に臨床場面・その疑問・応答(上記テキスト)しながら演習をする。また視聴覚資料を用いることもある。
評価の方法(評価の配点比率 と評価の要点)	授業中の質疑応答と提示課題へのレポート提出
その他	

							10
科目名			病態生	理学			
担当教員	五味田裕、	松浦純平、	辻川真弓、	吉田和枝、	竹内佐智恵、	福録恵子	7.
クラス	_	開講学期		前期	対1	象学年	1・2年
曜日・時限		講義室		_	授	業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数			2 単位		
授業の概要	臓器系統別に主要な症候の る基礎的能力を養う。具体的 候を示す事例の症状や検査が を行う。	的には、臨床 所見などから	○ 現場でよく行う病態生理を対します。	観察される	る症候の病態な	上理を講義	衰し、そのような症
授業の目標	1. 主たる症候の病態生理が 2. 学習内容を活用して、事 3. 提示された事例の病態を	例の病態生理 踏まえて、必	里を図式化し 公要な看護援	助を説明~	できる。		LIM I
育成する能力	各種疾患の病態において詳 育成する。						
	1 病態生理学の概念、総 遺伝子治療への看護支払	爰等)					(五味田)
	2 総論II(生活習慣病、元 最新の病態病理情報とそ	それに対応す	つる看護支援)			艺等;特	(五味田)
	3 皮膚・体温調節と病態を	上理、共に皮	で膚・体温調節	節の重要性	生と看護支援		(五味田・吉田)
授業計画	4 免疫系疾患の病態生理、 治療法と看護支援	と共に最新	行情報の取得る	と治療法、	特に各種免疫	医疾患の解	¥明に伴う新規 (五味田)
	5 体液調節と病態生理、 各種免疫疾患の解明に係			態生理、と	共に最新情報	みの取得と	:対応、特に (五味田・竹内)
	6 循環器疾患と病態生理、 治療法と看護支援			と治療法、	特に各種疾患	見の解明に	工伴う新薬含む (五味田・竹内)
	7 呼吸器系疾患と病態生 看護支援	里、と共に最	お情報の取得	导と治療法	去、特に病態角	解明に伴う	
	8 消化器系疾患の病態生理 治療法、特に病態解明					の最新情	
	9 腎・泌尿器系疾患の病態解明に伴う新治療法とえ	生理、と共	に最新情報の	の取得と治		肾・泌尿器	
	10 内分泌系疾患の病態生物ならびに看護支援法)				ミ患発現機構に	-関する最	
	11 脳神経系疾患の病態生現報と看護支援法を含む)	里(認知症、	精神障害の	 病態生理、	とともに各級		
	12 a) 筋骨格系疾患の病態を b) 感覚器の働きと病態を 認知症等の耳鼻咽喉科	上理 (最新の	耳鼻咽喉系(の看護アプローチ
	13 感染症、がん疾患の病態のいて、免疫・遺伝性に	生理 (感染	症・がん疾息			その画期	
	14 病態生理学的変化が患者 臨床での病態生理学に関連して得た知見を臨床で員が教授する。	旨の身体機能 員する体験事	€・心理面・社 耳例を報告し事	社会面に及 事例検討を	とぼす影響 と行う。病態生		引する事例検討を
	15 病態生理学的変化に適成 エビデンスに基づいた対 授する。				上のために必	要な知識	と技術について教 (松浦)
テキスト ・参考書	吉岡俊正『超ビジュアル病! 市田公美『疾病と病態生理』		メジカルビュ [、]	一社			
予習・復習に ついての情報	テキスト等を熟読するとと	もに、毎回の	の講義内容に	関連した月	用語を参考書	等で理解で	けること。
授業の形式	配付資料、視聴覚資料など	を用いた講郭	蹇、演習				
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	授業中の質疑応答と提示課題	<u></u> 夏へのレポー					
その他							
<u> </u>							

					11
科目名	フィジカルアセスメント				
担当教員	柴田政彦、西川隆、野中紘士、前田吉樹、松浦純平、齋藤英夫 吉田和枝、竹内佐智恵、福録恵子				
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1・2年
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)
単位区分	選択	単位数		2 単位	
授業の概要	高度実践看護師が、複雑な健康問題を持つ対象の身体状況を系統的に全身の診査をし、臨床看護判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を教授する。系統的フィジカルアセスメントを基盤として、クライエントの状態に沿ったアセスメント手法と結果の臨床判断について実践的に学ぶ。プレゼンテーション及びディスカッション、模擬患者を用いた実践演習を行う。 1. 専門看護師に必要な系統的身体診査の手技と意味、その結果を臨床判断に結びつける思考力を身につ				
授業の目標	ける。 2. 全身の各臓器、系の診査と臨床判断を学ぶ。 3. 複雑な健康問題を持つ対象のフィジカルアセスメントを修得する。 4. 専門看護師に必要な臨床看護判断能力を高める。 5. 種々のライフ・ステージにある対象者の症状や所見等のエビデンスに基づき、病態を解釈・判断し、それらに基づき臨床看護判断を行う能力を養う。 6. 臨床で実践しているフィジカルアセスメントの力量を高める。				
育成する能力	高度実践看護師が対象者の抱える健康問題について、全身をシステマティックに診て臨床看護判断が実施できるための能力を育成する。				
	1 専門看護師に必要なフィジカルで 各種疾患のフィジカルで 2 脳神経系のフィジカルで 脳神経系の診察と評価:	アセスメントの意 アセスメント	味と解析等		(齋藤)
授業計画	(西) 3 運動器系のフィジカルアセスメント 運動器系の診察と評価:問診、視診、触診、打診、触診、関節可動域、疼痛の評価について学ぶ。シュミレーターモデル人形(フィジコ)での演習。 (福録・前田 消化器系のフィジカルアセスメント 消化器系 (腹部) の診察と評価:問診、腹部の視診・触診・打診・聴診、腹水の観察、女性患者の部の視方、腹部のアセスメントの留意点、腹水の評価について学ぶ。シュミレーターモデル人形(イジコ)での演習。 (吉田・齋養 「古中・齋養 「古典 「中央				
	内分泌系診察と評価:	問診、視診、聴診 	メント		(柴田) (柴田) 価について学ぶ。
	14 高度なフィジカルアセン 看護師が行う高度なフィンションでは、 とをフィジカルアセスタ	ィジカルアセスメ	ントが患者と家族σ)異常の早期発見、健	(吉田・齋藤) 康回復につながるこ (松浦)

授業計画	15 患者が自らフィジカルアセスメントの変調に気づく支援 複雑な健康問題をもった対象が自らフィジカルアセスメントし、身体の変調に気づくために必要な知 識と技術について体験事例を基に討議する。 (松浦)
テキスト	工藤二郎『フィジカルアセスメントの根拠がわかる! 機能障害からみた からだのメカニズム』
・参考書	医学書院 藤崎 郁『フィジカルアセスメント完全ガイド』学研メディカル秀潤社
予習・復習に	指定されたテキストを熟読するとともに、毎回の講義内容に関連した参考書で基本的な用語を理解するこ
ついての情報	Ł₀
	(事前学習) 臨床で実践しているフィジカルアセスメントの目的、根拠、技術をまとめ、実践しているフ
	ィジカルアセスメントが患者の異常の早期発見、副作用の早期発見、症状の予測に繋がった
	事例をまとめておく。
	(事後学習) 学習したフィジカルアセスメントの知識と技術を臨床で応用し、これまでその相違をまとめ ておく。
授業の形式	テキスト、配付資料、視聴覚資料を用いた講義、演習
評価の方法(
評価の配点比	筆記試験 (80%) レポート課題 (20%)
率と評価の要	
点)	
その他	
, / I	

	1					12		
科目名		看護研究特論						
担当教員		吉村雅世、原	服部律子、西薗貞	[子、松浦純平、辻 [*]	下守弘、中川晶、丸尾名	智実		
クラス			開講学期	前期	対象学年	1年		
曜日・時限		<u> </u>	講義室	_	授業形態	講義		
単位区分		必修	単位数		2 単位			
授業の概要		学の専門的な知識や技行 成するため、看護研究の						
授業の目標	2. 文 3. 研 4. 各 5. 自	護研究の過程を理解で 献のクリティークについ 究課題の設定のプロセニ 種の研究手法を理解で 分が実践してきた看護 士論文又は課題研究の	ハて理解できる。 スを理解できる。 きる。 研究の課題を明確	権にする。				
育成する能力	特別	研究、課題研究、及び ⁻	マネジメント力に	こ必要な看護研究の	方法を習得する。			
	1	看護研究とは 看護研究とはなにかん	 こついて、研究調	 県題、研究デザイン、	研究のプロセスを中心	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	2	看護研究と倫理 研究における倫理のま 倫理審査申請書の記述				(服部)		
授業計画	3	文献クリティーク 1 研究活動に活かす文南 一クを行う。	ぱクリティークの : 他者のクリティ)基礎について学び、	自分の関心領域の文献 し、自分が見落としてV	状を用いてクリティ		
		文献クリティーク2	f究におけるシス ューの基本を教		ューの必要性やその方法			
		量的研究手法を用いる これまで実施した量的	る研究デザインや り研究を用いて、			(西薗)		
		研究の手法2(量的研究 量的分析のためのデー	- タ収集方法や変	で数の測定方法につい である。	いて教授する。	(西薗)		
	7	研究の手法3 (量的研究 統計学的分析の方法に) ₀		(西薗)		
	8	する。	る研究デザインと		/の特徴など、質的研究			
	9	実施した質的研究を月研究の手法5(質的研究 研究の手法5(質的研究 質的記述的内容分析、	5手法)		<u>対する。</u> ノグラフィーの方法につ	(吉村) ついて教授する。 (吉村)		
	10	研究の手法 6 (質的研究 現象学、歴史的研究活		教授する。		(吉村)		
	11	研究の手法7 (会話分析 会話分析の方法につい	• •		 義する。	(吉村)		
	12	研究の手法8(ナラティ	ィブ) 末ナラティブアフ	゜ローチの有効性や、	実例を紹介しながら、	(中川)		
	13	研究の手法 9 (ナラティ 臨床ナラティブアプロ		 対授する。		(中川)		
	14	研究の手法10(混合研究	5手法)	-	ストマイニングの方法に			
	15	研究の手法11(実験的ヨ		1手注の洋田樹お子1				
		いて教授する。	,,		シながら、 美願的手伝が 要な研究的視点と研究力			
L								

テキスト・参 考書	牧野清子、『エビデンスに基づく看護実践のためのシステマティックレビュー』、日本看護協会出版会Suzan K. Grove、Nancy Burns, Jennifer R. Gray、黒田 裕子他訳、『バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第7版 一評価・統合・エビデンスの生成』、エルゼビア・ジャパン川野雅資編著(2015):看護研究、PILAR Press川野雅資編著(2002):看護研究入門、星和書店その他、適宜紹介する。
	(事前学習) ①これまで実践した看護研究についてまとめ、研究としての一貫性について検討しておく。 ②参加した学会等で、印象的な研究についてまとめておく。③学術研究論文を2本読んでおく。 (事後学習) ①自分が取り組みたい研究課題を明確にする。特に、研究方法について継続的に学習する。 ②機会を得て、日本看護科学学会や日本看護研究学会、その他各専門領域の学会に参加する。
授業の形式	講義、ディスカッション、実施した研究の提示
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート (100%) 自分が行いたい研究課題を明確にし(20%)、考えられる研究方法を提示し(40%)、想定する倫理的課題を 検討し(20%)、研究方法の課題と利点を文献を基に論述する(20%)
その他	

科目名	在宅看護学特論 I (在宅看護学)							
担当教員	守本とも子	一、吉村雅世、	西薗貞子、芝田ゆかり、松澤	甫純平、吉川義	之			
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義			
単位区分	選択	単位数		2単位				
授業の概要	疾病治療に関する援助につ ジメントを伴う医療・処置 ・成人・老年と様々なライ	いて現状の課 置について国際 フステージに	ジにおける人々の QOL の向」 題を考える。 在宅療養で看 節、他職種との連携、リー ある人々の現状を分析し課	護が担う医療の ダーシップをキ 夏について考え)中で、高度なマネ ーワードに、小児 る。			
授業の目標	ついての課題を考察でき 2. 在宅療養における治療・ 察できる。 3. 在宅療養における治療・ 4. 在宅医療において高度な	る 処置の現状と 処置の現状と 医療技術を必	らさまざまなライフステーシ 関わる多様な職種から看護の 国際比較から看護の今後の認 要とする医療の中でのリータ にある人の健康課題と高度	り役割について 果題を考えるこ ダーシップにつ	今後の課題を考 とができる。 いて考察できる。			
育成する能力	における看護職の役割を考	察する能力を	育成する。					
		宅療養と家族の	の支援 在宅療養を必要と 看護で行われる医療・処置	する人たち	(守本)			
			と呼吸器の医療について、国 から現状について考える。	際性、他職種、	リーダーシップを			
授業計画	4		3.223		(吉村)			
			った糖尿病に関する医療につ 、文献等から現状について考		他職種、リーダー (西薗)			
	7 在宅における排泄支援	、転倒・転落 ⁻	予防、褥瘡処置、経管栄養に	ついて、国際性	上、他職種、リーダ			
	ーシップをキーワード 8	にテーマを決っ	め、文献等から現状について	きえる。	(昔村)			
	9 在宅におけるがん性疼 テーマを決め、文献等 10		療について、国際性、他職種 題を考える。	、リーダーシッ	·プをキーワードに (松浦)			
	11 支援が困難な在宅療養	患者への専門	的看護実践:神経筋難病・家	族	(##			
	12 支援が困難な在宅療養	患者への専門	的看護実践:ALS患者・家	族	(芝田)			
	13 1. 在宅における高齢者 1) 皮膚裂傷 (s				(к.ш)			
	142. 在宅における排泄管1) 失禁ケア153) ストーマ保存	理とその課題 2) 失禁関連皮 f者へのケア	膚炎(Incontinence Assosi		is)			
	3. 皮膚・排泄ケア領域	における専門	ケアに求められるもの ・ 局 性の高い看護師(特定行為を	含む) との連				
テキスト ・参考書	放送大学教材 在宅看護論	福島道子、丿	— 水戸美津子 編集 2014. 野あゆみ編著 2017.3 放送					
予習・復習に ついての情報	在宅医療で実施されている 担当するテーマ以外も、文		置について学ぶ。 備知識を持ってディスカッ?	/ョンに臨むこ	_ と。			
授業の形式	講義							
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)							
その他								

科目名					14		
担当教員	守			紀、松浦純平			
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年		
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義		
単位区分	選択	単位数		2 単位			
授業の概要	在宅における慢性期看護成人期・老年期に起こり ンテーションから全人的 する方法、課題を考える	成人期・老年期の主要な疾患の慢性期における高度な全人的看護が実施できる能力を育成する。また、 在宅における慢性期看護の今日的課題を考える。 成人期・老年期に起こりうる主要な疾患を取り上げ、在宅における医療・処置を受ける事例のプレゼ ンテーションから全人的看護の実践についてディスカッションし、在宅看護における高度医療に対応 する方法 課題を考える					
授業の目標	と研究への適用を探究 2. 各ライフステージにお 全人的看護について探	1. 在宅で医療を生涯継続する患者・家族を理解するための基盤となる理論と概念について学び、実践と研究への適用を探究する。 2. 各ライフステージにおいて在宅における高度医療および処置を受けている患者の問題点を見出し、全人的看護について探究する。 3. 在宅における慢性疾患をもつ患者および家族の今日的課題を探究し、看護を開発する基盤を修得する					
育成する能力	在宅における主要な疾患		る高度な全人的看護がで 折し、看護を開発する能力		る。また、慢性期		
授業計画	2 自己効力感、セル 3 在宅看護と家族 家	ンパワーメント、 フマネジメントが 族の介護負担と軸 吸器疾患)を主と	パートナーシップ、ヘルなどの基本概念を学ぶ。 経滅について、現状と課題、 さする呼吸器疾患を患う患	課題解決の方向の	性について考える。 (堀内)		
	6 脳卒中後遺症、認知 7 について考える。		。 『患者・家族の看護につい	て、現状と課題、			
	9 考える。		民族の看護について、現状 をたす患者・家族の看護に		(堀内)		
	向性について考える	。(骨粗しょう症	定、大腿部頸部骨折、腰椎	骨折、上腕骨折	など) (辻下)		
	12 がん対策基本法と在宅 13	Eにおけるがん看記	雙について、現状と課題、記	果題解決の方向性は	こついて考える。 (松浦)		
	15 て考える。		家族の看護について、現	状と課題、課題解	解決の方向性につい (吉村)		
テキスト ・参考書	在宅医療実践ガイド 20 慢性期看護「第3版」鈴		Practice編集委員会 E和編集 2014.3 ヌーヴョ	-ルヒロカワ			
	在宅医療で、よく見られる疾患と看護について学びを深める。 担当するテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。						
授業の形式	講義						
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)						
その他							

科目名		在宅看記	護学特論Ⅲ(回復支援)		15			
担当教員	辻下守弘、伊藤健一、小林和彦							
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	関わる者が果たすべき役 として活躍できるような 生活動作の獲得を目指し	域での在宅生活を回復支援する上での基盤となる地域リハビリテーションの理念を理解し、ケアに わる者が果たすべき役割について理解を深めながら、在宅生活における回復支援のためのリーダー して活躍できるような実践的能力の基礎を醸成する。具体的には、地域生活支援に必須である日常 活動作の獲得を目指した行動分析学的アプローチを習得するとともに、地域において介護予防を実 できるマネジメント能力、そしてセラピストなど多職種との連携や協働による地域生活者に対する 別支援能力を涵養する。						
授業の目標	1. 地域での在宅生活を回 2. 在宅での回復支援を推 3. 日常生活動作の獲得に	進のため実践能力 必要な行動分析学	を習得する。 的アプローチを実践で	きる。				
育成する能力	介護予防など在宅生活を ト力を修得する。	向上させるための	回復支援場面における	多職種との連携に関	するマネジメン			
	1 講義ガイダンス、在	宅における回復支持	援の概要		(辻下)			
	2 日常生活動作の運動:	学と動作分析			(辻下)			
	3 在宅生活における日	常生活動作障害			(辻下)			
授業計画	4 介護予防のマネジメ	ントと実践アプロ・	ーチ		(辻下)			
	5 生活習慣病を合併す	る患者の在宅におり	けるセルフケア		(伊藤)			
	6 肥満を合併する患者の	の回復支援						
	7 慢性呼吸障害を合併・	する患者の回復支持	援		(伊藤)			
	8 心筋梗塞後の患者に	対する回復支援			(伊藤)			
	9 糖尿病の患者に対す	る回復支援			(伊藤)			
	10 行動分析学を用いた	日常生活動作の評値	<u></u>		(伊藤)			
	 11 日常生活動作指導に	おける応用行動分	折学1(ベッド上基本動	動作)	(小林)			
	12 日常生活動作指導に	おける応用行動分	折学2(座位・立位動作	乍)	(小林)			
	13 日常生活動作指導に	おける応用行動分析	折学2(歩行・移動動作	乍)	(小林)			
	 14 在宅場面での介護者	に対する日常生活	指導		(小林)			
	15 地域における在宅生	舌の回復支援の実践	践事例		(小林)			
テキスト ・参考書	辻下守弘・小林和彦『リ 太田仁史『地域リハビリ			門』医歯薬出版	(辻下)			
予習・復習についての情報	指定されたテキストを熟 ること。	読するとともに、	毎回の講義内容に関連	した参考書で基本的	的な用語を理解す			
授業の形式	テキスト、配付資料、視	聴覚資料を用いた	講義					
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	筆記試験 (80%) 、レポー	ート課題(20%)						
その他								

					16			
科目名		在宅看記	雙学特論Ⅳ(地域包括支	援)				
担当教員		守本とも子、	井上葉子、佐藤郁代、	周藤俊治				
クラス	<u> </u>	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)			
単位区分	選択	選択 単位数 2 単位						
授業の概要	・課題・問題点についてまた、専門分野における	速に進行する地域の高齢化を理解し、地域包括支援システムを推進する中での看護職が果たす役割 課題・問題点について理解するとともに、地域の特性を生かした地域包括支援について概説する。 た、専門分野における研究を理解し、自らの研究に役立てる力を習得する。						
授業の目標	2. 健康・不健康を問わず 康増進について考察で 3. 地域の特性を把握する 4. 専門分野における研究 地域包括支援システムを	医療連携・地域包括支援システムの構築の中での看護職の役割について考察できる。 健康・不健康を問わず、さまざまな健康レベルにある人が、地域で生活するための健康支援・健康増進について考察できる。 地域の特性を把握するための保健・医療統計を理解する。 専門分野における研究を考察し、自らの研究計画に役立てることができる。 地域包括支援システムを推進するために看護職が果たす役割・課題について理解することで、地域包						
育成する能力	括支援システムを推進で							
	1 さまざまな健康レベノ		東支援・健康増進 		(守本)			
	2 医療連携と地域包括5	支援システム			(守本・井上)			
	3 譫妄、認知症、脳卒中	中後遺症患者のる	生宅看護に関連する制度	と社会資源	(守本・佐藤)			
授業計画	4 譫妄、認知症、脳卒口	中後遺症患者の	ケースマネジメントとチ	ーム医療	(守本・佐藤)			
	5 譫妄、認知症、脳卒中	中後遺症患者の地	地域包括ケア連携		(守本・井上)			
	6 保健・医療統計①				(周藤)			
	7 保健・医療統計②				(周藤)			
	8 地域包括支援システィ	ムの構築の実際	認知症		(守本)			
	9 論文クリティーク①				(1/4/			
	10 地域包括支援システム		要素に関する文献クリテ 生活支援、複合サービス					
	12				(守本)			
	論文クリティーク②13 地域包括システムに数性を考える。(自助、			クから、研究の現場	犬と課題・方向			
	14	7.1.2.1.2 .			(守本)			
	15 まとめ				(守本)			
テキスト ・参考書	国民衛生の動向(最新版)よくわかる看護研究論文			編著 2014.6 日本				
予習・復習に ついての情報	医療連携・地域包括支援	システムにおけ	る現状について理解して	おくこと				
授業の形式	講義、グループワーク							
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート(70%) プレゼンテーション(30)	%)						
その他								

科目名		-	生 生宅看護学特論演習		17			
				4 L 01 LN NAZET				
担当教員	一	ドとも子、吉村雅 	世、辻下守弘、堀内美	長由紀、松浦純平 ── ─				
クラス	<u> </u>	開講学期	前期	対象学年	2年			
曜日•時限	_	講義室	_	授業形態	演習 (一部講義)			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	慢性疾患・障害の予防に とその家族への支援につ した援助方法や看護職の 養を支える看護職の役割	いて、文献レビュ 役割について追タ を考える。	ューやディスカッショ ピする。国際的視点や	ンを行い、対象の多額 他の専門職の視点に	策なニーズに対応 も注目して在宅療			
授業の目標	2. 設定したテーマについ 法を追究することがで 3. 設定したテーマについ 師の役割を追究するこ 4. ディスカッションの中	. 着目するテーマについて、国際的に、また他職種の視点から文献レビューができる。 設定したテーマについて、さまざまなライフステージにある人々の多様なニーズに対応した援助方 法を追究することができる。 設定したテーマについて、さまざまなライフステージにある人々の多様なニーズに対応した看護 師の役割を追究することができる。 . ディスカッションの中でリーダーシップが取れる。						
育成する能力	在宅における患者と家族 いて探求できる能力を育 成する。	成する。また、マ	生宅看護のリーダーと	してリーダーシップ				
	1 テーマの決定 文献し	ノビュー、プレゼ	ン資料作成の打ち合え	つせ	(守本)			
	2 COPD (慢性閉塞性肺療 3 いてのプレゼンテーシ		呼吸器疾患患者と家族 ッション	その看護における課題				
授業計画			-		(守本)			
以未刊凹	4							
	6	-			(辻下)			
	9		看護における課題とそ	の解決方法について	のプレゼンテーシ (吉村)			
	8 脳血管疾患により麻痺	ものなる 电老しぐ	族の看護における課題	頃レ <i>ンの個</i> 油+沖ァ				
	9 テーションとディスク		-//大ヾノ∕目 啰 (〜 ⊀⊃ (丿 る) 床戻	<u> </u>	(堀内)			
		進における課題と	その解決方法について	てのプレゼンテーショ	ョンとディスカッ			
	11 ション				(松浦)			
	12脳卒中後遺症患者と記する13イスカッション		る課題とその解決方法	<u></u> 去についてのプレゼン				
	14				(守本)			
		の看護における調	題とその解決方法につ	ついてのプレゼンテー				
テキスト ・参考書	各自、最新の文献レビュ、	ーを行い資料とす	たる。		(守本)			
予習・復習に ついての情報	興味のあるテーマ以外も、	興味のあるテーマ以外も、文献検索等で予備知識を持ってディスカッションに臨むこと。						
授業の形式	プレゼンテーションとデ ッション	ィスカッション、	あるいはグループワ	ーク、プレゼンテー	ション、ディスカ			
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	ディスカッションへの参 看護の役割についての考		-マについての文献レ	ビュー (30%)				
その他								

科目名	、 義 演習) り、親の のよりよ 小児と家					
クラス ― 開講学期 前期 対象学年 1年曜日・時限 ― 講義室 ― 授業形態 講講 (一部活動 単位区分 選択 単位数 2単位	、 義 演習) り、親の のよりよ 小児と家					
曜日・時限 - 講義室 - 授業形態 講講 (一部活動 単位区分 選択 単位数 2単位 2単位 2単位	、 義 演習) り、親の のよりよ 小児と家					
単位区分 選択 単位数 2単位 投業形態 (一部後) 単位区分 選択 単位数 2単位 投業の概要 成育看護学の基盤となる小児の成長発達の諸理論を学び、今日的問題から、育ちの環境を探り、	演習) り、親の のよりよ 小児と家					
授業の概要 成育看護学の基盤となる小児の成長発達の諸理論を学び、今日的問題から、育ちの環境を探り養育態度や家族の問題を理解する。小児の発達評価から適切な発達支援を学び、小児と家族のい成長発達を促進する包括的看護能力を育成する。小児をとりまく成育看護学および家族看護学の関連領域の文献を購読し、小児の健康問題が、族に及ぼす影響を考察し、影響を最小にする家族アセスメント能力を育成する。 1. 成長発達の諸理論を理解し、発達を促進するためのアプローチが理解できる。	か見と家					
授業の概要 養育態度や家族の問題を理解する。小児の発達評価から適切な発達支援を学び、小児と家族の い成長発達を促進する包括的看護能力を育成する。 小児をとりまく成育看護学および家族看護学の関連領域の文献を購読し、小児の健康問題が小 族に及ぼす影響を考察し、影響を最小にする家族アセスメント能力を育成する。 1. 成長発達の諸理論を理解し、発達を促進するためのアプローチが理解できる。	か見と家					
3. 成長発達評価のデンバーⅡを用いて、発達を評価し、適切な発達支援について理解できる。	2. 小児を取り巻く社会的環境を捉え、小児と家族に及ぼす影響を理解した発達支援が考察できる。 3. 成長発達評価のデンバーⅡを用いて、発達を評価し、適切な発達支援について理解できる。 4. 小児の健康問題が、小児と家族に及ぼす影響を理解し、成長発達阻害を最小にするためのアプロー チを考察することができる。					
小児の成長発達や発達の理論によるアプローチを理解し、発達支援の具体的アプローチを修得 育成する能力						
1 小児の成育過程とその影響を歴史的背景から考察し、発達の諸理論の概要について理解する(乳幼児アタッチメント理論と虐待予防およびネグレクトなど発達遅滞の問題について理解する。乳幼児の機能的・形態的・精神運動発達の特徴とハビィーガースト(Havighurst)の発達課題する。 5 ピアジェ(Piaget)の認知発達理論・エリクソン(Ericsson)の自我の発達とライフタスクを見到幼児期の成長発達の評価(デンバーII)を理解し、発達の遅れの評価及びアプローチを理乳幼児期の生活リズム(生体リズム)と脳の発達を理解する。 6 乳幼児期の成長発達の評価(デンバーII)を理解し、発達の遅れの評価及びアプローチを理乳幼児期の生活リズム(生体リズム)と脳の発達を理解する。 7 産後うつ状態にある母親の養育の問題(乳児の認知・関係性の発達の遅れ)に対する母子支持の発達支援を理解する。 8 幼児から学童期の発達における遊びや体験学習と脳の発達について理解する。身体障がいるの学ぶ権利と学習による発達への効果を理解する。 9 思春期の自己確立の問題や発達障害の問題を性、母性性の視点から理解する。 10 健康問題を持つ小児の看護における倫理的配慮(インフォームドアセント)及び対象や家族的混乱・不安へのアプローチ(プレパレーション)を理解する。	(山口) 見期(山口) 見期(山口) 題(山中理口) 理(解す材) 理(解す材) 理(服持市間) (服持市部) (服・では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で					
11 健康問題を持つ小児や身体に障がいのある児を支える制度や施策及び社会資源を理解する 12 発達障がい児(自閉症・アスペガー症候群)の特徴と発達支援および家族支援を理解する。 13 重度心身障がい児(者)の治療的ケアを理解し、発達支援および家族支援を理解する。 14 重度心身障がい児(者)の在宅看護及びレスパイトケア利用による家族支援を理解する。 15 健康問題を持つ小児と家族看護(CFNAM:カルガリー家族看護モデル)を理解する。 エコマップを作成し、健康問題を持つ小児と家族の問題をアセスメントする。 エコマップを作成し、健康問題を持つ小児と家族の問題をアセスメントする。 ・『ピアジェに学ぶ認知発達の科学』北大路書房 J. ピアジェ著/中垣啓訳 ・児童心理学三つの理論 エリクソン/ピアジェ/シアーズ 新装版 H. W. メイヤ(著), 一郎 (監訳) ・JOHN Bowlby, (著) 黒田実郎・岡田洋子・吉田恒子(訳) 『母子関係の理論 I 愛着行動』岩崎版社、1980. ・人間発達の生態学(エコロジー) 一発達心理学への挑戦 ブロンフェンブレンナー、ユリー貝 芳郎/福富 譲(訳)	(市村) (市村) (市村) (山口) 大西 誠 崎学術出					
予習・復習に ついての情報 検索語から文献検索を行い、各単元に関連する研究論文を複数編読みレジュメを作成しておく	こと。					
授業の形式 講義及び学生によるプレゼンテーション						
評価の方法(評価の配点比 授業に対する取組(20%)プレゼンテーション(30%:適切性、妥当性、資料の作成度合い、率と評価の要 内容と方法)、レポート(50%:論理性、一貫性、自身の考え等)	発表の					
その他						

科目名		育成看護学	· 特論Ⅱ(次世代育成支		19			
担当教員	服部律子、美甘祥子、三田村七福子							
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室		授業形態	講義			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	まで、妊娠前から産後まっ	世代育成のための看護実践力を高めることをねらい、思春期の親性育成から産後の子育て支援で、妊娠前から産後までを連続線上で捉え、産後の母親のメンタルヘルスを踏まえた子育て支援を うため、基本となる理論と看護の実践について学ぶ。						
授業の目標	2. 親準備性の概念や形成 3. 妊娠・出産・子育て期の 4. 産後の母親のメンタル 5. 家族が拡大する時期に	. 次世代育成支援の理念と施策を理解し説明できる。 . 親準備性の概念や形成過程について理解し説明できる。 . 妊娠・出産・子育て期の母親や家族の心理を理解し説明できる。 . 産後の母親のメンタルヘルスについて理解し説明できる。 . 家族が拡大する時期に焦点をあてて、子育て支援の在り方を考察できる。 里論や科学的根拠に基づいて次世代育成に向けた看護のあり方を探求し、次世代育成に貢献できる看						
育成する能力	護を実践できる力を育成で		円() た有暖() (8) りりて:	水水し、大匹八百以	に其脈(きる相			
	1 次世代育成支援とは1 次世代育成支援とは1		 成支援の法的整備と制度		(服部)			
	2 次世代育成支援とは 2 次世代育成支援の歴	2	945 4 12 W 1 2 M 1 C M 1	~	(服部)			
	3 親準備性1 親準備性の概念				(服部)			
授業計画	4 親準備性 2 親準備性の形成				(服部)			
	5 親準備性3 親準備性形成と看護	 養介入			(服部)			
	6 親役割1 母親役割とその獲得				(服部)			
	7 親役割2 父親役割とその獲得				(服部)			
	8 周産期の心理 妊娠・出産・子育で		の心理		(美甘)			
	9 母親のメンタルヘルフ 妊娠前の心理	< 1			(服部)			
	10 母親のメンタルヘルフ 妊娠期の心理	< 2			(美甘)			
	11 母親のメンタルヘルフ 産後の心理	< 3			(服部)			
	12 家族が拡大する時期の 子育て支援の考え大				(服部)			
	13 家族が拡大する時期の 臨床での取り組みの)子育て支援を考	える2		(三田村)			
	14 家族が拡大する時期の 臨床での取り組みの)子育て支援を考	える3		(三田村)			
	15 まとめ 子育て支援の在り力	万を考察する			(服部)			
テキスト ・参考書	岡野禎治他、『クロストー立花良之、『母親のメンタ根ケ山光一編著、『母性のその他、関連文献を適宜網	ークから読み解く タルヘルス・サポ と父性の人間科学	ートハンドブック』、					
予習・復習に ついての情報	随時説明する。							
授業の形式	講義							
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)							
その他								

					20
科目名	育	成看護学特論Ⅲ	(リプロダクティブ	(ヘルス・ケア)	
担当教員		服	部律子、美甘祥子		-
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1 年
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義
単位区分	選択	単位数		2 単位	
授業の概要	女性のリプロダクティブへ 症などリプロダクティブへ び、さらにリプロダクティ ついて考察する。	ヘルス上の健康問 アブライツを踏ま	題と、それらの健康 えた妊娠、出産など	表問題に介入するため ご性と生殖に関する例	めの理論について学
授業の目標	1. 女性のリプロダクティフ 2. 統計などから女性のリフ 3. リプロダクティブライツ	プロダクティブへ ノを踏まえた性と	ルス上の課題を読み 生殖に関する健康を	y解くことができる。 と支える看護について	て考察できる。
育成する能力	女性のリプロダクティブ^ 女性のリプロダクティブ^	、ルス・ケアのた			
	1 リプロダクティブヘル リプロダクティブへ		中的変遷、近年の動	向と課題	(服部)
	2 リプロダクティブヘル リプロダクティブへ	スと健康行動			(服部)
	3 リプロダクティブヘル	スと意思決定			
授業計画	4 リプロダクティブへル 女性のやせと食習慣	スに関連する健康	恵思沃足場面、恵思表課題Ⅰ ま課題Ⅰ	決定の理論、意思決	<u>*定支援 (服部)</u> (美甘)
	5 リプロダクティブヘル	スに関連する健康	表課題 2		
	子宮頸がんと健康行 6 リプロダクティブへル		表課題 3		(美甘)
	性行動と性感染症 7 リプロダクティブヘル	スに関連する健康	表課題 4		(美廿)
	8 リプロダクティブヘル 性暴力被害と被害者		表課題 5		(美甘)
	9 リプロダクティブヘル		表課題 6		
	デートDV 10 統計からリプロダクテ 母子に関する人口動 探究する。			[°] ロダクティブヘルス	(服部) (上の課題を (服部)
	11 保健統計からリプロダ			。 [°] ロダクティブヘルス	
	12 リプロダクティブヘル		. L .		
	健康教育(学級活動 13 リプロダクティブへル	⁄ス支援 2			(美甘)
	ピア・サポートの基 14 リプロダクティブへル	⁄ス支援3	レ)、実践例		(服部)
	ピア・サポートのコ 15 まとめ	ーディネート			(服部)
テキスト	加納尚美編、『フォレンシ	ジック看護 『 ― 医・	操薬出版		(服部)
・参考書	木原雅子、『10代の性行動 日本児童教育振興財団内 E その他、関連文献を適宜紹	助と日本社会 そし 日本性教育協会、	てWYSH教育の視点		
予習・復習に ついての情報	随時説明する。	-			
授業の形式	講義				
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)				
その他					

科目名								
担当教員		服部律子、山口求、峰博子						
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義 (一部演習)			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	育成期の幅広い看護実践力育成期の家族を支援するだる理論や、Family centerぶ。	こめの看護について	考察する。そのため	このに、家族を理解する	らための基本とな			
授業の目標	1. 家族を理解するための理 2. 家族アセスメントについ 3. 家族支援の具体的方法に	、て理解し説明でき こついて理解し説明	る。]できる。					
育成する能力	家族支援や家族ケアの具体を修得する。	*的方法の理解によ	る家族構成員全体^	、のケアを調整できる	らマネジメント力			
	1 家族とは 家族観の背景、家族	その機能と形態の変	化、家族看護学とは		(服部)			
	2 家族の発達 家族周期論、発達す				(服部)			
	3 システムとしての家族 家族システム論、シ		族、家族システムの	構造	(山口)			
授業計画	4 家族アセスメント モデルの特徴、家族				(山口)			
	5 家族アセスメントのモカルガリー家族アセ	デル1	デル		(山口)			
	6 家族アセスメントのモ 家族生活力量モデル	デル2	<i>) </i>		(山口)			
	7 家族アセスメントのモ	デル3						
	家族看護エンパワー 8 家族形成と地域社会		I LIAVENT		(山口)			
	地域社会と家族、生 9 家族支援の実践例 1		工、住会資源		(服部)			
	病をもつ子ども家族 10 家族支援の実践例 2				(峰)			
	周産期にある家族へ 11 家族支援の実践例3	の支援			(峰)			
	合併症妊産婦の家族 12 家族看護と研究	支援			(峰)			
	家族看護における研 13 育成期の家族支援を考		動向		(服部)			
	*	巻く家族への取り	組みの実際を家族看	護の視点で考える	(服部)			
	履修生の母子を取り		組みの実際を家族看	護の視点で考える	(服部)			
ニナット	15 まとめ				(服部)			
テキスト ・参考書	山崎あけみ・原礼子編、	『家族看護学』、南	i江堂					
予習・復習に ついての情報	随時説明する。							
授業の形式	講義。ただし、第13講、第	914講は履修生 の発	表と全体討議によっ	って進める。				
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)							
その他								

※2020.4.12 現在

か ロ 4			**************************************		22			
科目名	育成看護学特論演習							
担当教員		服部	律子、山口求、美甘祥子	,				
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	2年			
曜日•時限	_	講義室	_	授業形態	演習			
単位区分	選択	単位数		2 単位				
授業の概要	女性のリプロダクティブヘルス・ケアや子育て支援、子どもの健康障害への支援など育成看護学に関するテーマを選び、それらに対して国内外の論文をクリティークし、国際的な動向も踏まえながら、 選択した各テーマに対する看護の方法をゼミ形式で探究する。							
授業の目標	1. 育成看護学に関する課題 2. 各課題に対して文献をク 3. 各課題に対する看護の方法	リティークし	多角的に検討することができ	る。				
育成する能力			する看護の方法を科学的に探	求できる能力を	育成する。			
	1 子どもの健康障害に関す 子どもの健康障害に関す		D探究1 読み解き看護方法を探究する		(山口)			
	2 子どもの健康障害に関す	トる看護方法の			(山口)			
	3 子どもの健康障害に関す	トる看護方法の			(山口)			
授業計画	4 子どもの健康障害に関す	トる看護方法の			(山口)			
	5 子どもの健康障害に関す	トる看護方法の			(山口)			
	6 子育て支援に関する看護子育て支援に関する高	護方法の探究 :	1		(服部)			
	7 子育て支援に関する看護子育て支援に関する	養方法の探究:	2		(服部)			
	8 子育て支援に関する看護子育て支援に関するる	護方法の探究:	3					
	9 子育て支援に関する看護	隻方法の探究 4	4		(服部)			
	子育て支援に関する記 10 子育て支援に関する看記	養方法の探究:	5		(服部)			
		ブヘルス・ケブ	アに関する看護方法の探究1		(服部)			
	12 女性のリプロダクティフ	ブヘルス・ケブ	アに関する論文を読み解き アに関する看護方法の探究2					
	13 女性のリプロダクティフ	ブヘルス・ケブ	ケアに関する論文を読み解き アに関する看護方法の探究3					
	女性のリプロダクティ 14 女性のリプロダクティフ	ィブヘルス・ク ブヘルス・ケフ	アアに関する論文を読み解き アに関する看護方法の探究4	看護方法を探究	する (美甘)			
			ケアに関する論文を読み解き アに関する看護方法の探究5	看護方法を探究	iする (美甘)			
テキスト	女性のリプロダクティ	ィブヘルス・ク	ケアに関する論文を読み解き	看護方法を探究	:する (服部)			
• 参考書	それぞれのテーマに関連し	た研究論文等	の文献を用いる。					
予習・復習に ついての情報	随時説明する。							
授業の形式	ゼミ形式で行う。							
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	レポート (100%)							
その他								

<i>₹</i> \ □ <i>t</i>		stude to to make the	W 44 34 - (FF -1 - VI 45)		23					
科目名		精神看護	学特論 I (歴史・法制)	要) ————————————————————————————————————						
担当教員		J	川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年					
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義					
単位区分	選択 単位数 2 単位									
授業の概要	卓越した看護実践者に必要な精神保健・医療・福祉・看護の制度と歴史について理解を深める。ケア を受ける立場の人から見た精神保健・医療・福祉・看護サービスの制度と歴史から、現状を理解し、 人として尊重されて生きて暮らしていけることができる社会を展望する。									
授業の目標	2. ケアを受ける人の立場か 3. リカバリー、ノーマライ	1. 諸外国(英国、米国)の精神医療・人権擁護の歴史と制度と日本の現在の制度と歴史を理解する。 2. ケアを受ける人の立場から、日本の精神医療の現状を理解する。 3. リカバリー、ノーマライゼーションの現状と今後の展望を検討する。								
育成する能力	精神保健・医療・福祉・看 修得する。	護の制度と歴史	とについて理解を深め卓	越した看護実践者の)ための教育力を					
	1 日本の精神医療の歴史 我が国の精神医療の歴		在の精神医療の現状に	ついて討議する。	(川野)					
	2 日本の精神保健福祉法 日本の精神保健福祉法		講義し、課題を討議す	ప .	(川野)					
授業計画		を概観し、精神	の人権 を病む人の人権をどの。 かについて講義をし、							
	4 英国の精神保健法 英国の精神保健法につ	いて講義をし、	地域精神医療と入院精	神医療の実際を学習						
	5 英国の精神医療の方向 英国がどのように入院 は何かを資料を基に討	中心の精神医療	から地域精神医療に変	遷してきたのか、患	者との共同創造と (川野)					
	6 米国の地域精神医療の 米国の地域精神医療の		課題と利点について討	達 する	(川野)					
	7 米国のMental Health 米国のMental Health A	Act の変遷地域 ct が時代と共		きたのかを概観し、						
	8 グローバルヘルス 諸外国(イタリア、ベル 精神医療の在り方につ	いて検討する。	ノーマライゼーション							
		マライゼーショ マライゼーショ	ンの実際 ンを実践している組織	、活動について講義						
	ーションの理念を具現10 諸外国のノーマライゼ英国と米国(ハワイ州)し、ノーマライゼーシ	ーションの実際 の精神医療でノ		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	(川野、西出) 舌動について講義 (川野)					
	11 医療観察法 医療観察法制定の背景	と運用の実際を	講義する。		(川野)					
	12 諸外国の精神障害を有	する犯罪者の治								
	13 精神を病む人からみた 社会資源の現状につい 状を、精神を病む人の	て講義し、障害	者総合支援法の活用と記	方問看護をはじめと ⁻	する社会資源の現 る。					
	14 精神を病む人とその家 我が国の現在の地域精 いて討議する。				(西出)					
	15 これからの日本の精神	医療の判束			(西出)					
	15	族のニードを満	たす日本の精神医療の	制度を検討する卓越	した精神看護実					
					(川野、西出)					

テキスト・参考書	Care Quality Commission(2016):Monitering Mental Health Acts 2015/16, Mental Health Reform 福川摩耶、宇佐美しおり、野末聖香、他(2014):精神障害者への精神科ケア・マネジメントチーム及びチーム内における精神看護専門看護師(CNS)の役割と評価、熊本大学医学部保健学科紀要、10,27-35 法務省、厚生労働省(2014):心身喪失等の状態で重大な他害行為を行ったものの医療及び観察などに関する法律の施行の状況についての検討結果。 http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002gk0i-att/2r985200002gk49.pdf 厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。 http://www/mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/000 051138.pdf C. A. Shea, L. R. Pelletier, E. C. Poster, et al (1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental
	Health Care, Mosby
予習・復習に	(事前学習) 日本及び英国と米国の精神医療サービスに関する社会的現象と法整備に関する資料を精
ついての情報	読する。特に、事件と法との関係について調べる。
	(事後学習) 今回の学習が臨床の場ではどのように課題があるのかをまとめておく。精神看護専門看護師として倫理的課題に気づき、組織の中にどのように提言できるかをまとめる。
授業の形式	講義、ディスカッション
評価の方法(課題レポート(100%)
評価の配点比率と評価の要	日本の精神医療・看護の実際をケアを受ける受け手の立場からみた利点と改善点を記述しているか(30%)。
1 9 11 11 11	(= 1-7 (
点)	卓越した精神看護実践者が担うべき役割と機能について言及しているか(30%)、
	文献・資料を活用して深く洞察しているか(20%)、
	論旨に一貫性があるか(10%)、
	内容を十分理解しやすく記述しているか(10%)、の視点で評価する。
その他	

科目名		精神看護学特	論Ⅱ (精神・身体状態	の評価)	24				
担当教員	川野雅資、西出順子、中川晶								
クラス		開講学期	前期	対象学年	1年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義				
単位区分	選択 単位数 2単位								
授業の概要	卓越した看護実践者に必要な精神を病む人々の精神・身体状態の評価を学ぶことからケアを受ける立場の人の体験を理解する。様々な精神・身体状態を理解することで、複雑な心と身体の状態に苦しみ折り合いをつけている人々の社会生活支援のための評価方法を理解する。								
授業の目標	1. 精神を病む人の精神面・身体面の評価方法を理解する。 2. 精神を病む人が体験している生活上の困難さを理解する評価方法を学ぶ。 3. 精神を病む人の社会生活を支援する評価方法を学ぶ。								
育成する能力	精神・身体状態の評価につ	いて理解を深め	卓越した看護実践者の	のための教育力を修得	する。				
	1 精神を病む人の精神面 精神を病むということだ ことを理解する。そのだ 自我、自己、人格を評価 る。	がその人との身 こめに、必要な	体面、精神面、社会面 精神面と身体面をアセ	スメントする視点を	討議する。				
授業計画	2 DSM-5とICD-10 活用の仕方と診断基準を	を学習する。			(川野)				
	3 DSM-5とICD-10 ケースビグネットを用い いと判断した根拠を討談		状態をDSM-5とICD-10を	を用いて診断に該当っ	けるあるいはしな (川野)				
	4 統合失調症の診断 統合失調症のペーパー! する。	事例について報	告し、DSM-5とICD-10を	を用いて診断基準と則	照合し、討議 (川野)				
	5 気分障害 ケースを用いて気分障害	害の診断につい	て検討する。特に、双	極Ⅱ型の見極めにつ	いて討議する。 (中川)				
	6 物質依存 事例を基に、DSM-5とIC	D-10を用いて診	>断基準と照合し、討論	義する。	(川野)				
	7 認知症 ケースを用いて、認知症	定の診断につい	てとスクリーニング検	査法について討議す	る。 (川野)				
	8 全般性機能評価 GAFを用いて、訓練用の	ケースピグネッ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ついて討議する。	(川野)				
	9 心理機能評価 様々な心理テストの活列	用事例、限界を	講義する。それの尺度	を用いた研究論文を	検討する。 (西出)				
	10 身体機能評価 精神疾患を病む人が被り の評価方法を理解する		能(歯、視力、聴力、循	盾環、代謝、栄養、排	せつ、皮膚、足) (西出)				
	11 発達段階評価・発達課題 エリクソンの漸進的発達する。	夏評価	て、暦年齢と心理発達の	の段階について模擬!	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
	12 陰性・陽性症状評価 BPRS、PANSSを紹介し、	評価方法を模と	経事例を用いて修得する	<u> </u>	(川野)				
	13 日常生活能力・セルフク 診断の手引きに基づいて 長期入院生活を送ってい 力の評価を検討する。	アア て、日常生活能 いる間に獲得で	力(ADL、IADL)の活用を きなかった、あるいは	を理解する。特に長期	明入院精神病者が				
	14 リカバリー評価・社会資 RAS、IMRについて紹介しら、臨床での活用を討談 社会適応評価に関する目	ン、活用の仕方 養する。	を検討し、臨床で、特に						
	退院可能性評価表(川野 15 卓越した精神看護実践者 学習した様々な評価を	ら)を紹介し、 皆が行う様々な	臨床での活用野可能性 評価の臨床活用	を討議する。					
テキスト ・参考書	ついて討議する。 野末聖香、宇佐美しおり(26 南裕子監修、宇佐美しおり ヒロカワ								

	融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10精神および行動の障害、医学書院
	日本神経学会監修、American Psychiatric Association原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の
	手引き、医学書院
	福田俊也(2014):観察者による精神科領域の症状評価尺度ガイド 改訂第3版、じほう
	沼初枝(2013):臨床心理アセスメントの基礎、ナカニシヤ出版
	加藤三郎監訳American Psychiatric Association原著(2016)統合失調症スペクトラム障害および他の 精神病性障害群 DSM-5セレクションズ、医学書院
	何仲州性障害群 DSM-5ピレクションス、医子青朊 西平直訳、E.H.エリクソン著(2011):アイデンティティとライフサイクル、誠信書房
	日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院
	「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016年版]、臨床精神科学第44巻増
	刊号
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999): Advanced Practice Nursing in Psychiatric
	and Mental Health Care, Mosby
	千葉理恵、宮本有紀(2009):精神疾患を有する人のリカバリーに関連する文献レビュー、日本看護科学
	会誌、29(3),85-91
予習・復習に	(事前学習)精神看護学領域に関する学術論文で活用している精神面、身体面、心理面の評価尺度に
ついての情報	ついて調べる。臨床で実際に活用している評価の種類を調べる。
	(事後学習)様々な評価方法のうち、臨床に活用した尺度があれば、その有効性と限界をまとめてお
	<
は米のマナ	#** グ・ロよう、 、
授業の形式	講義、ディスカッション、体験事例のまとめと報告、臨床で使用している尺度の紹介
評価の方法(課題レポート(100%)
評価の別伝(精神を病む人は、どのように医療者に自分の苦しみをわかってもらえるのか、又、本人も、家族も
率と評価の要	気づいていない苦しみや困難を見つけてほしいと考えているか(40%)、そのために活用してほしいと
点)	考えるであろう尺度とはどのようなものか(30%)について、理解しやすく記述する(30%)。
その他	

	精神看護学特論Ⅲ(精神科治療技法)								
担当教員			川野雅	資、西出順子、中川					
クラス		_	開講学期	前期	対象学年	1年			
曜日・時限		_	講義室		授業形態	講義			
単位区分		選択 単位数 2 単位							
授業の概要	の人	卓越した看護実践者に必要な精神を病む人々への治療的アプローチの技法を学ぶ。治療を受ける立場の人の視点から、精神的な治療・回復に必要な様々な治療的アプローチの技法の臨床への活用の可能性を学ぶ。							
授業の目標	2. 多	1. 精神を病む人が必要としている治療技法を理解する。 2. 多職種と共同して提供する治療技法を理解する。 3. 精神看護専門看護師として精神科における治療的アプローチの技法の実践への活用可能性を探る。							
育成する能力	様々	な精神科治療技法につ	いて理解を深め	卓越した看護実践者の)ための教育力を修得	拿する。			
		精神を病む人が求める? 精神を病む人の立場から 社会生活を送りやすくこ 列挙し、それぞれの技法	ら見た、治療技 する技法、対人	関係がスムースに送れ		験事例を基に			
授業計画		精神科薬物療法 抗精神 抗精神病薬の効果と副作 討議する。		義。特に、最新の抗精	神病薬の適用可能性	. —			
		抗うつ薬と抗躁薬の効果と副作用に関する講義。特に、抗てんかん薬など他の抗精神病薬との併用 に関する効果と危険性について討議する。							
		精神科薬物療法 抗不会抗不安薬、睡眠導入剤になっている治療用麻薬	こ関する使用方法	去と危険性に関する講	義。その他の向精神	(中川 薬と、米国で課題 (川野			
		薬物療法の副作用 看護師が発見する可能 討議する。	生が高い精神科	薬物療法の副作用につ	いて、体験事例を基	に文献と合わせて			
		薬物療法の副作用 精神を病む人とその家加 体験事例と文献を基に記		副作用に気づくことが	出来るための看護師	<u>(川野</u> iの役割について (川野			
		治療技法(精神分析的療精神分析的精神療法とこの技法、治療目標、対象	コフートが開発			V •			
	8 治療技法(来談者中心療法) 個人精神療法の技法(来談者中心療法、人間関係論的精神療法、)と、対象、注意点について記する。精神療法の文献検討と実践例を基にその有効性と限界について討議する。								
	9 治療技法(動機づけ面接) 動機づけ面接の4つの中心的な治療技法を学び、特に自己決定を促す臨床への応用について討 、トラウマ・インフォームドケアとの共通性について検討する。 ()								
		治療技法(認知療法と行認知療法の技法(ネガテ直し、損得比較表、認知なケール(尺度)で表現時らしの利用、直接的でし、文献と体験事例から	動療法) イブな思考の記 知的歪みの同定、 見、イメージの な論争、活動ス	品録(コラム法=ABC法 、誇張的表現や逆説の 置き換え、認知的リハ ケジュールを記録する)、思考の証拠さが 利用、症状や苦痛の ーサル、自己教示法	程度について 、思考中断法、気			
		治療技法(認知行動療法 認知行動療法の技法(活 停止法、ロールプレイン	動記録表、注意			レーニング、思考			

授業計画	12 治療技法(解決療法) 解決療法の治療技法、治療目標、対象、限界を教授し、実践例と文献から活用方法を討議する。 (川野)
	13 治療技法(家族療法) 家族療法の諸理論と技法(コミュニケーション派家族療法、精神力動的家族療法、構造派家族療法、多世代派家族療法、戦略派家族療法、ミラノ派/システム論的家族療法)、治療目標、対象、禁忌を教授し、文献と体験事例から有効性と限界を討議する。
	(川野)
	14 治療技法(集団精神療法) 集団精神療法の治療目標、技法、集団構成員、コ・セラピストとの連携、集団の発展段階、ルール について教授し、文献と体験事例から有効性と限界を討議する。集団精神療法を推進するセラピス トの役割について検討する。 (川野、西出)
	15 卓越した精神看護実践者が行う様々な治療技法の臨床活用
	卓越した精神看護実践者が担う治療的アプローチの技法を討議し、どのような場で、どのような技術を、どのようなニードがある対象者に提供するのか、看護の独自性と協働、そしてユーザー参加型の治療的アプローチの技法について討議する。
	(川野、西出)
テキスト ・参考書	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkingtonら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック 私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店 武藤清栄訳、J.F.T.Bugental著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴EBMからNBMへ、金剛出版 末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 日本家族研究・家族療法学会(2013):家族療法テキストブック、金剛出版 C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby 矢澤美香子編(2018):基礎から学ぶ心理療法、ナカニシヤ出版
予習・復習に ついての情報	(事前学習) ①矢澤美香子編(2018):基礎から学ぶ心理療法、ナカニシャ出版を事前に抄読しておく。②臨床で実践している精神科における治療的アプローチの技法を報告できるように資料などをまとめておく。(事後学習) 日本サイコセラピー学会など、精神科領域で実践に活用している治療技法を検討する学会などに参加して、治療技法の理解を深める。
授業の形式	講義、ディスカッション
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%) 精神を病む人とその家族が必要としている治療的アプローチの技法について(40%)、卓越した精神看 護実践者が身に付ける治療的アプローチの技法について(30%)、多職専門家と技術を共有しそれぞれ の役割の遂行について(20%)、理解し易く記述する(10%)。
その他	

授業の概要	の見方から、安全 支援として、高度 1. 精神を病む人が	開講 講 単位 者に必要な精神 で、安心して治	学期 8 室 立数 を病む人々への	神看護理論、援 、西出順子 後期 一	対象学年 授業形態	1年				
クラス 曜日・時限 単位区分 授業の概要	卓越した看護実践の見方から、安全 支援として、高度 1. 精神を病む人が	講 単化 者に必要な精神 で、安心して治	学期 8 室 立数 を病む人々への		1 7 7 7 7	•				
曜日・時限 単位区分 授業の概要	卓越した看護実践の見方から、安全 支援として、高度 1. 精神を病む人が	講 単化 者に必要な精神 で、安心して治	髪室 立数 を病む人々への	後期	1 7 7 7 7	•				
単位区分授業の概要	卓越した看護実践の見方から、安全 支援として、高度 1. 精神を病む人が	単作 者に必要な精神 で、安心して治	立数を病む人々への	_	授業形態	## ¥				
授業の概要	卓越した看護実践の見方から、安全 支援として、高度 1. 精神を病む人が	 者に必要な精神 で、安心して治	を病む人々への			講義				
授業の概要	の見方から、安全 支援として、高度 1. 精神を病む人が	で、安心して治		選択 単位数 2 単位						
		, 本人以 日 [2] 女	卓越した看護実践者に必要な精神を病む人々への精神看護理論と援助技法を学ぶ。精神を病む人の物の見方から、安全で、安心して治療・看護を受け、社会に適応的に、そして自立して生活するための支援として、高度な実践者に必要な看護理論と援助技法を学ぶ。							
	3. 精神看護専門看	1. 精神を病む人が必要としている精神看護理論を理解する。 2. 精神を病む人が安全で安心して回復に迎えるための援助技法を学ぶ。 3. 精神看護専門看護師として精神看護理論と援助技法との関連を理解し、説明できる。								
	精神看護学を支え 得する。 	る看護理論と援	助技法について	理解を深め卓越	した看護実践者のた	上めの教育力を修				
	ペフロー、ト のか、その課		1玉子の対人関係 いて文献検討と	理論が、実践の本験事例を基に)場で信頼でき対人 対議する。対人関係					
授業計画		用できる看護理 第一段階である			支法の特徴	(川野				
-	3 精神看護に活用できる看護理論(対人関係理論)第二段階 対人関係論の第二段階である「関係の発展の時期」に必要な援助技法の特徴 (川野)									
	4 精神看護に活 対人関係論の な援助技法の		倫(対人関係理論 「関係の終結のB)第三段階 新一新たな人と	この出会いへの橋渡					
			A ()			(川野				
	5 精神看護に活用できる看護理論(ヒューマンケアリング) ジーン・ワトソンのヒューマンケアリング理論が、精神を病む人と医療者との間で信頼できる関係 形成の理論になるのか、その課題と妥当性について文献検討と体験事例を基に討議する。 (川野、西出)									
		用できる看護理 アリングの理論			助技法 系で用いる技法を、(
-	7 精神看護に活	田できる寿蓮理	益(ヒューマニス	ティックナーシ	ハノガ)	(川野、西出				
	7 精神看護に活用できる看護理論(ヒューマニスティックナーシング) ジョセフィン・ピーターソンとロレッタ・ヅデラードのヒューマニスティックナーシングの理論 が、精神を病む人と医療者との間で信頼関係構築の理論になるのか、その課題と妥当性について文献検討と体験事例を基に討議する。 (川野)									
		ティックナーシ			ング)-援助技法 3人に適応する援助					
		院した患者が服 役割について討		ための工夫と技行	析に関する文献と体					
	(川野) 10 日常生活技能訓練(SST) SSTの目的、対象、方法、評価方法を講義する。実施したSSTの体験事例からその効果と課題を討議する。									
-	11 心理教育 心理教育の目 と課題を討議		評価方法を講乳	をする。実施した	上心理教育の体験事	(川野、西出 例から、その効場 (川野				
	12 精神科訪問看 精神科訪問看	護 護の目的、方法、 技術の特殊性を			人、受診継続、服薬 見とケアの受け手に (川野・ゲ	継続、日常生活习				

授業計画	13 退院支援 退院支援の技法を文献と体験事例を基に検討する。最も課題になることは何かを明らかにし、その ために入院中にできる治療技術を退院支援の立場から討議する。英国で実施しているピアサポータ 一の積極的活用について、日本の精神医療での課題について検討する。 (川野)
	14 地域移行支援 地域移行支援を実際に行っているCNSをゲストスピーカーに招き、実践例を紹介してもらい、課題 と精神看護専門看護師ができる役割と機能について討議する。
	(川野、ゲストスピーカー)
	15 卓越した精神看護実践者が行う様々な援助技法と看護理論の関連性 看護理論と援助技法との関係を理解し、説明できる。 (川野、西出)
テキスト	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会
・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ
9.76	福口輝彦著(2016):今日の精神科治療指針 第2版、医学書院
	浦部晶夫、島田和幸(2017):今日の治療薬 2017、南山堂
	西園昌久総監修、池淵恵美監訳 (R. P. Loberman 著) (2008): リバーマンのリハビリテーション・マニュアル、星和書
	店 ENVERTING COOKER STATE TO THE TENT OF T
	厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。
	白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版
	川野雅資(2017年発刊予定):トラウマインフォームドケア、精神看護出版
	日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院
	菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkington ら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック
	私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店
	大島巌、加藤大慈(2015): IMR 入門、IMR
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press
予習・復習に ついての情報	(事前学習) 臨床で実践している援助技法についてまとめておく。精神看護の理論を復習する。(事後学習) 臨床で実践している援助技法を精神看護の理論で説明する。
授業の形式	講義、ディスカッション、実践報告、事例検討、ゲストスピーカー
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	課題レポート(100%) 様々な看護理論と援助技法の中から、これまでの実践例を紹介し文献検討を加えて、自分が最も大 事にしている考え方(40%)と援助技法(40%)について、一貫性を持って論述する(20%)。
その他	

					27			
科目名	地域移行支援精神看護学特論							
担当教員		,	川野雅資、西出順子					
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	<u> </u>	授業形態	講義			
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数	単位数 2 単位					
授業の概要	専門看護師として、主に1年以上入院している精神を病む人に対して、家族関係、社会資源、潜在能力、リカバリーをアセスメントし、その人が安心して地域生活に移行できる看護を実践する能力を身に付ける。							
授業の目標	1. 地域移行支援の対象と支援。 2. 長期入院患者の日常生活能力、社会適応能力を理解し、支援する技術。 3. 長期入院患者の家族支援、地域の資源を理解し、連携して支援する技術。 4. 長期入院患者の潜在能力開発とリカバリーを支援する技術。 5. 地域移行支援機能強化・地域定着に関する取り組みと技法。 6. 地域移行支援を実践する時の他職種専門家との調整、コンサルテーションの技量。							
育成する能力	日本や諸外国のケアマネジ	メントモデル	を学び、ケアに関するマ	ネジメント力を修得	事する。			
	1 地域移行支援の対象とす 1年以上の長期入院精神 早期対応とピアサポータ	障害者及び、	未受診・受療中断等の精	神障害者に対する	支援。 (川野)			
	2 長期入院患者が体験して 日常生活能力と社会適成 文献検討と体験事例から	な能力を高める	所能力と社会適応能力向」 なために必要な、直接ケン		新、SSTについて (川野)			
		浅管理、趣味、	極応能力向上の技術 実践 日中の過ごし方、友人、 見を実践例から検討する。	電話、インターネ				
		ーション、就	爱、地域の資源の理解 対移行・就労継続支援、 近次について、文献検討、					
授業計画	とを文献検討、体験事例	の専門職と医 引から討議し、	療以外の専門職、非専門 それらの専門職・非専門 コンサルテーションに	職の効果的な連携	を支援しているこ			
		を向けずに、	発 様々な体験を共にするこ □関して、文献検討と体					
	7 長期入院患者のリカバリ IMR・疾病管理とリカバ		5技術 (ストレングスモ 育の手法についてテキス		基づく心理教育)(川野、西出)			
	8 長期入院患者のリカバリ 実践例 IMR・疾病管理とリカバ		5技術 (ストレングスモ を例示し、その成果と課		基づく心理教育)			
	9 地域移行支援機能強化病 地域移行機能強化病棟の 料、文献から学ぶ。精神	F棟での精神₹ ○施設基準、値 □科認定看護師		幾能 支援、看護師が行う 明待について討議す	支援について資			
	サポーター、症例検討会 の役割と機能に関して理	后能力、住居確 会の実践活動を 理解を深める。	怪、退院後の医療確保な CNSのゲストスピーカー	xどのために実践す ·に報告してもらい、				
	11 地域定着への支援 ACT 英国、米国、日本のACT で実施する上での課題と	の実際とその	課題について、見聞報告		から討議し、日本			
	12 地域定着への支援 ACT ACTを実践しているゲスい対象への支援技術、圏する。	(包括的地域4 トスピーカー E療受けたいと		形成の技法、服薬 繋ぐ技術を学び、そ	を必要と思わな			
	13 ケアマネジメントモデバ 英国、米国、日本のケア し、有効性と課題につい	ママネジメン	、モデルの実際について、	見聞録、文献、体	・験事例から討議 (川野)			

	14 長期入院患者が再発、再入院を防止するクライシスプラン
	患者と共に作成するクライシスプランとは何か、クライシスプランの活用支援の方法について理解
	する。 (川野)
	V127
極業計單	15 とは、とは、大きなないとは、「「「は、ない」とは、「は、ない」とは、「は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
授業計画	15 卓越した精神看護実践者が、長期入院を続けている患者とその家族の見方、考え方、ニードを満た
	す技法の臨床応用可能性についてこれまでの学習内容を振り返り、討議し、自分の考えを明確にす
	る。精神看護専門家看護師として必要な、調整、倫理調整、教育、研究、コンサルテーションの役
	割を討議する。 (川野、西出)
テキスト	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会
・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベル
	トヒロカワ
	ロログラ 川野雅資総編集(2017):精神看護キーワード、日本看護協会出版会
	The state of the s
	福川摩耶、宇佐美しおり、野末聖香、他(2014):精神障害者への精神科ケア・マネジメントチーム及び
	チーム内における精神看護専門看護師(CNS)の役割と評価、熊本大学医学部保健学科紀要、10,27-35
	安藤満代、川野雅資、谷多江子、他(2015):精神障がい者が病院から地域へ移行する思いの理解、イン
	ターナショナルNursing Care Research, 14(1), 81-88
	河東田博(2009):ノーマライゼーション原理とは何か:人権と共生の原理の探求、現代書館
	厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。
	http://www/mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-K
	ikakuka/000051138.pdf
	厚労省(2017):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策。
	http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12301000-Roukenkyoku-Soumuka/0000052710.pdf
	宇佐美しおり、中山洋子、野末聖香、他(2014):再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実
	態、日本精神保健看護学会誌、23(1), 70-80
	宇佐美しおり、吉田智美、高山良子、他(2015):在宅療養移行支援(Transitional Care)における専門
	看護師の活動実態と評価、看護、67(7), 78-90
	園田順一(2010):ACTとは何か、吉備国際大学臨床心理研究相談所紀要、7号、45-50
	川野雅資(2018):トラウマインフォームドケア、精神看護出版
	C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999): Advanced Practice Nursing in Psychiatric
	and Mental Health Care, Mosby
予習・復習に	(事前学習) 地域移行機能強化病棟に関する法律と実践例の報告を調べる。患者と家族、地域の保健
ついての情報	医療福祉サービスの立場からの体験談や地域移行に係ることをどのように受け止めたの
JV CVJIH TK	かという研究報告を調べる。
	. = 2 ///=10.10 = 0.4 = 0
	(事後学習) 地域移行機能強化病棟で生じうる倫理的課題についてまとめておく。
授業の形式	講義、ディスカッション、実践報告、ゲストスピーカー、事例検討
評価の方法(am dat 1 10 1 (4000)
評価の配点比	課題レポート(100%)
率と評価の要	長期入院患者とその家族の課題と力のある側面を評価する技術(30%)とその技術を実践する方法
	(30%)に関して、多職種連携の視点から(20%)から一貫性のある記述(20%)をする。
点)	
その他	
· C 07 IE	
P	

科目名	急性期精神看護学特論							
担当教員			川野雅資、西出順子					
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	 1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	講義			
単位区分	 選択(CNSを履修するコース)	単位数		2 単位	BIT 924			
授業の概要	専門看護師として、急性期の状態にある精神を病む人に対して、その人と家族が安心して治療が受けられるアセスメントの視点と技術、そして早期に治療が受けられる支援、急性期の治療・看護を実践する能力を身に付ける。							
授業の目標	する能刀を身に付ける。 1. 病気を発症した時期に精神を病む人が体験している状態の理解と支援。 2. 精神を病む人と家族への早期介入、支援。 3. 急性期に安心して治療を受けることができる技術。 4. 患者や家族の反応や言動に対して陰性感情を抱く時の自己理解と自己の立て直し。							
育成する能力	急性期の精神看護学について	て理解を深め卓	直越した看護実践者のための	の実践力と教育ス	力を修得する。			
授業計画	2 名	と関するとは、「など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、など、な	をゲストに招き、実践の手討を基に討議をする。 して入院治療の場を受け入連携に討議をする。 して入院治療の場を受け入連携に対議する。 地域とはいる。とないので、急性期間では、急性期間では、急性期間では、急性期間では、急性期間では、一次のでは、一次では、一次のでは、一次のでは	る術験型の 国文 法 水文域 、護法 る るら 感解つ あに満 剤の家に事主体 手検 有 い検療 一が学 術 のい をのて こりす ので基理の 米を 性則地と担 ーー。 安 態め き標献 、す援 神 とや支 に解報 国行 と野地体う 救ダ 全 をの 起、検 そい、 科	献議 、 英、 題が携ってという。 と 、 英、 題が携ってという。 と 、 英、 題が携ってという。 と 、 英、 題が携ってでプローン・の、 は、			
	基に討議する。 12 急性期の状態にある患者	音への多職種専			(川野)			
	治療との関係性について	て文献検討と体	験事例を基に討議する。		(川野)			

	, ,
	13 急性期の状態にある患者の家族への多職種専門家による心理教育
授業計画	多職種専門家が実施する急性期の状態にある患者の家族への家族のニードに応える心理教育プロ
	グラム、実施方法、評価について文献検討と体験事例を基に討議する。 (川野)
	14 急性期の状態にある患者の家族への多職種専門家による心理教育の実践例
	多職種専門家が急性期の状態にある患者の家族への家族のニードに応える心理教育プログラムの
	実践例を紹介し、文献検討と体験事例を基に討議する。 (川野)
	15 卓越した精神看護実践者が、急性期の状態にある患者とその家族に支援する技法の臨床応用可能性
	これまでの学習から急性期の状態にある患者と家族が安心して治療を受けられ、早期に回復してい
	く支援のために、認定看護師や多職種専門家と協働して展開する、卓越した看護実践者の看護の考
	え方と知識、技術について討議する。 (川野、西出)
テキスト	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会
・参考書	南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ
	針間博彦監訳、P. French, et. al., 編著(2011):精神病早期介入、日本評論社
	法務省、厚生労働省(2014):心身喪失等の状態で重大な他害行為を行ったものの医療及び観察などに関する法律の
	施行の状況についての検討結果。
	http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002gk0i-att/2r985200002gk49.pdf
	池添志乃、田井雅子、中野綾美他(2011):倫理的判断を基盤とした抑制についての調査。日本看護倫理学会誌。3(1)
	西池絵衣子、三宅美智、末安民夫他(2013):全国の精神科病床を有する施設における行動制限最小化委員会の実態
	に関する調査 運営の在り方と看護職の役割、日本精神科看護学術集会誌、56(2), 266-270
	野田寿恵、杉山直也、三宅美智他(2013):行動制限の国際比較 日本フィンランド精神科急性期医療における隔離
	・身体的拘束研究から、精神科治療学、28(10) 1265-1271
	宇佐美しおり、田中美恵子、永井優子他(2014):精神科看護実践実線における倫理的課題と対処方法の実態、日本
	精神保健看護学会誌、23(1), 112-131
	川野雅資(2018):トラウマインフォームドケア、精神看護出版
	大西玲子、他(2012):スーパー救急病棟入院患者の家族が看護師に求めるケア、日本精神科救急学会誌、15,75-82
	日本神経精神薬理学会(2016):統合失調症薬物治療ガイドライン、医学書院
	「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル [2016年版] 、臨床精神科学第44巻増刊号
	C. A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al (1999): Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental
	Health Care, Mosby
予習・復習に	(事前学習) 急性期精神看護、スーパー救急病棟の看護に関する報告を調査する。患者と家族の立場
	(季前子首) ぶ住類情性有護、ヘーハー教志州保め有護に関する報告を調査する。患者と家族の立場 からの体験談や患者と家族がどのように医療・看護を受け止めたのかという研究報告を
ついての情報	
	調べる。陰性感情を抱く看護師への支援に関する文献を調べる。
	(事後学習) 精神看護専門看護師が実践している急性期の対象に対する調整、倫理調整、コンサル
	テーション、研究、教育の実践をまとめておく。
授業の形式	講義、ディスカッション、実践報告、ゲストスピーカー、事例検討
評価の方法(等用 内 、 よ
評価の配点比	課題レポート(100%)
率と評価の要	急性期の状態にある患者と家族が安心して医療を受けられる看護師の役割(40%)、ケア技術(30%)、
点)	多職種連携・地域連携(20%)に関して、論理的に記述(10%)する。
7007	
その他	
てり他	

						29				
科目名	精神看護学演習 I (精神科治療技法)									
担当教員		川野雅資、西出順子								
クラス		_	開講学期	前期	対象学年	1年				
曜日・時限		_	講義室	_	授業形態	演習				
単位区分		選択 単位数 2単位								
授業の概要	治療技術	卓越した看護実践者に必要な精神を病む人とその家族への治療的なアプローチの技法を身に付ける。 治療を受ける立場の人の視点から、多職種と連携した精神的な治療・回復に必要な様々な高度な治療 技法を修得する。								
授業の目標	2.	1. 精神を病む人が必要としている治療的なアプローチの技法を修得する。 2. 多職種と共同して提供する治療的なアプローチの技法を修得する。 3. 精神看護専門看護師としての実践への活用可能性を探る。								
育成する能力	様	々な精神科技法について	理解を深め卓越	した看護実践者のための	の実践力と教育力を	と修得する。				
	1	カウンセリングの基本技 共感、受容、自己一致の		る方法を演習で身に付け	ける。	(川野、西出)				
	2	カウンセリングの基本技 信頼、安心、依存、転程		例を基に実践的に理解す	-る。	(川野、西出)				
授業計画	3	1対1の短期精神療法 選来談者が最も相談したい身体状態、社会的状態をにして、面接者の判断を(一般的には6回から12屋べき課題と治療の頻度をて身に付ける。	いことを中心に と観察や問いかける ・来談者に伝える。 □)と頻度(一般	けなどの技法を用いてア 、面接者が出来る範囲を 的には週2回)を伝え、来	・セスメントし、来 ・来談者に伝えて、 ・ 談者の意向を優先	談者の精神状態、 談者の課題を明確 セッションの回数 して共に取り組む				
	4	1対1の短期精神療法 月 5回から10回のセッショ め、支持し、時には面接	ンで、取り組む そ者が別の方策	を提案するなど、面接者	の技法に応じた具	体的援助技法を活				
	5	用して、回復に向かう3 1対1の短期精神療法 糸	冬結期の技法			(川野、西出)				
		課題が解決することがラションで来談者は何をラジョンで来談者は何をラジョンで来談者は「あるか、面接すすめ、面接者は、今回で、関係を終結する技術	学んだか、何を何 後者に対して感]のセッション	修得した、今後同様な課 じたこと、改善した方が で自分自身が学習した事	題が生じたときに 良いことを表現で :、来談者に今後期	どのように今回の きるように会話を 待することを伝え				
	6	認知行動療法 自分の記								
		注意そらし法、アサーシ 知と行動、感情に気づく			ールテレイングで					
	7	認知行動療法 ワーク ABC法によるワークシー レイングで身に付ける。	トを用いて認知	叩行動療法を実践する技	法について体験事件	(川野)				
	8	家族精神療法 プログラ	ラムの立安			(川野)				
		仮定した患者の家族(例うつ状態)で外来通院し者と家族、など)を対象	えば、青年期で ている患者と家	マ族、引きこもり青年の.	患者と家族、成人類					
	9	家族精神療法 実施と言	平価 ①			(川野)				
		仮定した患者家族(例え 状態)で外来通院してい 家族、など)を対象に明	ば、青年期で急 る患者と家族、	引きこもり青年の患者	と家族、成人期の	発達障害の患者と				
	10	精神療法的アプローチ	宝駐却生 っ	ーパードジョン ①		(川野)				
	10	実践した長期精神療法的 改善が必要な点、来談者	ウアプローチを 音にとって安心	報告し、そこで使用して できる技法かどうか、に						
		り効果的で来談者にベネ	r / 1 ツ	公1又広と彫付りる。		(川野、西出)				
	1	Î.								

授業計画	11 精神療法的アプローチ 実践報告 スーパービジョン ② 実践した長期精神療法的アプローチを報告し、そこで使用している技法の有効性と限界、良い点と 改善が必要な点、来談者にとって安心できる技法かどうか、についてスーパービジョンを受け、より効果的で来談者にベネフィットがある技法を修得する。
	(川野、西出)
	12 精神療法的アプローチ 実践報告 スーパービジョン ③ 実践した長期精神療法的アプローチを報告し、そこで使用している技法の有効性と限界、良い点と 改善が必要な点、来談者にとって安心できる技法かどうか、についてスーパービジョンを受け、より効果的で来談者にベネフィットがある技法を修得する。
	(川野、西出)
	13 集団精神療法 プログラムの立案 仮定した集団(例えば、長期入院統合失調症患者、青年期で急性期の状態で入院した患者又はその 家族、外来通院している精神障害者又はその家族、など)を対象に実施する集団療法の治療目標、 技法を明確にする。
	(川野、西出)
	14 集団精神療法 実施と評価 仮定した集団(例えば、長期入院統合失調症患者、青年期で急性期の状態で入院した患者又はその 家族、外来通院している精神障害者又はその家族、など)を対象に明確にした集団療法の治療目標 、技法をロールプレイングで身に付ける。
	(川野、西出)
	15 卓越した精神看護実践者が行う様々な援助技法の臨床活用
	卓越した精神看護実践者が実施する治療的なアプローチの技法を臨床で活用する際の課題を明確にする。
	(川野、西出)
テキスト・参考書	野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ 狩野力八郎監訳G. 0. Gabbard著(2012):精神力動的精神療法:基本テキスト,岩崎学術出版社 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 日本家族研究・家族療法学会(2013):家族療法テキストブック、金剛出版 菊池安希子、佐藤美奈子訳、D. Turkingtonら著(2016):リカバリーをめざす統合失調症の認知行動療法ワークブック 私の「ふつう」を取り戻すための技法を学ぶ、星和書店
	武藤清栄訳、J.F.T.Bugental著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴EBMからNBMへ、金剛出版
	末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 C.A. Shea, L.R. Pelletier, E.C. Poster, et al(1999):Advanced Practice Nursing in Psychiatric and Mental Health Care, Mosby
	N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press
予習・復習に ついての情報	 (事前学習) ①N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Oper University Pressを事前に抄読する。②精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。 (事後学習) 治療的なアプローチの技法を臨床で実践したら、有効性と限界について文献を活用してまとめておく。教育の機会があれば実施し、その時の課題と学習したことが役立った内容をまとめておく。自分の臨床に必要な治療的なアプローチの技法を明確にしていく。
授業の形式	講義、演習、ロールプレイング、プログラム作成と発表、VTR、リフレクション、スーパービション
評価の配点比	課題レポート(100%) 自分の臨床に最も活用できる治療的なアプローチの技法を抽出し、その技法、目的、対象、方法、などを明確にする。実践可能な治療的なアプローチの技法か(40%)、患者と家族の視点から安心して受けられる治療的なアプローチの技法か(40%)、論旨が一貫しているか(20%)という視点で評価する。
その他	

科目名		精神看護学演習 Ⅱ	(精神看護理論、掛	爱助技法)	30			
担当教員	川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	演習			
単位区分	選択	単位数		2単位				
授業の概要	精神看護理論に支えられた卓越した精神看護実践者に必要な精神を病む人とその家族への様々な援助技法を身につける。精神を病む人の物の見方から、安全で、安心して治療・看護を受け、社会に適応的に、そして自立して生活するための支援として、高度な精神看護実践者に必要な援助技法を修得する。							
授業の目標	1. 精神看護理論に基づく する。 2. 患者と家族が信頼して 3. 精神看護専門看護師と	受けられる高度な援 しての実践への活用	助技法を修得する。 可能性を探る。					
育成する能力	精神看護学の実践を支え 実践力と教育力を修得す		助技法について理解	¥を深め卓越した看護	実践者のための			
	1 対人関係論に基づく技 対人関係論の発展段M		の実際についてロー	ルプレイングを用い	て修得する。 (川野、西出)			
授業計画	2 ヒューマンケアリング ジーン・ワトソンのとける。		ブの理論に基づく接	助技法の実際を、演習	習を通して身につ (川野)			
	3 ヒューマニスティック ヒューマニスティクラ ける。			助技法の実際を、演習	習を通して身につ (川野)			
	4 精神を病む人が安心 文献や資料を活用し、 支援プログラムを立刻	体験事例を含めて言						
	5 精神を病む人が安心 グ 立案したプログラムを 良い点と改善すること にする。プレゼンテー	を実施し、実行した打 とが必要な点を討議	支法とそのプログラ	ムの内容に関して、	学生、教員と共に けべき技法を明確			
	6 トラウマ・インフォー 臨床で実施可能なトラ 患者との共同の可能	ラウマ・インフォー、		0	(川野)			
	7 トラウマ・インフォー 立案したトラウマ・イ きかけるとしたら、と のように説明し、参加	, ンフォームドケアの ごこの誰に、どのよう	O内容の実現するた うに働きかけるか、					
	8 日常生活技能訓練(SS 仮定した(例えば、長 害者、など)対象に提 割を考えたプログラ。 (川野)	期入院統合失調症患 供するSSTの方法、打	者、急性期の青年基		っす慢性期精神障			
	9 日常生活技能訓練(SS 作成したプログラム の内容に関して、学生 ラムを立案し、改善	でロールプレイング? E、教員と共に良い点	まと改善することが					
	10 患者への心理教育 次定した対象(例えば神障害者、など)に提	、長期入院統合失調			(川野) で暮らす慢性期精 (川野)			
	11 患者への心理教育 第 作成したプログラム 、学生、教員と共に」	でロールプレイング						

改善すべき技法を明確にする。 授業計画	
W 2011011 1	(111 田子)
110 蛙抽む岸は鬼老の字体。のと理拗本、プロガラルの立安	(川野)
12 精神を病む患者の家族への心理教育 プログラムの立案 仮定した家族(例えば、急性期の統合失調症の家族、長期入院の精神障害者の家族、	対数の書年期
の患者の家族、患者が家庭で暴力行為があるために退院をためらう家族、など)を交	
育の方法、技法、環境、ルール、リーダーシップ、コ・リーダーの役割を考えたプロ	
する。	ンノムで下版
	(川野)
13 家族への心理教育 実施と評価	0.1537
作成したプログラムでロールプレイングを実施し、実行した技法とそのプログラムの)内容に関して
、学生、教員と共に良い点と改善することが必要な点を討議して、より良いプログ	
改善すべき技法を明確にする。	
	(川野)
14 精神科訪問看護	
患者と家族が安心して受けられる、精神科で必要な訪問看護の援助技法を整理し、記	坊問前から訪問
時、訪問後の援助技法を具体的に計画する。	
(川野、ゲス	トスピーカー)
15 卓越した精神看護実践者が行う様々な治療的なアプローチの技法の臨床活用	
卓越した精神看護実践者が実施する治療的なアプローチの技法を臨床で活用する際	の課題を明確
にする。	
	(川野、西出)
テキスト 野末聖香、宇佐美しおり(2007):精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会	
・参考書 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベ	
西園昌久総監修、池淵恵美監訳 (R. P. Loberman著) (2008): リバーマンのリハビリテーション・マニュ	ュアル、星和書
店	
C. A. Shea, L. R. Pelletier, E. C. Poster, et al(1999): Advanced Practice Nursing in Psychiat	tric and Mental
Health Care, Mosby	
稲田八重子監訳 (H. Pepulau著) (1973): 人間関係の看護論―精神力学的看護の概念枠、医学書院	
長谷川浩、川野雅資訳 (L. Zuderard,) (1983): ヒューマニスティックナーシング、医学書院 川野雅資、長谷川浩訳 (J. Watson著) (2003): ワトソン21世紀の看護論 ーポストモダン看護とポス	してガンな切ら
一	トモグンを超ん
大島巌、加藤大慈(2015):IMR 入門、IMR	
予習・復習に (事前学習) ①精神看護学特論IVの内容を復習しておくことと ②臨床で実践した援助	は注の何が右
からでは、	加入伝の門が有
(事後学習) 修得した援助技法を臨床に応用したら、文献を活用して課題と利点をまと	・めておくっ
タッフに教育をする機会があれば、その時の教育の技術をまとめる。	200 (40 (60))
■ 授業の形式 演習、討議、プログラムの発表、リフレクション、ロールプレイング、スーパーピジョ	ン
評価の方法 (課題レポート(100%)	
評価の配点比 自分の臨床に最も活用できる援助技法を抽出し、その技法、方法、ルール、リーダー	-シップ、など
率と評価の要 を明確にする。実践可能な内容か(30%)、精神看護の理論と整合性があるか(30%)、患者	
点) から安心して受けられるプログラムか(30%)、分かりやすいプログラムの記述か(10%)と	いう視点で評
価する。	
その他	\neg
CVIE	

					31			
科目名	精神看護学実習 アセスメント							
担当教員	川野雅資、西出順子							
クラス	_	開講学期	前期	対象学年	1年			
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	実習			
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数	2	2 単位				
授業の概要		それらアセス	/体状態、社会生活能力、退防 メントを統合し、精神看護専					
授業の目標	 精神を病む人を精神機能、身体状態、社会生活力、退院可能性、ソーシャルサポートなどの視点から総合的にアセスメントできる。 総合的なアセスメントから、患者の課題を特定し、持っている力と合わせて患者の長期目標、短期目標を設定し、看護計画を患者と共に計画し、実践できる。 ケースカンファレンスや家族との面談より、精神を病む人とその家族の現在の状態を総合的にアセスメントし、他職種専門家(精神科医・臨床心理士・作業療法士・社会福祉士・薬剤師など)と共に支援計画を立案し、実践できる。 							
育成する能力	精神を病む人とその家族の管育力を高める。	包括的なアセ	スメントを実践して卓越した	看護実践者の	ための実践力と教			
授業計画 テキスト・参考書	実習病院 ハートランドしぎさん 実習病院 ハートランドしぎさん 実習期間 7月25日から9月15日までの間の2週間 実習内容 ①複雑な問題を抱えた精神を病む人を1名ないし2名受け持ち、精神状態、身体状態、社会生活力、退院可能性、ソーシャルサポートなどの視点から総合的にアセスメントを行う。 ②総合的なアセスメントから、患者の課題を特定し、持っている力と合わせて患者の長期目標、短期目標を設定し、看護計画を患者と共に計画し、実践する。 ③他職種専門家からの情報やケースカンファレンスなどを通じて、精神症状やフィジカルアセスメントを行う。 ④ケースカンファレンスや家族との面談などを通じて、家族の疾患に対する理解や家族機能などをアセスメントし、家族をエンパワーメントする看護計画を他職種専門家と共に立案し、実践する。 ⑤1週目で受け持ち患者・家族のアセスメントを実施し、看護計画を立案する。その後、計画を実践し、評価、再アセスメントを行う。 4 カンファレンス ①実習病院の精神看護専門看護師と担当教員から定期的なスーパーバイズを受ける。 ②アセスメントの方法、適切な尺度の使用、アセスメント結果の判断のスーパーバイズを受ける。 ③看護計画の立案、実践、評価についてスーパーバイズを受ける。 融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10精神および行動の障害、医学書院							
予習・復習に ついての情報	(事前学習)精神看護学特論] (事後学習)学習した内容を問		習しておく。臨床で用いてい きる可能性を探索する。	るアセスメン	トを整理する。			
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的なスーパーバイズを受ける。							
評価の方法(評価の配点比 率と評価の要 点)	スーパーバイズをする精神系 (100%)	—— 看護専門看護	師の意見も参考にして実践場	面と実習レポ	ートで評価			
その他								

科目名	精神看護専門看護師役割実習								
担当教員	川野雅資、西出順子								
クラス	_	開講学期	後期	対象学年	1年				
曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	実習				
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数		2 単位					
授業の概要	精神看護専門看護師として、精神を病む人とその家族・介護者への支援を行うに当たり、組織、看護 管理者が期待する役割の理解を深める。精神看護専門看護師が活用している技法とその技法を用いる 根拠を理解し、役割に応じて使い分ける高度な臨床判断を学ぶ。								
授業の目標	1. 組織の中で精神看護専門 研究の6つの役割と機能の 2. 精神看護専門看護師の高原できる。 3. 医療チーム内で他職種と過 4. 倫理的問題に関して、倫理	の概要を理解す 度な臨床判断 と 重携ができ、相	ーる。 と技法を学び、実際に看護 目談・調整・教育などの役割	実践を行い、自	己の課題を明確に				
育成する能力	精神看護専門看護師が担う6 力を修得する。	つの役割につ	いて理解を深め卓越した看	護実践者のため	の実践力と教育				
授業計画 デキスト ・参考書	2 実習期間 1月末から3 実習内容 ①事前に教員及び精神看 ②施設のオリエンテーシ 知る。 ③精神看護専門看護師の テーション、調整、係 への見学、参画などを ④精神看護専門看。 はて意味づける。 4 カンファレンス・スーパ ①適宜、精神看護専門看 ②1・2週目終了時にた 野末聖香、宇佐美しおり(2007)	月末までの間 護事門看護け、 計算調を受け、 計算調をとい 論理調でで、 計算調でで、 計算調でで、 がでいる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の指導を受けて実習計画を 実習病棟の患者の生活支援 精神看護専門看護師の機能 育、研究)について、事例材 る。また、他職種との連携 技法を担当教員と精神看護 は はなりないに を開き、助言を受けながら シャリストに必要な理論と技法	: 立案する。 とケア実践活動 とと役割(直接が 食計会や症例カ りまたので、理解 専門看護師のス にける。 、実習を進める 、、実習を進める	についての概要を アア、コンサル ンファレンスなど 好を深める。 ーパーバイズを受 5。 出版会				
予習・復習に ついての情報	師に直接活動内容を聴ける機会を積極的に作る。								
授業の形式 評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要	(事後学習)学習した6つの役 実習。精神看護専門看護師と スーパーバイズをする精神和 (100%)	と教員から定期	用的なスーパーバイズを受り	ける。	ートで評価				
<u>点)</u> その他									

	T			33					
科目名	直接ケア実習								
担当教員	JII	川野雅資、西出順子							
クラス	用講学期	後期から前期	対象学年	1年~2年					
曜日・時限	- 講義室	<u> </u>	授業形態	実習					
単位区分	選択(CNSを履修するコース) 単位数		4 単位						
授業の概要	精神を病む人及び/又はその家族を総合的にし、実施し、評価することを学ぶ。	こアセスメントし、その紀	吉果対象に必要だ	な治療方法を選択					
授業の目標	1. 精神を病む人の精神状態、身体機能、社会しているセラピーを実施し、その効果を記2. 精神を病む人の家族が必要としているセラ	平価する。 ラピーを実施し、その効果	果を評価する。						
育成する能力	精神を病む人とその家族への治療技法を実践る。	桟して卓越した看護実践 者	者のための実践 力	力と教育力を高め					
授業計画	1 実習病院 ハートランドしぎさん、有馬高原病院、やまと精神医療センター、さわ病院 実習期間 3月1日から9月15日までの間の4週間(180時間) 対象患者又は家族 複数名(セラピーに応じて適切な対象者数を決める。) 学習内容 ①精神を病む人の精神状態、身体機能、社会面を総合的にアセスメントする。 ②対象の必要性に応じて精神療法、集団精神療法、家族療法などから効果的と判断できる治療技法を選ぶ。 ③選択したセラピーについて患者及び/又は家族に分かりやすく説明して同意を得る。 ④実施したセラピーの効果を評価する。 実習方法 ①実習前に担当教員と精神看護学演習 I・IIのセラピーの学習修得を確認する。 ②実習前に担当教員から実施するセラピーのスーパーバイズを受ける。 ③セラピーを実施する前に精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。 ④対象のアセスメントの結果を精神看護専門看護師と教員からスーパーバイズを受ける。 ⑤対象が必要としているセラピーを精神看護専門看護師と教員からスーパーバイズを受けて選択する。 ⑥選択したセラピーについて患者及び/又は家族の同意を得る。 ⑦精神看護専門看護師と共同してセラピーを実施する。								
テキスト ・参考書	- 1r = /I	1当教員と精神看護専門看) (2008) : リバーマンのリハヒ	ごリテーション・	マニュアル、					
	 狩野力八郎監訳(Glen 0. Gabbard 著)(2012):精神力動的精神療法:基本テキスト,岩崎学術出版社 白石裕子(2014):看護のための認知行動療法、金剛出版 宇佐美しおり、中山洋子、野末聖香、他(2014):再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実態、日本精神保健看護学会誌、23(1),70-80 武藤清栄訳、J.F.T.Bugental 著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店 加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴 EBM から NBM へ、金剛出版 末田清子、抱井尚子、田崎勝也、他編著(2011):コミュニケーション研究法、ナカニシヤ出版 N. Evans, B. Hannigan(2016):Therapeutic Skills for Mental Health Nurses, Open University Press 								
予習・復習に ついての情報	までに実施したセラピーの体験を	(事前学習)精神看護学演習 I・Ⅱの技術を復習する。精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。これまでに実施したセラピーの体験を整理する。 (事後学習)学習した治療技法の臨床への応用を探索する。							
授業の形式	実習。精神看護専門看護師と教員から定期的	りなスーパーバイズを受け	ナる。 						
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)		 D意見も参考にして実践場	 場面と実習レポー	- トで評価					
その他									

					34		
科目名	上級直接ケア実習						
担当教員	川野雅資、西出順子						
クラス	_	開講学期	通期	対象学年	2年		
曜日・時限	_	講義室	-	授業形態	実習		
単位区分	選択(CNSを履修するコース)	単位数		2 単位			
授業の概要	サブスペシャリティに応じて、複雑で解決困難な精神の課題を抱えている対象とその家族・介護者に対して、看護を展開するのに必要な精神看護専門看護師の臨床判断と治療技法を修得する。						
授業の目標	選択したサブスペシャリテス 家、地域の資源のスタッフの	と協働してア	セスメントし、介入し、評	平価する。			
育成する能力	選択したサブスペシャリテル 越した看護実践者のための多			惟な課題に対する看	護を実践して卓		
	1 実習病院 急性期精神看護をサブスペシャリティに選択した学生は、ハートランドしぎさん又は 有馬高原病院の急性期病棟、都立松沢病院又はスーパー救急病棟、さわ病院。 地域移行支援精神看護学をサブスペシャリティに選択した学生は、有馬高原病院の地域 移行支援機能強化病棟。 2 実習期間 4月から9月15日までの間に連続して2週間実習する。						
授業計画	ントする。ケア計画を5 5 実習方法 ①担当教員のスーパー/ ②実習病院の精神看護専	者が精神を病立案し、精神を な案し、精神を でイズを受ける では、	むことによって求めている 看護専門看護師が行う介入 に実習計画を立案する。 指導を受けて実施する。	を実行し、対象者			
テキスト	③適時、担当教員と精神看護専門看護師のスーパーバイズを受ける。 南裕子監修、宇佐美しおり(2010):精神科看護の理論と実践:卓越した看護実践をめざして、ヌーベルヒロカワ						
· 参考書	融道男編、World Health Organization(2005):ICD-10 精神および行動の障害、医学書院日本神経学会監修、American Psychiatric Association原著(2014):DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き、医学書院厚生労働省(2014):長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方略の今後の方向性。http://www/mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-122010000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/000 051138.pdf野田寿恵、杉山直也、三宅美智他(2013):行動制限の国際比較日本フィンランド精神科急性期医療における隔離・身体的拘束研究から、精神科治療学、28(10) 1265-1271 符野力人郎監訳(Glen 0. Gabbard 著)(2012):精神力動的精神療法:基本テキスト,岩崎学術出版社「臨床精神医学」編集委員会編(2015):精神科臨床評価マニュアル[2016 年版]、臨床精神科学第44巻増刊号武藤清栄訳、J.F.T. Bugental 著(2007):サイコセラピストの芸術的手腕、星和書店加藤敏(2005):統合失調症の語りと傾聴 EBM から NBM へ、金剛出版						
予習・復習に ついての情報	(事前学習)精神看護学特論Ⅲの内容を復習しておく。サブスペシャリティに応じて地域移行支援精神 看護学特論又は急性期精神看護学特論の内容を復習しておく。 (事後学習)臨床の場で学習した知識と技術を応用する。その体験をまとめておく。						
授業の形式	実習。精神看護専門看護師。	と教員から定	期的なスーパーバイズを受	乏ける 。			
評価の方法 (評価の配点比 率と評価の要 点)	スーパーバイズをする精神 ^ま (100%)	看護専門看護 「	師の意見も参考にして実践	長場面と実習レポー	-トで評価		
その他							

	川隆、 ~2年 演習
世	
曜日・時限 一 講義室 (指導教員に確認) 授業形態 単位区分 選択必修 単位数 8単位 8単位 8単位 8単位 8単位 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
単位区分 選択必修 単位数 8単位 「精神看護学分野」「在宅看護学分野」「育成看護学分野」の3分野にかかわり、学生が作品 概 要 「精神看護学分野」「在宅看護学分野」の3分野にかかわり、学生が作品 計画を基に具体的な研究へと導き、論文を完成させるための指導を行う。 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上をはかるために、科学的思考や論理的思考に研究活動を行える。 3. 研究を推進するにあたり確かな倫理観に裏付けられた研究的態度を身に付けることができ	演習
振 要 「精神看護学分野」「在宅看護学分野」「育成看護学分野」の3分野にかかわり、学生が作品 計画を基に具体的な研究へと導き、論文を完成させるための指導を行う。 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上をはかるために、科学的思考や論理的思考に 研究活動を行える。 3. 研究を推進するにあたり確かな倫理観に裏付けられた研究的態度を身に付けることができ	
概 要 計画を基に具体的な研究へと導き、論文を完成させるための指導を行う。 1. 研究計画書の作成に関する基本的な知識を説明できる。 2. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上をはかるために、科学的思考や論理的思考に研究活動を行える。 3. 研究を推進するにあたり確かな倫理観に裏付けられた研究的態度を身に付けることができ	
授業の目標 2. 専門看護領域の発展や専門知識・技術の向上をはかるために、科学的思考や論理的思考は研究活動を行える。 3. 研究を推進するにあたり確かな倫理観に裏付けられた研究的態度を身に付けることができ	えした研究
┃	きる。
育成する能力 する。	、力を修得
1回~30回 1. 在宅医療看護分野、育成看護学分野、精神看護学分野を取り巻く状況について関連 めプレゼンテーションを行い、研究的に取り組むべき課題を抽出する。 2. 課題に関連した国内外の研究論文をクリティークする。 3. 課題に関する研究状況を明らかにし、研究的に取り組むべき課題を精選する。 31回~60回 1. 課題に関する研究計画書の作成 2. 研究倫理委員会の審査申請書の作成 61回~90回 1. 研究対象者、施設などとの調整 2. データ収集・整理、分析 91回~120回 論文作成	文献をまと
(守本とも子) 在宅療養者とその家族の QOL 向上と自立をめざした看護実践について、最近の研究成果を 一する。そして、今後の在宅療養者とその家族への看護実践の在り方と課題解決のための するための研究指導を行う。	
(辻下守弘) 高齢者の運動習慣形成のための行動変容と高齢者の介護者を対象とした介護技術指導を目 動分析学的アプローチとその効果に関して研究計画から研究の実施、そして論文作成までを	
(服部律子) 子育て準備期から周産期、子育て期までの人々や母子に対する看護など次世代育成への支持 分野において、自ら課題を発見し、研究テーマを設定して研究に取り組み修士論文にまと& プロセスを指導する。	
(吉村雅世) 高齢者ケア及び高齢者の看護のナラティヴ・アプローチを取り上げ、対象理解や支援方法な研究、科学的な研究方法の習得、論文作成の指導を行う。	よどの
(堀内美由紀) 1831年 グローバル化,ダイバーシティなどをキーワードとして,長期に日本で生活をしてきた在日高齢化の課題,介護支援や在宅看護に関する国際比較,途上国における介護に対する家族の研究テーマを取り扱う。海外における調査に関する研究倫理や手順についても指導する。	
(西薗貞子) R2.441 (西」貞子) R2.441	っ検討を行

授業計画 (柴田政彦) 及び 慢性疼痛患者のアセスメント、有効な看護支援等に関して研究計画の立案、研究計画書の作成、研究 テーマ 遂行、研究報告書の作成までの研究指導を行う。 急増する慢性呼吸器疾患や、虚血性心疾患を有する人々の回復支援としての運動療法と生活支援に関 連する分野において研究テーマを設定し、一連の研究プロセスと研究発表の方法、ならびに論文作成 を指導する。 (松浦純平) 成人看護学領域急性期(クリティカル)分野において、特に術後せん妄に関する研究課題を中心に、 量的研究と質的研究のミックスメソッドであるテキストマイニング法を用いて修士論文を完成するた めの研究指導を行う。 (美甘祥子) 新しい生命を産み育てる母親とその家族や、各ライフステージにある女性とその家族の健康課題・問 題に関する研究課題について、修士論文の完成に至るまでの研究プロセスを指導する。 (小林由里) 新人看護師を含む看護師のクリティカルシンキング能力、看護実践能力に関するテーマについて、研 究課題の明確化や研究方法の検討など研究をまとめるにあたり必要な指導を行う。 テキスト ・参考書 特に指定しない。 予習・復習に ついての情報 看護関連の課題について問題意識を持って学ぶ姿勢をもつ。 授業の形式 個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション 評価の方法(評価の配点比 文献レビュー (20%) 研究方法の妥当性 (20%) 論文の完成度 (60%) 率と評価の要 点) その他

※2020.4.1 現在

を力、患者及び家族と看護師との関係性に影響する要因、などに関して高度な看護技術と知識を備えた精神看護師に必要な現象、技法、などに関してこれまでの実習記録とスーパービジョンの記録を振り返り、課題研究にふさわしいテーマを抽出する。学生同士でのプレゼンテーションを行い、テーマの生成に示唆をえる。 16回~20回 文献検討 テーマに関連する、国内外の文献を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検討を行う。 21回~30回 課題に関する研究計画書の作成、提出。研究倫理委員会への審査申請書の作成。31回~40回 テーマに関する実践場面の抽出を文献と照らし合わせて考えを深める。41回~60回 論文作成 課題研究論文を論文の形式に従って記述する。 研究テーマの抽出 実践の中で生じる課題を抽出する。 文献検討 テーマに関連する文献を看護学、精神医学、心理学、社会福祉学、薬学などから探索する。必要があれば海外の文献を探索する。 計 議 担当教員、学生同士で討議してテーマを深める。 倫理委員会 研究計画を倫理委員会に提出して承認を得る。						36			
世校区分	科目名	課題研究							
理印に分 選択が (CNS が) 単位数 4単位	担当教員			川野雅資、西出順子					
単位区分 選択必修(CNS必修) 単位数 4単位 特神希護学業智で取得した精神希護専門希護師の技法について、理論的、広範囲な支統からクリティークし、実践を概念化し新たな技法も開発、看効性の検証又は理論開発を行い、課題研究的論文を完成するための研究指導を行う。	クラス	_	開講学期	通期	対象学年	2年			
接来の概要 技業の概要 技業の形態 技業の日標 特性香葉学業習で取得した精神名識等門看護師の実践の検証又は理論開発を行い、課題研究の論文を完成するための研究指導を行う。 技業の日標 2 研究・一くに、まれまな時間を、有効性の検証又は理論開発を行い、課題研究の論文を完成するための研究指導を行う。 1 学習内容の中から、精神電談専門看護師の実践の中で生じる課題研論文をとしてまとめる。 研究の遂行は手う研究協力をはしめ研究フィールドにおける関係する職性とのマネジメント力を修得し、研究の遂行は手う研究協力をはしめ研究フィールドにおける関係する職性とのマネジメント力を修得し、研究の遂行は手う研究協力をはしめ研究フィールドにおける関係事業を使して、関する参介力を修得し、研究の遂行は手う研究協力をはしめ研究フィールドにおける関係事業を作う意思を修行する。 1 回~15 回 テーマの担扣 精神活動学実習の実践で体験した患者及び実態の状態に応じた看護支援方法及び高度な出版を検索を表し、発力のの関係性に影響する要別、などに関して高度な看護技術を対象を検索を表し、アーマンの主命を使り返り、課題研究にふさわしいアーマを抽出する。学生同士でルーバービジョンの記録を振り返り、課題研究にふさわしいアーマを抽出する。学生同士でルーバービジョンの記録を振り返り、課題研究にふさえる。「16 回~20 回 文献検討 アーマに関連する、国内外の文献を検索し、アーマとの類似と相違を引能にする文献検討 アーマに関連する実践場面の相出を文献を有意な、表生ある。 41 回~60 回 論文作成 課題研究論の作成、提出、研究論の理委員会に発出して示意を探索する。 41 回~60 回 論文作成 課題研究論を企業を論文の形式に接つて記述する。 研究計画を関する研究計画を健康支付会な様の主義と保護力で、体験の主義ととての質を高めるために、担当教員、学年同士で対策してテーマを保める。 他理委員会の表示としての意象を提出して承認を得る。 修士論文としての質を高めるために、担当教員、精神看護専門者護師、学生と定期的に対議する。 (川野雅智) 急性精神修告者とその家族文は地域移行支援機能強化的様に内臓に入院中の長期人院特神修告者とその家族の主に対した情報の実施した自めのケア技術を、文蔵の題がに時間の設定をする。 (川野雅智) 急性研究計画を関する研究計画を健康支持会に使用した事務を行る。 (川野雅智) 急性研究計画とともと変しのプレゼンアーション するの方法と 「素のの表」(課題研究論文・リサーチペーパー)を持って修士論文の評価基準と手順に従って評価(100%) デモスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	曜日・時限	_	講義室	_	授業形態	演習			
授業の展要 加するための研究指導を行う。 (授業の目標	単位区分	選択必修 (CNS必修) 単位数 4 単位							
接案の目標 2 研究アーマにふさわしい知見を得て、修士課程修丁に相当する課題研究論文をとしてまとめる。 研究の変荷に伴う研究協力者はこめ研究フィールドにおける関係する職種とのマネジメント力を修得し、研究への取り組みを通して臨床での看護実践に必要な課題探究力に関する教育力を修得する。 1 回~15 回 テーマの抽出 精神看護学実習の実践で体験した患者及び家族の状態に応じた看護支援方法及び高度な看達排との関係性に影響する要因、などに関して高度な習識とスカ、患者及び家族と看護師との関係性に影響する要因、などに関して高度な習識とスカ、患者及び家族と者護師との関係性に影響する要因、などに関して高度な習識とスーパービジョンの記録を被り返り、課題研究にふまわしいテーマを抽出する。学生同士でのプレゼンテーションを行い、デーマの生成に不要をえる。 16 回~20 回 課題に関する研究計画事の作成、提出、研究倫理委員会への審査申請書の作成。 31 同~46 回 論文作成 課題研究論文を論文の形式に従いる就を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検討を行う。 21 回~30 回 課題に関する研究計画事の作成、提出、研究倫理委員会への審査申請書の作成。 31 同~46 回 論文作成 課題研究論文を論文の形式に従って記述する。 研究テーマの抽出 実践の中で生じる課題を抽出する。 デーマに関連する文献を看護学、精神医学、社会福祉学、薬学などから研究テーマの抽出 実践の中で生じる課題を抽出する。 文献検討 「探索する」必要があれば作外の文献を探索する。 対策を対し、企業が計画を倫理委員会に提出して承認を得象。 横上教員、学生同士で討議してテーマを深める。 倫理委員会 研究計画を倫理委員会に提出して承認を得る。 インデジョンを指定としての意力の表に提出教員の方とよりので、対策を指定を行る。 インデジョンを指導を対して、複数の実施した自らのケア技術を、文献的実付けを討議して臨床通応可能について論文としてまとめる。 ブラクティスをエビデンスにする。 (四野種資) など、「理知順子) 者護の臨床のカウンセリング手法や技術に関する研究課題を設定して、論文を作成するための指導を行う。 これまでの実習記録を振り返る。自分の課題を強化する文献を自ら調べる。 他別計算と学生と教員へのプレゼンテーション デモルの情報 と発信の方法 (四野語を対する) 2 におまでの実習記録を振り返る。自分の課題を強化する文献を自ら調べる。 2 におまでの実習記録を振り返る。自分の課題を強化する文献を自ら調べる。 2 におまでの情報と学生と教員へのプレゼンテーション 2 におまでの実習記録を振り返る。自分の課題を強化した。 4 に対しないに対して協定を持力を表します。 4 に対して協定の情報を表します。 4 に対して協定の情報を表します。 4 に対して協定して協定の情報を表します。 4 に対して協定して協定の情報を表します。 4 に関いないに対して協定しているの情報を表します。 4 に対しないに対しませませまが表します。 4 に対しないに対して協定しているの情報を表しているの情報を表します。 4 に対しているの情報を表します。 4 に対しているの情報を表しているの情報を表します。 4 に対しているの情報を表しませませませませませませませませませませませませませませませませませませませ	授業の概要	ークし、実践を概念化し新 成するための研究指導を行	一クし、実践を概念化し新たな技法も開発、有効性の検証又は理論開発を行い、課題研究の論文を完						
1回~15 回 中一マの抽出 特神看護学東智の実践で体験した患者及び家族の状態に応じた看護支援力法及び高度 な名 選技術、君薬師の自己理解に基づく実践場面で気づいた君薬援助を行う際の内発的 な力、患者及び家族と看護師との関係性に影響する要因、などに関してこれまでの実習記録とス 一パービジョンの記録を行り返り、課題研究にふさわしいアーマを抽出する。学生同士でのプレゼンテーションを行い、テーマの生成に示唆をえる。 アーマ 16 回~20 回 文献除計 アーマに関連する、国内外の文献を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検 対して40 回 対して50 回 対して50 回 対して50 回 対して60 回 対して50 回 対して60 回 対しを50 回 対した50 回 対した60	授業の目標	2. 研究テーマにふさわしい	知見を得て、	修士課程修了に相当する課題	研究論文をと				
精神香護学実習の実践で体験した患者及び家族の状態に応じた看護支援方法及び高度な看護技術、看護師の自己理解に基づく実践場面で気づかた看護技師を行う無の外発的な力、患者及び家族を看護師との関係性に影響する要因、などに関して高度な看護技術を知識を構造と知識を備えた精神香護師に必要な現象、技法、などに関して高度な看護技術を知識を構造した。というの記録を援り返り、課題研究にふさわしいテーマを抽出する。学生同士でのブレゼンテーションを行い、テーマの生成に示唆をえる。 文献検討 テーマに関連する、国内外の文献を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検討を行う。 21 回~30 回 課題に関する策略場面の推出を文献と照らし合わせて考えを深める。	育成する能力								
・参考書 特に指定しない。 予習・復習に これまでの実習記録を振り返る。自分の課題を強化する文献を自ら調べる。 授業の形式 個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション 評価の方法(評価の配点比率と評価の要点) 課題研究論文(リサーチペーパー)を持って修士論文の評価基準と手順に従って評価(100%)	及び	1回~15回 テーマの抽出 精神看護学実習の実践で体験した患者及び家族の状態に応じた看護支援方法及び高度 な看護技術、看護師の自己理解に基づく実践場面で気づいた看護援助を行う際の内発的 な力、患者及び家族と看護師との関係性に影響する要因、などに関してこれまでの実習記録とスーパービジョンの記録を振り返り、課題研究にふさわしいテーマを抽出する。学生同士でのブレゼンテーションを行い、テーマの生成に示唆をえる。 16回~20回 文献検討 テーマに関連する、国内外の文献を検索し、テーマとの類似と相違を明確にする文献検討を行う。 21回~30回 課題に関する研究計画書の作成、提出。研究倫理委員会への審査申請書の作成。31回~40回 テーマに関する実践場面の抽出を文献と照らし合わせて考えを深める。41回~60回 論文作成 課題研究論文を論文の形式に従って記述する。 研究テーマの抽出 実践の中で生じる課題を抽出する、文献検討 アーマに関連する文献を看護学、精神医学、心理学、社会福祉学、薬学などから探索する。必要があれば海外の文献を探索する。 担当教員、学生同士で討議してテーマを深める。 修士論文としての質を高めるために、担当教員、精神看護専門看護師、学生と定期的に討議する。 伊定計画を倫理委員会に提出して承認を得る。 修士論文としての質を高めるために、担当教員、精神看護専門看護師、学生と定期的に討議する。 担当教員から定期的に指導を受ける。積極的に時間の設定をする。 (川野雅資) 急性期精神障害者とその家族又は地域移行支援機能強化病棟に入院中の長期入院精神障害者とその家族に対して、複数回実施した自らのケア技術を、文献的裏付けを討議して臨床適応可能について論文としてまとめる。ブラクティスをエビデンスにする。 (西出順子)看護の臨床のカウンセリング手法や技術に関する研究課題を設定して、論文を作成するための指導を							
ついての情報 授業の形式 個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション 評価の方法 (評価の配点比率と評価の要点) 課題研究論文 (リサーチペーパー)を持って修士論文の評価基準と手順に従って評価 (100%)		特に指定しない。							
授業の形式 個別指導と学生と教員へのプレゼンテーション 評価の方法 (評価の配点比率と評価の要 点)		これまでの実習記録を振り	返る。自分の	課題を強化する文献を自ら調	べる。				
評価の配点比率と評価の要点) 課題研究論文(リサーチペーパー)を持って修士論文の評価基準と手順に従って評価(100%)		個別指導と学生と教員への	プレゼンテー	ション					
その他	評価の配点比 率と評価の要	課題研究論文(リサーチペ							
	その他								